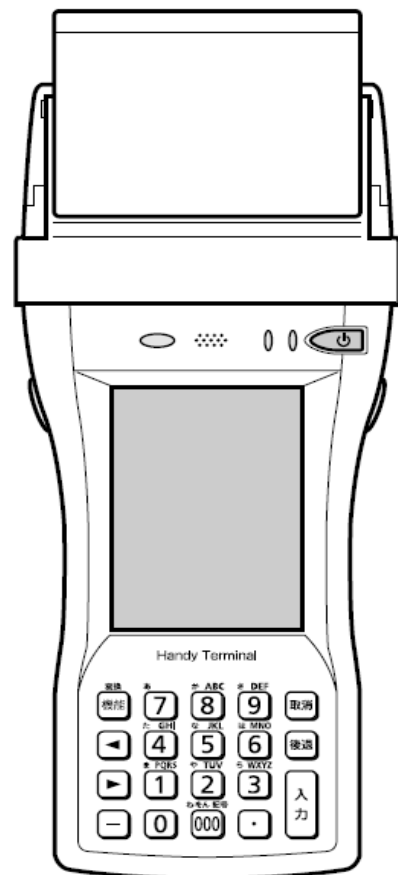


**CASIO**<sup>®</sup>

# DT-9800 シリーズ

## ソフトウェアマニュアル

このマニュアルは、DT-9800 のソフトウェアと搭載されているアプリケーションの仕様について記載します。



#### ご注意

- このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2009 カシオ計算機株式会社

Microsoft, MS, ActiveSync, Active Desktop, Outlook, Windows, Windows NT, および Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft 社の製品は、OEM 各社に、Microsoft Corporation の 100%出資子会社である Microsoft Licensing, Inc.によりライセンス供与されています。



# 目次

1.	概要	1
1.1	モデル名一覧	1
1.2	オプション一覧	1
2.	機能仕様	2
2.1	基本機能	2
2.1.1	Microsoft Windows CE Version 5.0	2
2.1.2	表示	10
2.1.3	タッチパネル	12
2.1.4	キー	14
2.1.5	オーディオ	24
2.1.6	メモリ管理	25
2.1.7	リセット処理	26
2.1.8	メモリ破壊チェック	27
2.1.9	LED	28
2.1.10	カード機能	30
2.2	SOBR	32
2.2.1	バーコード読み取り機能	32
2.2.2	シリアルバーコードリーダ機能設定	35
2.2.3	EEPROMへの設定値保存	47
2.3	プリンタ	49
2.3.1	オリジナルAPIによる印字機能	49
2.3.2	印刷システムによる印字機能	68
2.3.3	検出機能	71
2.3.4	エラー制御	73
2.3.5	レジストリ情報	74
2.3.6	ESCコマンド一覧	75
2.3.7	帳票作成のガイドライン	77
2.4	シリアル通信	78
2.4.1	仕様	78
2.4.2	COMポート	78
2.4.3	Wake On 機能	78
2.5	IrDA通信	79
2.5.1	サポート速度	79
2.5.2	COMポート	79
2.6	Bluetooth通信	80
2.6.1	基本機能	80
2.6.2	通信プロファイル	81
2.6.3	セキュリティ	82
2.6.4	COMポート	82
2.6.5	通信手順	83
2.6.6	プロファイルごとの通信手順	85
2.6.7	通信切断時処理	86
2.6.8	サスペンド/レジューム時処理	86
2.6.9	SRモードパラメータ設定	87
2.6.10	通信可能距離	87
2.7	通信カード	88

2.7.1	通信カードドライバ	88
2.7.2	カード電源投入切り替え	88
2.7.3	Wake On 機能	88
2.7.4	セキュリティ機能	89
2.8	電源制御	90
2.8.1	低電圧監視制御	90
2.8.2	電源ON要因	92
2.8.3	電源OFF要因	92
2.8.4	省電力制御	93
2.8.5	CPUパワーステート制御	94
2.8.6	充電／給電機能	95
2.9	セキュリティ	96
2.9.1	本体パスワード設定	96
2.9.2	日付と時計プロパティのパスワード設定	96
2.9.3	個別ID設定	96
2.9.4	代理店ID設定	96
2.9.5	メディアセキュリティ(オプション)	97
3.	コントロールパネルアプレット	98
3.1	システム	99
3.2	バージョン情報	101
3.3	地域	102
3.4	日付/時刻	104
3.5	所有者情報	105
3.6	ダイヤル	107
3.7	ネットワークとダイヤルアップ接続	108
3.8	インターネットオプション	112
3.9	証明書	117
3.10	ターミナルサーバーのクライアントライセンス	118
3.11	画面	119
3.12	明るさ	121
3.13	スタイラス	123
3.14	マウス	124
3.15	入力パネル	125
3.16	キーボード	126
3.17	IME設定	128
3.18	ボリューム&サウンド	129
3.19	記憶域マネージャ	130
3.20	アプリケーションの削除	135
3.21	プリンタ設定	136
3.22	PCとの接続	143
3.23	Bluetooth接続	144
3.23.1	デバイス一覧画面(起動画面)	144
3.23.2	サービス一覧画面(マスター接続画面)	147
3.23.3	マイデバイス画面(各種設定画面)	163
3.23.4	ショートカット操作	170
3.23.5	デフォルトデバイス操作	173
3.23.6	セットアップウィザード画面	175
3.23.7	注意事項	177
3.24	PC Card電源	178

3.25	パワーマネージメント	179
3.26	CPUスピード設定	182
3.27	パスワード	183
4.	アプリケーションプログラム	184
4.1	Internet Explorer	185
4.2	エクスプローラ	187
4.3	コマンドプロンプト	189
4.4	リモートデスクトップ接続	190
4.5	ActiveSyncクライアント	192
4.6	受信トレイ	192
4.7	メディアプレイヤー	196
4.8	ターミナル	197
4.9	Microsoft ワードパッド	199
4.10	ファイルビューア	200
4.11	バックアップツール	205
4.12	本体間コピー	211
4.13	電卓	214
4.14	プリンタ デモアプリケーション	217
4.15	FLCE	228
5.	ユーティリティ	229
5.1	Welcomeウィザード	230
5.2	自動セットアップ	231
5.3	自動復旧ツール	232
5.4	入力パネル(SIP)	234
5.5	IE Cache削除ツール	234
5.6	PocketIME	234
5.7	FCHKCE	234
5.8	メモリ設定ツール	234
6.	ホストアプリケーション	235
6.1	ActiveSync	235
6.2	Windows Mobile Device Center (WMDC)	235
6.3	LMWIN	235
6.4	FCHK	235

## 1. 概要

### 1.1 モデル名一覧

DT-9800 のモデル構成を以下に示します。

表 1-1

モデル	RAM	プリンタ
DT-9800M53	64MB	○
DT-9800M73	128MB	○

### 1.2 オプション一覧

DT-9800 のオプション構成を以下に示します。

表 1-2

項目	名称/機能	製品名
I/O ボックス	シリアル I/O ボックス	HA-B61IO
置くだけ充電器		HA-B30CHG
AC アダプタ	置くだけ充電器/シリアル I/O ボックス用	AD-S42120A AD-S42120B
充電電池パック		DT-9723LI
ケーブル	シリアル I/O ボックス-PC 接続用 USB ケーブル	DT-380USB
	シリアル I/O ボックス-PC 接続用 RS232C ケーブル	DT-887AXA
	本体-PC 接続用ケーブル	HA-B80AX
バーコードリーダー	ペン型 BCR	DT-9650BCR
	タッチ型 BCR	DT-9656BCR

## 2. 機能仕様

この章では、DT-9800 の機能仕様について説明します。

### 2.1 基本機能

#### 2.1.1 Microsoft Windows CE Version 5.0

DT-9800 は Microsoft Windows CE Version5.0 を搭載しています。

##### 特徴

- 使いやすいユーザーインターフェース
  - .NET CompactFrameWork 2.0 対応
  - 高速マルチタスク処理
  - 大容量メモリサポート
  - 豊富な周辺機器
  - オープンな環境による開発の容易性
  - AYGShell による Widnows Mobile アプリケーションの動作
- ※ PocketWord / PocketExcel といった Microsoft 製のアプリケーションは搭載していません。



## コアモジュール

搭載する Microsoft 製コアモジュールは、以下のとおりです。

表 2-1

Core OS Modules	
.NET Compact Framework 2.0	.NET Compact Framework 2.0
	.NET Compact Framework 2.0 String Resources
	.NET Compact Framework 2.0 String Localized Resources
	String Resources Japanese (JAPAN)
OS Dependencies for .NET Compact Framework 2.0	
C ライブラリ およびランタイム	String Safe ユーティリティの関数
	完全な C ランタイム
	標準の入出力 (STDIO)
	標準の入出力 ASCII (STDIOA)
	標準の文字列関数 - ASCII (corestra)
	例外処理とランタイム方情報に対する C++ランタイムサポート
LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) クライアント	
Microsoft Foundation Classes (MFC)	
SOAP Toolkit	クライアント
Standard SDK for Windows CE	
XML	MSXML 3.0
	XML コアサービスおよびドキュメントオブジェクトモデル(DOM)
	XML HTTP
	XML SAX
	XML エラー文字列
	XML クエリ言語(XQL)
	XML スタイルシート言語変換(XSLT)
	XML 最小パーサー
アクティブ テンプレート ライブラリ (ATL)	
メッセージキュー (MSMQ)	MSMQ ActiveX ラッパー
	SOAP リライアブル メッセージ プロトコル (SRMP)
コンポーネントサ ービス(COM およ び DCOM)	COM
	COM 記憶域
	OLE32 用 CoCreateGuid 機能
	DCOM

Applications - End User	ActiveSync	ファイル同期	
	CAB ファイル インストーラ/アンインストーラ		
	リモートデスクトップ 接続	リモートデスクトッププロトコル(RDP)	
		オーディオ再生リダイレクト	
		シリアルおよびパラレル ポート リダイレクト	
		ユーザー インターフェイス ダイアログ ボックス	
		切り取り/コピー/貼り付けクリップボード リダイレクト	
ファイル記憶域リダイレクト			
フィルタされたファイル記憶域リダイレクト			
Core OS Services	PNP 通知		
	カーネル機能	FormatMessage API	
		FormatMessage API - システム エラー メッセージ	
		ターゲット コントロール サポート (Shell.exe)	
		ファイバ API	
		メッセージ キュー - ポイント ツー ポイント	
	メモリ マップ ファイル		
	シリアル ポート サポート		
	ディスプレイ サポート		
	デバイス マネージャ		
	デバッグツール	ツールヒント API	
	バッテリードライバ		
	パラレルポートサポート		
	通知	UI ベースの通知	
通知 LED のサポート			
電源管理	電源管理(完全)		

Communication Services and Networking	サーバー	Web サーバー (HTTPD) コア サーバー サポート	
	ネットワーク - ローカルエリア ネットワーク(LAN)	ネイティブ Wi-Fi WLAN STA	
		ワイヤード (有線) ローカル エリア ネットワーク (802.3、802.5)	
		ワイヤレス LAN (802.11) STA - 自動構成および 802.1x	
	ネットワーク - パーソナルエリア ネットワーク(PAN)	IrDA	
	ネットワーク - 広域ネットワーク (WAN)	Telephony API (TAPI 2.0) Unimodem サポート	
		イーサネット上ポイント ツー ポイント プロトコル (PPPoE)	
		ダイヤル アップ ネットワーク(RAS/PPP) ダイヤルアップ ネットワーク用標準モデム サポート 自動ダイヤル	
		仮想プライベートネットワーク L2TP/IPSec PPTP	
		ネットワーク機能	IPSec v4
			NDIS ユーザー モード I/O ドライバ
			TCP/IP IP ヘルパ API
	TCP/IPv6 サポート		
	Windows ネットワーク API/リダイレクタ (SMB/CIFS)		
	Winsock サポート		
	ネットワーク ドライバ アーキテクチャ (NDIS)		
	拡張可能証明プロトコル		
File Systems and Data Store	システム パスワード		
	データベース サポート		
	ファイルシステム - 内部	RAM および ROM に適用されるファイル システム	
	ファイルおよびデー タベースの複製	ビット ベース	
	レジストリ記憶域	Hive ベースのレジストリ	
	圧縮		
	記憶域マネージャ	EDB データベース エンジン	
		FAT ファイル システム	
パーティション ドライバ			
記憶域マネージャ コントロール パネル アプレット			
Fonts	Courier New	Courier New (Subset 1_30)	
	Tahoma	Tahoma (Subset 1_07)	
	Times New Roman	Times New Roman (Subset 1_30)	
	Wingding		

International	ロケールサービス	各国語サポート (NLS)
	ロケール特定サポート	日本語
		フォント
		MS ゴシック、MS P ゴシックおよび MS UI Gothic
入力方式エディタ		
		Pocket IME
		人名地名辞書
		追加辞書
	入力方式マネージャ	
Internet Client Services	Pocket Internet Explorer HTML ビュー (WEBVIEW)	
	Windows CE 用 Internet Explorer 6.0 コンポーネント	Internet Explorer HTML/DHTML API
		Internet Explorer HTML アプリケーション
		Internet Explorer テーマ ライブラリ
		Internet Explorer プラグインイメージ デコーダ API
		Internet Explorer PNG イメージ デコーダ
		フィルタおよび翻訳
		Internet Explorer RPC サポート
		Internet Explorer TV スタイルナビゲーション
		カスタマイズ可能なフォント範囲
		固定幅レイアウト
		垂直のスクロール バーおよびイベントを使用不可能にする
		方向タブ
		Internet Explorer ブラウザ コントロール ホスト
	Internet Explorer 複数言語対応の基本 API	
	Internet Explorer 複数言語対応の完全 API	
	レジストリ内のオプションの文字セット/エンコード	
	URL モニカ サービス	
	Windows インターネット サービス	
	P3P (Platform for Privacy Preferences)	
Passport SSI 1.4 認証		
コントロール パネルの [インターネット オプション]		
Internet Client Services	スクリプト	JScript 5.6
		スクリプト エンコード (Jscript)
		スクリプト オーサリング (Jscript)
		VBScript 5.6
		MsgBox および InputBox のサポート
		スクリプト エンコード (VBScript)
		スクリプト オーサリング (VBScript)
ブラウザアプリケーション	Windows CE 用 Internet Explorer 6.0- 標準コンポーネント	
	Internet Explorer 6.0 ブラウザ	
	TV スタイルのナビゲーション コンポーネント	

Multimedia Technologies	オーディオ	Waveform オーディオ
		オーディオ圧縮マネージャ
		GSM 6.10 Codec
		MSFilter Codec
	グラフィックス	DirectDraw
		イメージング
		静止画像 Codec サポート(エンコードおよびデコード)
		静止画像エンコーダ
		BMP エンコーダ
		GIF エンコーダ
		JPG エンコーダ
		PNG エンコーダ
		静止画像デコーダ
		BMP デコーダ
		GIF デコーダ
		ICO デコーダ
		JPG デコーダ
		PNG デコーダ
		グラデーションのサポート
		オーディオ圧縮マネージャ
GSM 6.10 Codec		
MSFilter Codec		

Multimedia Technologies	メディア	DirectShow	ACM ラッパー フィルタ	
			DirectShow コア	
			DirectShow ディスプレイ	
			DMO ラッパー フィルタ	
		Windows Media Player	Windows Media Player	
			Windows Media Player OCX	
			Windows Media テクノロジ	ASX v1 および M3U ファイル サポート
				ASX v2 ファイル サポート
				ASX v3 ファイル サポート
				HTTP 上の Windows Media ストリーミング
				MMS 上の Windows Media ストリーミング
				NSC ファイル サポート
				Windows Media マルチキャス およびマルチ ビット レート
				ローカル記憶域からの Windows Media ストリーミング
				WMA および MP3 ストリーミング
		WMA および MP3 ローカル再生		
		オーディオ Codec およびレンダラ	G.711 オーディオ Codec	
			GSM 6.10 オーディオ Codec	
			IMA ADPCM オーディオ Codec	
			MP3 Codec	
			MPEG-1 レイヤ 1 および 2 オーディオ Codec	
			MS ADPCM オーディオ Codec	
			Wave/AIFF/au/snd ファイル パーサー	
			Waveform オーディオ レンダラ	
			WMA Codec	
			WMA Voice Codec	

Security	Microsoft 証明書登録ツールのサンプル	
	ローカル認証 サブシステム	パスワード ローカル認証プラグイン
	高度な暗号化 プロバイダのある 暗号化サービス (CryptoAPI 1.0)	Diffie-Hellman/DSS プロバイダ
		証明書(CryptoAPI 2.0)
		Personal Information Exchange 規格 (PKCS #12) 暗号化メッセージング (PKCS#7)
	資格情報マネージャ	
	認証サービス (SSPI)	Kerberos
		NTLM
		Schannel (SSL/TLS)
	Shell and User Interface	グラフィックス、 ウィンドウイング およびイベント
最小 GWES 構成		
最小ウィンドウ マネージャ構成		
最小入力構成		
シェル		AYGShell API セット
		グラフィック シェル
		標準のシェル
		コマンド シェル
		コマンド プロセッサ
		コンソール ウィンドウ
Shell and User Interface	ユーザー インターフェイス	Quarter VGA リソース - 縦モード
		コントロール パネル アプレット
		ソフトウェア入力パネル
		ソフトウェアベースの入力パネル(SIP)
		小さなスクリーン用 SIP
		ソフトウェアベースの入力パネルドライバ
		ネットワークユーザーインターフェイス
		共通コントロール
		共通コントロール
		共通ダイアログサポート

## 2.1.2 表示

### 基本仕様

QVGA(320\*240)表示をサポートします。

表 2-2

表示性能	65,536 色カラー 2WAY TFT (16bpp、Red: 5 bit, Green: 6 bit, Blue: 5 bit)	
表示サイズ	X方向	240 ピクセル(ドット)
	Y方向	320 ピクセル(ドット)

### バックライトの明るさ

システムライブラリ、またはコントロールパネルを使用して、バックライトの明るさの設定が可能です。

- 外部電源 (IO-BOX からの AC 電源供給) による駆動時とバッテリー駆動時の、それぞれ 9 段階で設定可能です。
- 1(最小)を設定した場合の明るさは、バックライト・オフになります。  
外部電源時のデフォルトは 9(最大)、バッテリー駆動時のデフォルトは 7 です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetBLBattery	バッテリー時の明るさの設定
SysGetBLBattery	バッテリー時の明るさの取得
SysSetBLEpower	AC 時のバックライトの明るさの設定
SysGetBLEpower	AC 時のバックライトの明るさの取得
SysGetBLMaximum	バックライトの最大値の取得

### バックライトの自動減光

コントロールパネルを使用して、自動減光する/しない、減光までの待ち時間の設定が可能です。

自動減光は、バッテリー駆動時のみ有効となります。外部電源駆動時には自動減光は行いません。

- 電源オンした状態で、キーやタッチパネルの入力を一切行わないで放置した場合 (アイドル時) には、節電のためにバックライトを自動的に減光します。
- 自動減光状態の場合は、キーやタッチパネルの入力により減光状態を解除して通常時の明るさに戻ります。
- 自動減光時のバックライトの明るさは、8 段階で設定が可能です。デフォルトは 3 です。

自動減光時の明るさを、通常時のバックライトの明るさよりも明るく設定することはできません。

デフォルトは、自動減光する/減光までの待ち時間 1 分です。



## バックライトの自動オフ

コントロールパネルを使用して、自動バックライトオフする/しない、バックライトオフまでの待ち時間の設定が可能です。自動オフは、バッテリー駆動時、外部電源駆動時ともに有効となります。

- 電源オンの状態で、キーやタッチパネルの入力を一切行わないで放置した場合(アイドル時)には、節電のためにバックライトを自動的にオフします。
- 自動バックライトオフ状態の場合には、キーやタッチパネルの入力により自動バックライトオフ状態を解除して通常の明るさに戻ります。
- バッテリー駆動時において、自動減光機能と自動バックライトオフ機能の両方を設定した場合、設定時間の短い方が有効となります。

デフォルトは、自動バックライトオフする/バックライトオフまでの待ち時間 5 分です。

## 温度センサーによるバックライトの明るさ制限

- 温度センサーにより、デバイスの温度が高温になったときに、自動的にバックライトの明るさに制限をします。
- 制限は 2 段階あり、制限の 1 段階目はバックライトの明るさ設定(9 段階)のうち、1~8 段階までの 8 段階までしか設定できないように制限がかかります。制限の 2 段階目は明るさ設定(9 段階)のうち、1~6 段階までの 6 段階までしか設定できないように制限がかかります。
- 通常時の明るさや自動減光機能における減光時の明るさ(バッテリー駆動時のみ)が、制限時の明るさの有効範囲(段階)よりも明るく設定されていた場合、自動的に制限範囲内の最大の明るさまで暗くなりますが、温度が下がって制限が解除されると自動的に元の設定の明るさに戻ります。

## 外光下における省電力モード

外光下のような明るい場所では、照度センサーがその明るさを感知して画面のバックライトを自動で消灯します。

これにより外光下で使用する場合の消費電力を低減します。

- 自動変更機能はコントロールパネル(または API)で ON/OFF できます。
- 自動変更機能は、外光強度が一定以上の明るさになった場合に機能します。5 秒間隔で読み取った照度により動作するので、急激な変化には反応しません。

## 画面 180 度回転表示機能

画面を 180 度回転して表示する機能をサポートします。

画面を 180 度回転しているときは、タッチパネルの座標系も回転したものになります。

- システムライブラリを使用して、アプリケーションからの設定が可能です。
- 90 度、270 度の回転はサポートしていません。
- Microsoft の `ChangeDisplaySettingsEx()` API による画面回転(オプション機能)はサポートしていません。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

<code>SysSet180Rotate</code>	表示画像の回転の設定
<code>SysGet180Rotate</code>	表示画像の回転の取得

## 2.1.3 タッチパネル

### 基本仕様

画面全域において、タッチパネルによる入力が可能です。  
タッチパネルは以下の分解能を持ちます。

表 2-3

分解能	X方向	240ドット
	Y方向	320ドット

- アプリケーションによりタッチ座標の取得や、ポインティング制御が可能です。
- 画面回転表示を行った際は、タッチパネルの座標もあわせて回転します。
- タッチパネルを使用する前には、必ず一度キャリブレーション操作を行う必要があります。

### タップ音

コントロールパネルを使用して、消音・小・大の設定が可能です。

### タップ&ホールド

Windows Mobile のように、画面をタップしたままホールドすることで、タップしたオブジェクトに応じたポップアップメニューを表示します。

### タッチパネル座標回転

画面の回転表示を行った場合には、タッチパネルの座標も回転します。

### キャリブレーション

キャリブレーションは、フルリセット後の Welcome ウィザード、および“機能”+“4”キーの押下で実行することができます。

経年変化、電圧、温度などによりキャリブレーションがずれる場合があります。その時は再度キャリブレーションを行ってください。

## SIP(ソフトウェアキーボード)入力

タッチパネルでの入力手段として、“機能”+“0”キーでソフトウェアキーボードを表示します。

指先入力を考慮して、MS 標準 SIP のほかに、カシオオリジナル SIP が用意されています。コントロールパネル、またはタスクトレイの SIP 切替アイコンで、SIP を切り換えることができます。

カシオオリジナル SIP の表示中は、「切替」キーでキーボードの種類を切り換えることができます。

### 1) MS 標準 SIP

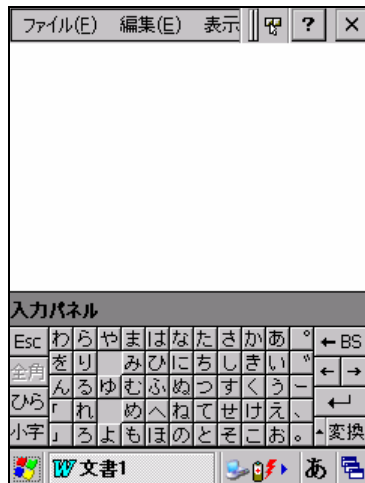


図 2-1

### 2) カシオオリジナル SIP



図 2-2

注意)

カシオオリジナル SIP はサイズが大きいため、文字入力域が画面中央部より下にあると、隠れてしまいます。文字入力域は、アプリケーション側で極力、画面上部に配置してください。

## 2.1.4 キー

キーは、テンキー、プログラムキー、電源キーから構成されています。

### キーレイアウト

DT-9800 のキーレイアウトを、以下に示します。



図 2-3

## キー割当て一覧

キーに対する機能の割当ては以下のとおりです。

※ 多くのキーは、“機能”キーの直後に押されると、特別な動作を行います。以下の表では、「“機能”キーが押された直後の状態」を「機能モード」と呼んでいます。

### ■制御キー

表 2-4

KEY	モード		動作仕様	備考
電源	—		電源 ON 時: 設定時間以上押されれば電源 OFF システムライブラリで OFF 禁止設定中はユーザーアプリにメッセージ通知	設定時間の最小値 500ms デフォルトは 1 秒
			電源 OFF 時: 設定時間以上押されれば電源 ON	デフォルト 1 秒
機能	—		特殊キー動作(トグル) ひらがな/カタカナ入力時のみ:変換(次候補) 機能モードへ移行	次のキーが入力されると、機能モードは解除
取消	文字入力モード時	1	ESC 動作	
		あ	ESC 動作(漢字変換時は変換取消)	
		ア	ESC 動作(漢字変換時は変換取消)	
		A	ESC 動作	
		a	ESC 動作	
	機能モード時	F	何もしない	
後退	文字入力モード時	1	バックスペース	
		あ	バックスペース(漢字変換時は変換取消)	
		ア	バックスペース(漢字変換時は変換取消)	
		A	バックスペース	
		a	バックスペース	
	機能モード時	F	何もしない	
入力	文字入力モード時	1	エンター	
		あ	エンター(漢字変換時は変換確定)	
		ア	エンター(漢字変換時は変換確定)	
		A	エンター	
		a	エンター	
	機能モード時	F	何もしない	
・	文字入力モード時	1	“.”	
		あ	“°”	
		ア	“°”	
		A	@,,"^ :;~	
		a	@,,"^ :;~	
	機能モード時	F	何もしない	
—	文字入力モード時	1	“-”	
		あ	“ー”	

		ア	"ー"	
		A	"-"	
		a	"."	
	機能モード時	F	以下の順に、入力モードを切り替え 数字("1") →ひらがな("あ") →カタカナ("ア") →アルファベット大文字("A") →アルファベット小文字("a")	
>	文字入力モード時	1	カーソル移動(右)	
		あ	カーソル移動(右) めくり動作中は文字確定	漢字変換時は文節 伸長
		ア	カーソル移動(右) めくり動作中は文字確定	漢字変換時は文節 伸長
		A	カーソル移動(右) めくり動作中は文字確定	
		a	カーソル移動(右) めくり動作中は文字確定	
	機能モード時	F	プリンタフィード(送)	
<	文字入力モード時	1	カーソル移動(左)	
		あ	カーソル移動(左)	漢字変換時は文節 短縮
		ア	カーソル移動(左)	漢字変換時は文節 短縮
		A	カーソル移動(左)	
		a	カーソル移動(左)	
	機能モード時	F	何もしない	

## ■プログラムキー

表 2-5

KEY	モード	動作仕様	備考
Lプログラ ムキー ／ Rプロ グラム キー	ー	押されたことをユーザーに通知することが可能 電源 OFF 時に押されれば電源 ON することも可能。 (システムライブラリより許可禁止)	

■テンキー

表 2-6

KEY	モード		動作仕様	備考
000	文字入力モード時	1	“000”	
		あ	わをんー。、「」～? ¥空白	
		ア	ワヲンー。、「」～? ¥空白	
		A	-_/^¥&=+\$%#*空白	
		a	-_/^¥&=+\$%#*空白	
	機能モード時	F	何もしない	
0	文字入力モード時	1	“0”	
		あ	0123456789	
		ア	0123456789	
		A	0123456789	
		a	0123456789	
	機能モード時	F	SIP の表示 / 非表示	
1	文字入力モード時	1	“1”	
		あ	まみむめも	
		ア	マミムメモ	
		A	PQRS	
		a	pqrs	
	機能モード時	F	バックライト ON / OFF	
2	文字入力モード時	1	“2”	
		あ	やゆよやゆよ	
		ア	ヤユヨヤユヨ	
		A	TUV	
		a	tuv	
	機能モード時	F	何もしない	
3	文字入力モード時	1	“3”	
		あ	らりるれろ	
		ア	ラリルレロ	
		A	WXYZ	
		a	wxyz	
	機能モード時	F	何もしない	
4	文字入力モード時	1	“4”	
		あ	たちつとっ	
		ア	タチツテッ	
		A	GHI	
		a	ghi	
	機能モード時	F	キャリブレーション起動	
5	文字入力モード時	1	“5”	
		あ	なにぬねの	
		ア	ナニヌネノ	
		A	JKL	
		a	jkl	
	機能モード時	F	バックライトを暗くする	
6	文字入力モード時	1	“6”	

		あ	はひふへほ	
		ア	ハヒフヘホ	
		A	MNO	
		a	mno	
	機能モード時	F	バックライトを明るくする	
7	文字入力モード時	1	“7”	
		あ	あいうえおあいうえお	
		ア	アイウエオアイウエオ	
		A	?!()<>[]{}	
		a	?!()<>[]{}	
機能モード時	F	以下のレジストリに登録したアプリケーションを起動 [HKEY_LOCAL_MACHINE¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD] Fn7LaunchPath:sz(起動するアプリケーションのパス)		
8	文字入力モード時	1	“8”	
		あ	かきくけこ	
		ア	カキクケコ	
		A	ABC	
		a	abc	
機能モード時	F	以下のレジストリに登録したアプリケーションを起動 [HKEY_LOCAL_MACHINE¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD] Fn8LaunchPath:sz(起動するアプリケーションのパス)		
9	文字入力モード時	1	“9”	
		あ	さしすせそ	
		ア	サシスセソ	
		A	DEF	
		a	def	
機能モード時	F	以下のレジストリに登録したアプリケーションを起動 [HKEY_LOCAL_MACHINE¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD] Fn9LaunchPath:sz(起動するアプリケーションのパス)		



## キーモードの切り替え

“機能”+“-”キーで、キーモードを切り替えることが可能です。

キーモード遷移を、部分的に抑止することも可能です。  
システムライブラリで、アプリケーションから設定できます。

例)

[1]→[あ]→[ア]→[A]→[a]→[1] (繰り返し) の順に切り替わるのを、[A]と[a]を抑止設定すると、  
[1]→[あ]→[ア]→[1] (繰り返し) の順に切り替わるようになります。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetEnableKeyMode 入力切替時キーモード遷移有効/無効の設定

SysGetEnableKeyMode 入力切替時キーモード遷移の有効/無効の取得

## キーモードの表示

タスクトレイに、現在のキーモードを表示します。

ロック (“L”) / 機能 (“F”) / 数字 (“1”) / ひらがな (“あ”) / カタカナ (“ア”) / アルファベット大文字 (“A”) / アルファベット小文字 (“a”) を表示します。

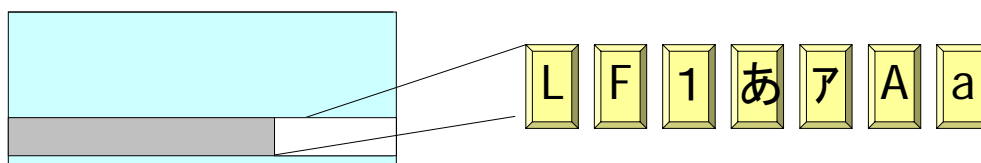


図 2-4

## めくりキー

ひらがな/カタカナ/アルファベット大文字/アルファベット小文字の入力モードの場合、文字キーを押すことで、カーソル位置でめくりキー入力が可能です。

めくりキー入力後、キーが離された時点から一定の時間が経過した場合、めくり文字を自動的に確定させることも可能です。有効/無効および確定までの待ち時間は、コントロールパネルで設定できます。

ひらがな/カタカナの入力モードの場合、機能キーにより文字変換が行われ、続けて押すと次候補が表示されます。“入力”キーにより、変換が確定されます。

文節移動は、“機能”+“<”キー、“機能”+“>”キーで行ないます。

文節の圧縮/伸張は、“<”キー、“>”キーで行ないます。

## キーリピート

「0」～「9」、「>」、「<」キーは、押し続けることでキーリピートします。

## クリック音

キーを押した時に、クリック音を出力します。キーを離した時とキーリピート中には、クリック音を出力しません。

クリック音の大きさは、コントロールパネルを使用して、消音／小／大の設定が可能です。

## 機能キー動作許可・禁止

機能モード時に特殊動作を行うキーについては、以下のレジストリで個別に許可/禁止の設定が可能です。

[HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD]

表 2-7

キー名	設定値	意味
DisableFn9	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn8	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn7	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn6	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn5	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn4	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn3	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn2	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn1	dword:0/1	許可/禁止
DisableFn0	dword:0/1	許可/禁止

※ 設定を反映させるには、レジストリの設定後、リセットが必要です。

## 機能モードの通知

“機能”キー押下時に、アプリケーションに対して WM\_USER+0x502 メッセージを送信します。これにより、アプリケーションは、機能モードの設定/解除を検知することが可能です。

## キーモード切替え動作の許可/ロック

システムライブラリを使用して、キーモード切替えの許可とロック(固定)を、アプリケーションから設定することが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

    SysSetFnKeyLock     Fn キー動作の許可/禁止の設定

    SysGetFnKeyLock    Fn キー動作の許可/禁止の取得

## キーモード切替えの通知

“機能”+“—”キー押下時に、アプリケーションに対して WM\_USER+0x506 メッセージを送信します。これにより、アプリケーションは、キーモードの変更を検知することが可能です。

## キーロックの許可/禁止

システムライブラリを使用して、電源キーとプログラムキー以外のキーの動作を、許可／禁止することが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetAllKeyLock	キーロックの許可/禁止の設定
SysGetAllKeyLock	キーロックの許可/禁止の取得

## ユーザ設定可能なキー

### アプリケーション起動

以下のレジストリを使用して、“機能”+“7”、“機能”+“8”、“機能”+“9”キーに任意のアプリケーションを割り当てることが可能です。

[HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD]

表 2-8

キー名	設定値
Fn7LaunchPath	sz: 起動対象のアプリケーションフルパス
Fn8LaunchPath	sz: 起動対象のアプリケーションフルパス
Fn9LaunchPath	sz: 起動対象のアプリケーションフルパス

### キーコード設定

システムライブラリを使用して、電源キーと機能キーを除くすべてのキーに、任意のキーコードを割り当てることが可能です。

システムライブラリ、またはコントロールパネルを使用して、キーコード設定の有効/無効を切り替えることが可能です。

設定したキーコードは、数字入力モード時のみ有効です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

    SysSetNormalUserDefineKey キーコードの設定(通常モード)

    SysGetNormalUserDefineKey キーコードの取得(通常モード)

### プログラムキーによる電源 ON/OFF 制御

システムライブラリを使用して、LプログラムキーまたはRプログラムキーを、電源 OFF 時からの電源 ON キーとして設定することができます。デフォルトの設定は、“電源 ON しない”です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

    SysSetBootup 電源 ON 有効/無効の設定

    SysGetBootup 電源 ON 有効/無効の取得

## 電源オフキー禁止と電源キー状態通知

レジストリ設定で電源オフキーを禁止することができます。システムライブラリで設定が可能です。  
OFF キー禁止中に電源キーが押されると、WM\_POWERBROADCAST (PBT\_APMSUSPEND) が発行されますので、アプリケーション側で SoftOff API を使用して電源 OFF する必要があります。  
電源オフキーを禁止するしないにかかわらず、APO は機能します。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysDisablePowerOff	本体電源 OFF 禁止の設定
SysEnablePowerOff	本体電源 OFF 許可の設定
SysGetPowerOff	本体電源 OFF 許可/禁止状態の取得

## 電源 ON 後、指定時間電源 OFF キー無効

電源 ON 直後、レジストリに設定した時間だけ電源オフキーを無効にします。(デフォルトは 5 秒)  
システムライブラリから設定可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetOffMaskTime	電源 OFF 禁止時間の設定
SysGetOffMaskTime	電源 OFF 禁止時間の取得

## プログラムキー入力割り込み無効

プログラムキーの入力割り込みを無効化することができます。  
無効化した場合、プログラムキーが押された状態でも他のキー入力を受け付けることができるようになります。  
システムライブラリで、アプリケーションから設定可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetEnableTriggerKey	トリガーキー有効/無効の設定
SysGetEnableTriggerKey	トリガーキー有効/無効の取得

## キーバックライト機能

コントロールパネルを使用して、テンキーのバックライトを点灯できます。  
暗所でのみ点灯するように、照度センサー制御に設定することができます。  
キーバックライトは、ディスプレイの減光に同期して消灯します。

表 2-9

アクション	設定条件		キーバックライト 無効
	照度センサー使用	照度センサー未使用	
キー/タッチパネル入力	点灯する(タイマーで消灯)		点灯している場 合、消灯する
明るい所から暗所へ移動	点灯する(タイマーで消灯)	変化なし	
暗所から明るい所へ移動	消灯する		

## 2.1.5 オーディオ

### 基本仕様

WAV 再生が可能です。

ヘッドフォン使用時には、スピーカからの再生を停止します。ステレオデータは、モノラルデータに変換して出力します。

Microsoft 社の SoftwareMixer の機能を使用することにより、複数のアプリケーションからの出力音声をミキシングして出力することが可能です。(44.1KHz 16 ビットステレオにミキシングします)

サウンド系アプリケーションとして、メディアプレーヤを搭載します。

これにより HTTP 上のオーディオ/ビデオファイルのストリーミング再生、ローカルファイルの再生が可能です。対応フォーマットは、WAV/MP3/WMA/WMV/MPEG4 (MPEG2 含む) です。

### 再生

表 2-10

	KHz	8	11.025	12	16	22.05	24	32	44.1	48
サンプリング 周波数	モノラル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ステレオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	上記以外のサンプリング周波数はサポートしない									
ステレオ/ モノラル	8 または 16 ビット ※モノラルスピーカのため、実際にはステレオになりません。									

### 音量設定

コントロールパネルを使用して、大/小 6 段階と、ミュートのオン/オフが設定可能です。

Win32 API を使用して、アプリケーションから設定することも可能です。

## 2.1.6 メモリ管理

### RAM

RAM の総容量は 64 MB または 128 MB であり、以下の目的に使用します。

- OS およびプログラムが使用するプログラムメモリ
- 一時的なファイルの保存などに使用するオブジェクトストア
- その他 OS 管理外プログラムや OS 常駐エリア
- 表示バッファ
- ドライバワーク

OS は RAM にロードした後に実行します。このため、従来に比べフルリセット時の RAM へのロード時間がかかります。

オブジェクトストアはユーザーが自由に使用可能ですが、電池の消耗などにより消えることがあります。オブジェクトストアはあくまでもテンポラリエリアとして使用し、重要なデータファイルなどは FlashDisk に格納してください。

コントロールパネルを使用して、ディスク容量を変更することが可能です。

表 2-11 初期状態

RAM 搭載量	メモリ	初期状態	
64 MB	プログラムメモリ容量	31.7 MB	7.4 MB 使用済み
	オブジェクトストア容量	31.7 MB	0.3 MB 使用済み
128 MB	プログラムメモリ容量	64.5 MB	7.4 MB 使用済み
	オブジェクトストア容量	64.5 MB	0.3 MB 使用済み

- RAM のうち、上記以外は OS 常駐エリア、表示バッファ、ドライバワークとして使用します

### FlashDisk

Flash Disk の総容量 96MB であり、64MB は OS バイナリ領域として使用し、残りの 32MB をユーザーディスクとして開放し、FlashDisk フォルダとしてアクセス可能です。

ユーザーディスクはアプリケーション/マスタデータ/トランザクションデータなど、ユーザーデータを自由に読み込み/書き込みすることが可能です。

FlashDisk フォルダは、RAM ディスクとは異なりバックアップ電力が不要なため、本体の電池が消耗した場合でも消えることはありません。RAM ディスクの重要なデータファイルなどは、電源オフ時に FlashDisk フォルダにバックアップしてください。

FlashDisk フォルダのフォーマットおよび管理は、コントロールパネル内にある「記憶域マネージャ」を使用します。

デフォルトでフォーマットした場合、FlashDisk フォルダの容量は約 29.5MB になります。(容量は FlashDisk の状態によって変化する可能性があります)

## 2.1.7 リセット処理

DT-9800 のリセット処理には、「ソフトリセット」、「フルリセット」、「パワーオンリセット」の 3 種類があります。それぞれの処理で初期化されるメモリは下表のとおりです。

	RAM		FROM ディスク	時計 (RTC)	その他	
	プログラム メモリ	オブジェクトストア (レジストリ等)			個別 ID	代理店 ID
ソフトリセット	初期化	保持	保持	保持	保持	保持
フルリセット	初期化	初期化	保持	保持	保持	保持
パワーオンリセット	初期化	初期化	保持	初期化	保持	保持

### ソフトリセット

本体裏面のリセットボタンを押した際の処理です。プログラムメモリを初期化します。リセットボタンは、作業中のデータ、書き込み中のファイルなどを破壊する場合がありますので注意が必要です。

### フルリセット

電源 ON 中に、“電源”キーと“取消”キーを押しながら、リセットボタンを 1 秒以上押すことで発生します。フルリセットの場合、消去して良いかを確認する以下のメッセージを 2 回表示します。

#### 1 回目

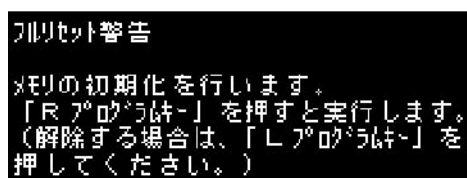


図 2-5

#### 2 回目

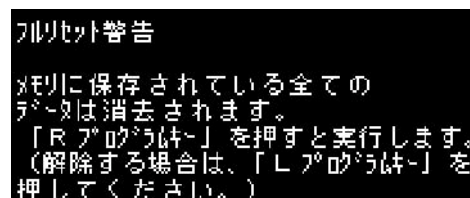


図 2-6

フルリセットの確認は、プログラムキーで行います。確認メッセージで 2 回とも R プログラムキーを押すと、ユーザーメモリ(オブジェクトストアとプログラムメモリ)を初期化(クリア)します。

### パワーオンリセット

外部電源(AC)の供給もなく、メイン・バッテリー、バックアップ・バッテリーともに装着されていない、放電状態の DT-9800 に、バッテリーを装着して電源 ON したときに発生します。RAM や時計を初期化してから、システムの再起動を行います。

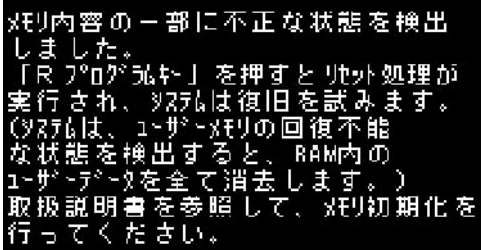


## 2.1.8 メモリ破壊チェック

Windows CE は、リセット時に RAM のデータの破壊を検出し、破壊を検出した場合には、ユーザーへの警告を行わずに無条件にそのメモリを初期化します。

ユーザーへの警告を行わずにメモリを初期化すること防ぐため、OS ブート時の処理に移行する前に、ドライバ内部のメモリチェック用データの状態をチェックします。

破壊を検出した場合には、復旧して良いかを確認する以下のメッセージを表示します。



メモリ内容の一部に不正な状態を検出しました。  
「R プログラムキー」を押すとリセット処理が実行され、メモリは復旧を試みます。  
(メモリは、ユーザーメモリの回復不能な状態を検出すると、RAM内のユーザーデータを全て消去します。)  
取扱説明書を参照して、メモリ初期化を行ってください。

図 2-7

復旧の確認は R プログラムキーで行います。

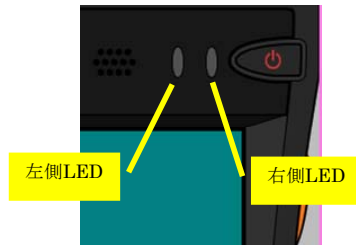
確認メッセージで R プログラムキーを押すと、リセット処理を実行し、復旧を試みます。

## 2.1.9 LED

### 基本仕様

LEDには、ユーザー通知用LED(右側)と充電完了LED(左側)の2種類があります。

左側LED  
・充電完了



右側LED  
・ユーザー通知用

図 2-8

表 2-12 LED 表示色

	色	意味
右側 LED	赤	ユーザー通知(アラーム)/ユーザー指定
	緑	ユーザー指定
	オレンジ	ユーザー指定
左側 LED	赤	充電中
	緑	充電完了

ユーザー通知用LEDは、OSによる各種通知と任意のユーザー通知を行うことが可能です。充電完了LEDは、ソフトウェアから制御することはできません。

### ユーザー通知(アラーム)

アラーム通知などに使用します。CeSetUserNotification() APIで特定時間にLEDを点灯することが可能です。

表 2-13 点灯仕様

	仕様
点滅間隔	赤 1秒点灯、2秒消灯
連続点灯時間	30分(VDET検出で停止)

## ユーザー指定

ユーザー指定の任意の通知に使用します。システムライブラリで指定できます。

表 2-14 点灯仕様

	仕様
色	赤/緑/オレンジを選択
点灯時間	点灯時間と消灯時間を設定

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysSetLED	LED の点灯/消灯の設定
SysGetLED	LED の点灯/消灯の取得
SysPrepareLED	LED 点灯の準備
SysUpdateLED	LED の点灯

## 2.1.10 カード機能

カードスロットは、PCMCIA スロットと SD スロットの 2 スロットがあります。

### PC カードスロット

#### 基本仕様

PCMCIA スロットは、PC CARD STANDARD Rev7.0 準拠 Type II 3.3/5.0V のカードに対応しています。メモ리카ードには、メディアセキュリティの機能が利用できます。(インストール対応)

#### 擬似カード挿抜機能

本機はカードをはめ込んだ状態で使用するため、通常は電源 ON でカードドライバが呼ばれ、カード電源が入ってしまいます。カードを使用しない場合でも常時電源供給されるため、電池の消耗が激しくなってしまいます。

消費電流を抑えるため、ユーザーアプリから擬似的にカード挿抜できる API を提供します。

不要時にはカードデテクト端子をディセーブルしてカード抜けの状態にし、必要時にはカードデテクト端子をイネーブル状態にします。

#### カード電源投入時のメッセージ削除

カード挿入時の電源投入メッセージを出しません。カードを使用する場合はユーザー側で注意してください。

## SD スロット

### 基本仕様

SD メモリカードに対応しており、メモリの拡張用・外部ストレージとして利用できます。

SDIO には対応していません。

SD カードは SDHC Ver2.0 に準拠し、2.7~3.6V のカードに対応しています。メディアセキュリティはインストール対応になります。

SDHC 規格の大容量カード(4GB~32GB)も利用可能です。

### ライトプロテクト

SD カードのライト・プロテクトに対応します。

SD カードのライトプロテクトスイッチがライトプロテクト状態の時には、書き込みはできません。

## 2.2 SOBR

この節では、SOBR(シリアル・オプティカル・バーコード・リーダー)ライブラリの機能仕様について説明します。

SOBR ライブラリは、以下の 2 種類のバーコードリーダーをサポートしています。

1. DT-9650BCR: ペンスキャナ
2. DT-9656BCR: CCD スキャナ

※ SOBR ライブラリはオプション機能です。初期状態の DT-9800 には、SOBR を動作させるためのドライバは入っていません。SOBR ライブラリのインストール方法については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

※ SOBR ライブラリの関数仕様については、「SOBR ライブラリマニュアル」を参照してください。

### 2.2.1 バーコード読み取り機能

SOBR ライブラリにより DT-9650BCR、DT-9656BCR からバーコードデータを読み取ることが可能です。

#### 読み取り可能データ種類

DT-9650BCR または DT-9656BCR から、以下の種類のバーコードデータを読み取ることができます。

##### ・DT-9650BCR

- WPC, WPC add on
- Industrial 2 of 5
- Interleaved 2 of 5 (ITF)
- CODE39
- NW-7(CODABAR)
- CODE11
- CODE93
- CODE128

##### ・DT-9656BCR

- UPC/EAN(JAN)
- UPC/EAN with サプリメンタル
- DTF
- ITF
- CODE39
- NW-7(CODABAR)
- CODE93
- CODE128
- MSI/Plessey

## データ読み取り方法

バーコードリーダを使用したバーコードデータの読み取りには、SOBR ライブラリ関数を使用します。バーコードリーダの使用に先立ち、バーコードリーダと DT-9800 の通信を確立するために関数「SOBROpen」を実行する必要があります。

バーコードデータの読み取りは、バーコードリーダのトリガーキーを押すと実行され、バーコードリーダ内のメモリに保存されます。バーコードデータがメモリに保存されると、DT-9800 はメッセージまたはイベントによる通知を行います。アプリケーションはこの通知を受けてから、データの読み出しを行うよう設計することを推奨します。

関数「SOBRStatus」を使用すると、保存されているデータ数と通信状態を確認することができます。アプリケーションはデータ受信通知を受けた後 SOBRStatus を使用して、保存されているデータ数を確認し、関数「SOBRReceive」を実行することでデータを取得することができます。

SOBRStatus を実行して通信エラーの発生を検出した場合は関数「SOBRClose」を実行してプログラムを終了した後、通信ケーブル等の確認を行い、再度 SOBROpen を実行する必要があります(※バッファフル: SOBR\_BUFF\_FULL は通信エラーに含まれません)。バーコードリーダの操作を終了する際は、バーコードリーダと DT-9800 の通信を終了させるために SOBRClose を実行してください。

以下にデータ読み取り時の、SOBR ライブラリ関数使用方法の一例を示します。

例) データ読み取り(メッセージ通知)

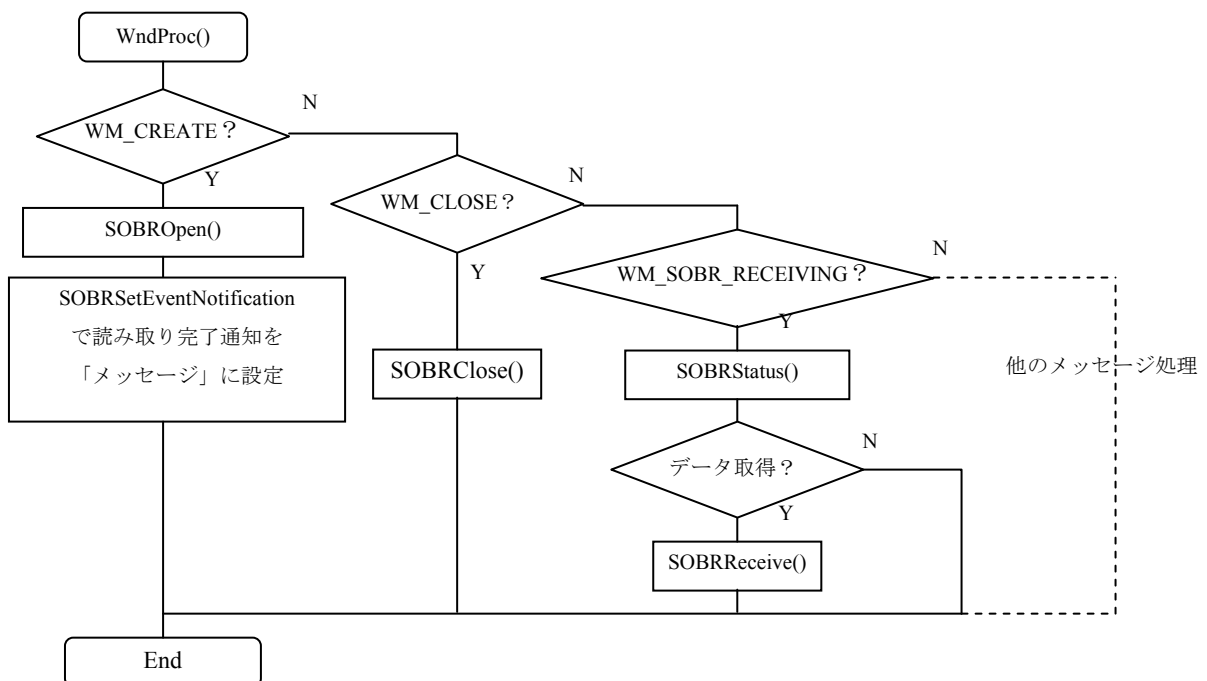


図 2-9

例) データ読み取り(イベント通知)

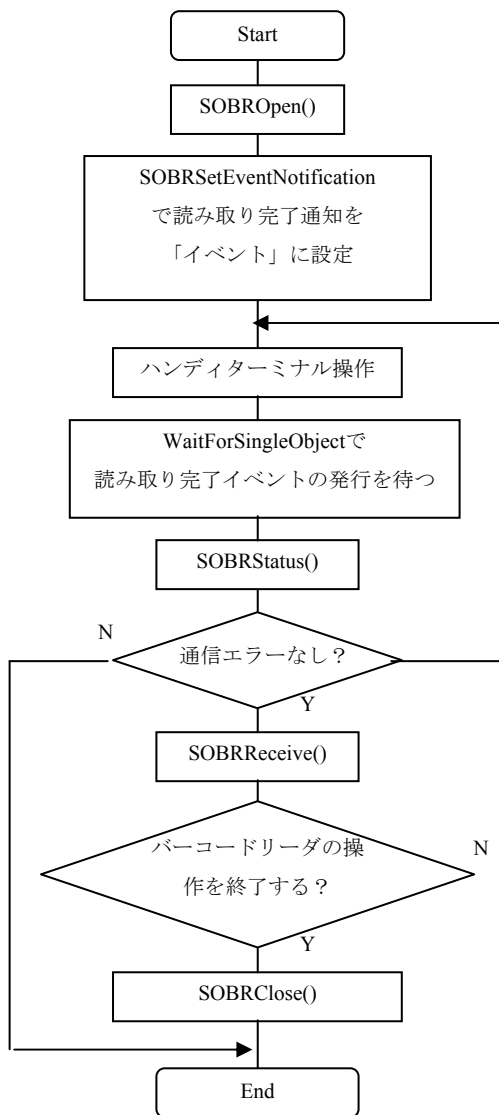


図 2-10



## 2.2.2 シリアルバーコードリーダー機能設定

### 設定可能な機能

SOBR ライブラリを使用して、バーコードリーダーに設定コマンドを送信することができます。設定可能な機能を以下に示します。

#### DT-9650BCR

- 読み取り桁数指定
- CODE39/NW-7 ICG 指定
- 読み取りコード条件指定
- データ転送フォーマット指定
- ブザー鳴動および LED 点灯モードの指定
- 解読不能時 BEL 出力指定
- スキャニングモード指定
- スリープモード/ストップモード要求
- EEPROM への書き込み指定

#### DT-9656BCR

- 読み取り桁数指定
- 読み取りコード追加指定
- データ転送フォーマット指定
- 最小桁数設定
- ブザー鳴動モードの指定
- LED 点灯モードの指定
- 読み取りモードの指定
- 照合回数の指定
- レングスデータ送信の指定
- EEPROM への書き込み指定

### コマンドの送信

コマンドの送信は、SOBR ライブラリ関数の「SOBR9650Send」、または「SOBR9656Send」で行います。SOBR9650Send は DT-9650 用、SOBR9656Send は DT-9656 用の関数です。これらの関数の引数にコマンドの文字列を渡すことにより、バーコードリーダーに対してコマンドを送信します。コマンドを送信する場合は、SOBR9650Send/SOBR9656Send を使用する前にバーコードリーダーと DT-9800 の通信設定を行うために、SOBROpen 関数を使用する必要があります。

## 設定コマンド

バーコードリーダーの設定を変更するコマンドは以下のとおりです。

### DT9650BCR

#### 1. 読み取桁数指定

表 2-15

指定桁数	コマンド	初期設定
1～42 桁	^P	◎
1 桁	^Q	
2 桁	^R	
3 桁	^S	
4 桁	^T	
5 桁	^U	
6 桁	^V	
7 桁	^W	
8 桁	^X	
9 桁	^Y	
10 桁	^X	
11 桁	^[	
12 桁	^¥	
13 桁	^]	
14 桁	^^	
15 桁	^_	
16 桁	スペース	
17 桁	!	
18 桁		
19 桁	#	
20 桁	\$	
21 桁	%	
22 桁	&	
23 桁	'	
24 桁	(	
25 桁	)	
26 桁	*	
27 桁	+	
28 桁	,(コンマ)	
29 桁	-	
30 桁	.(ピリオド)	
31 桁	/	
32 桁	0	
33 桁	1	
34 桁	2	
35 桁	3	
36 桁	4	
37 桁	5	

38桁	6	
39桁	7	
40桁	8	
41桁	9	
42桁	:	

## 2. CODE39/NW-7 ICG 指定

表 2-16

項目	コマンド	初期設定
ICG1 キャラクタ未満	=	◎
ICG8 キャラクタ未満	?	

## 3 読取コード条件指定

表 2-17

項目		コマンド	初期設定
全コード	読取許可	X	
	読取禁止	x	
CODE39	読取許可	A	◎
	読取禁止	a	
NW-7	読取許可	B	◎
	読取禁止	b	
WPC	読取許可	C	◎
	読取禁止	c	
2 of 5 (Industrial/Standard)	読取許可	D	◎
	読取禁止	d	
ITF	読取許可	E	◎
	読取禁止	e	
CODE11	読取許可	F	
	読取禁止	f	◎
CODE93	読取許可	G	
	読取禁止	g	◎
CODE128	読取許可	W	
	読取禁止	w	◎
WPC add on	読取禁止	l	◎
	読取許可	m	
	強制読取	n	

#### 4 データ転送フォーマット

表 2-18

項目		コマンド	初期設定
CODE39	フルアスキー変換許可	h	
	フルアスキー変換禁止	i	◎
	スタート/ストップコード転送する	Z	
	スタート/ストップコード転送しない	z	◎
NW-7 スタート/ストップコード	転送する	[	◎
	転送しない	{	
	コードを大文字にする	q	◎
	コードを小文字にする	r	
	ABC コード転送許可	j	
	ABC コード転送禁止	k	◎
C/D (CODE39/NW-7/ 2of5/CODE11)	検査禁止	R	◎
	検査許可/転送する	S	
	検査許可/転送しない	T	
読取 CODE ID	転送しない	P	◎
	転送する	Q	

#### 5 ブザー鳴動および LED 点灯設定

表 2-19

項目		コマンド	初期設定
正読後、ブザー鳴動/LED 点灯の許可		J	◎
正読後、ブザー鳴動/LED 点灯の禁止		K	
ブザー鳴動/LED 点灯 の1回駆動		L	
sleep モードコマンド復帰時または電源立ち上げ時 LED 消灯		s	◎
sleep モードコマンド復帰時または電源立ち上げ時 LED 点灯		t	

#### 6 解読不能時 BEL 出力

表 2-20

項目		コマンド	初期設定
出力許可		M	
出力禁止		N	◎

#### 7 スキャニングモード

表 2-21

項目		コマンド	初期設定
スキャニング許可		H	◎
スキャニング禁止		I	
スペシャルモード(1回正読後スキャニング禁止)		U	

## 8 スリープ/ストップモード

表 2-22

項目	コマンド	初期設定
スリープモード要求	o	
ストップモード要求	p	

## 9 EEPROM への書き込み

表 2-23

項目	コマンド	初期設定
デフォルト設定値の書き込み	Y	
現在の設定値の書き込み	y	

## 10 設定変更

表 2-24

項目	コマンド	初期設定
現在 EEPROM へ保存されている設定値に設定	0	

11 拡張コマンド

表 2-25

項目		コマンド	初期設定
拡張コマンド制御	送信開始	u	
	送信終了	v	
CODE39 C/D	検査禁止 (転送機能変化無し)	A	
	検査許可/転送する	B	
	検査許可/転送しない	C	
	検査禁止/転送しない	Y	
	検査禁止/転送する	Z	◎
NW-7 C/D	検査禁止 (転送機能変化無し)	D	
	検査許可/転送する	E	
	検査許可/転送しない	F	
	検査禁止/転送しない	[	
	検査禁止/転送する	¥	◎
2 of 5 C/D	検査禁止 (転送機能変化なし)	G	
	検査許可/転送する	H	
	検査許可/転送しない	I	
	検査禁止/転送しない	]	
	検査禁止/転送する	^	◎
CODE11 C/D	検査(1)許可/転送する	J	
	検査(1)許可/転送しない	K	◎
	検査(2)許可/転送する	L	
	検査(2)許可/転送しない	M	
CODE93 C/D	検査禁止/転送しない	N	
	検査禁止/転送する	O	
	検査許可/転送しない	P	◎
	検査許可/転送する	Q	
CODE128 C/D	検査禁止/(転送機能変化なし)	S	
	検査許可/転送しない	T	◎
	検査禁止/転送しない	U	
	検査禁止/転送する	V	
	検査許可/転送しない	W	
	検査許可/転送する	X	

## DT9656BCR

### 1. 読取コード条件指定

表 2-26

項目	コマンド	初期設定
7 種自動読取 (WPC、CODE39、NW-7、2of5、CODE93、CODE128、MSI)	A0	
UPC Only	J1	
UPC+2 桁 add on Only	J2	
UPC+5 桁 add on Only	J3	
JAN/EAN Only	J4	
EAN+2 桁 add on Only	J5	
EAN+5 桁 add on Only	J6	
Industrial 2 of 5 (DTF) Only	J7	
Interleaved 2 of 5 (ITF) Only	J8	
WPC (add on 含む) Only	A1	
CODE39 Only	A2	
NW-7 (CODABAR) Only	A3	
DTF と ITF Only	A4	
CODE93 Only	A5	
CODE128 Only	A6	
MSI/Plessey Only	A7	
IATA Only	A8	

### 2. 読取コード追加指定

表 2-27

項目	コマンド	初期設定	
UPC	読取許可	R1	◎
UPC+2 桁 add on	読取許可	R2	
UPC+5 桁 add on	読取許可	R3	
JAN/EAN	読取許可	R4	◎
EAN+2 桁 add on	読取許可	R5	
EAN+5 桁 add on	読取許可	R6	
Industrial 2 of 5 (DTF)	読取許可	R7	◎
Interleaved 2 of 5 (ITF)	読取許可	R8	◎
WPC (add on 含む)	読取許可	B1	
CODE39	読取許可	B2	◎
NW-7 (CODABAR)	読取許可	B3	◎
DTF と ITF	読取許可	B4	◎
CODE93	読取許可	B5	
CODE128	読取許可	B6	
MSI/Plessey	読取許可	B7	
IATA	読取許可	B8	

3.データ転送フォーマット

表 2-28

項目		コマンド	初期設定
CODE39	C/Dを計算しない	C0	◎
	C/Dを計算する	C1	
	C/D転送する	C2	◎
	C/D転送しない	C3	
	スタート/ストップコード転送しない	D0	
	スタート/ストップコード転送する	D1	◎
IATA	C/Dを計算しない	D2	◎
	C/Dを計算する(CPN+FORM SERIAL)	D3	
	C/Dを計算する(FORM SERIAL)	D4	
	C/Dを計算する(ALL DATA)	D5	
	C/Dを転送する	D6	◎
	C/Dを転送しない	D7	
NW-7 スタート/ストップコード転送	転送しない	F0	
	ABCD/TN * E 転送	F1	
	abcd/tn * e 転送	F2	
	ABCD/ABCD 転送	F3	
	abcd/abcd 転送	F4	◎
	C/Dを転送する	F5	◎
	C/Dを転送しない	F6	
	C/Dを計算しない	F7	◎
	C/Dを計算する(m10、w1,2)	F8	
	C/Dを計算する(m16)	F9	
	スタート/ストップを DC1DC2DC3DC4/ DC1DC2DC3DC4 で転送する	FA	
	C/Dを計算する(セブンチェック)	FB	
	C/Dを計算する(m11)	FC	
	C/Dの計算と転送をしない	FD	
2 of 5 (ITF/DTF) C/D	C/Dを計算しない	G0	◎
	C/Dを計算する	G1	
	転送する	G2	◎
	転送しない	G3	
JAN/EAN	C/Dを転送する	E0	◎
	C/Dを転送しない	E1	
UPC-A	13桁:すべて転送する	E2	◎
	12桁:桁調整先頭"0"を転送しない	E3	
	12桁:C/Dを転送しない	E4	
	11桁:桁調整先頭"0"、C/Dを転送しない	E5	
UPC-E	8桁:すべて転送する	E6	
	7桁:桁調整先頭"0"を転送しない	E7	◎
	7桁:C/Dを転送しない	E8	
	6桁:桁調整先頭"0"、C/Dを転送しない	E9	



#### 4.最小桁設定

表 2-29

項目		コマンド	初期設定
CODE39 NW-7:1 桁、 Interleaved 2of5(ITF):2 桁	読取禁止	H2	◎
	読取許可	H3	

#### 5.ブザー鳴動モード

表 2-30

項目		コマンド	初期設定
読取成功ブザー音程	鳴動禁止	W0	
	3kHz	W1	
	3kHz / 2.5kHz	W2	◎
	3kHz / 4kHz	W3	
ブザー鳴動時間	50msec	W7	
	100msec	W4	
	200msec	W5	◎
	400msec	W6	
ブザー音量	小	T3	
	中	T2	
	大	T1	
	最大	T0	◎
ブザーを1回鳴らす	3kHz(200ms)	V5	
	3kHz / 2.5kHz(200ms)	V6	
	3kHz / 4kHz(200ms)	V7	

#### 6.LED点灯モード

表 2-31

項目		コマンド	初期設定
読取成功時点灯	点灯禁止	T4	
	点灯時間:200msec	T5	◎
	点灯時間:400msec	T6	
	点灯時間:800msec	T7	
LEDを一回点灯する	点灯時間:400msec	V8	
	点灯時間:800msec	V9	

#### 7.読取モード

表 2-32

項目		コマンド	初期設定
単発読み(トリガスイッチ使用時のみ、未使用時は連続読みとなる)		S0	
複数読み		S1	◎
連続読み		S2	
・トリガスイッチを使用しない		S7	
トリガスイッチを使用する		S8	

8.読取時間

表 2-33

項目	コマンド	初期設定
無限	Y0	
1sec	Y1	
2 sec	Y2	◎
3 sec	Y3	
4 sec	Y4	
6 sec	Y5	
8 sec	Y6	
10 sec	Y7	

9.照合回数

表 2-34

項目	コマンド	初期設定
照合なし	X0	
1 回照合	X1	◎
2 回照合	X2	
3 回照合	X3	

## 10. レンゲスデータ

表 2-35

項目		コマンド	初期設定
UPC-A	転送しない	2A	◎
	転送する	3A	
UPC-A with add on	転送しない	2B	◎
	転送する	3B	
UPC-E	転送しない	2C	◎
	転送する	3C	
UPC-E with add on	転送しない	2D	◎
	転送する	3D	
EAN-13	転送しない	2E	◎
	転送する	3E	
EAN-13 with add on	転送しない	2F	◎
	転送する	3F	
EAN-8	転送しない	2G	◎
	転送する	3G	
EAN-8 with add on	転送しない	2H	◎
	転送する	3H	
CODE39	転送しない	2I	◎
	転送する	3I	
NW-7	転送しない	2J	◎
	転送する	3J	
Industrial 2 of 5 (DTF)	転送しない	2K	◎
	転送する	3K	
Interleaved 2 of 5 (ITF)	転送しない	2L	◎
	転送する	3L	
CODE93	転送しない	2M	◎
	転送する	3M	
CODE128	転送しない	2N	◎
	転送する	3N	
MSI/Plessey	転送しない	2O	◎
	転送する	3O	
IATA	転送しない	2P	◎
	転送する	3P	
すべてのレンゲスデータ	転送しない	2Z	◎
	転送する	3Z	

## 11.EEPROM への書き込み

表 2-36

項目	コマンド	初期設定
-	Z2	

## 12.設定の初期化

表 2-37

項目	コマンド	初期設定
設定を初期化する-	U1	

## 2.2.3 EEPROMへの設定値保存

DT-9650/DT-9656 は EEPROM を内蔵しており、各種設定を記憶させることができます。EEPROM 内に記憶させていない設定値は、DT-9650/DT-9656 の電源を OFF/ON するとクリアされ、初期設定値に戻ってしまいます。

### 設定値書き込み方法

EEPROM への設定値書き込みには SOBR ライブラリ関数「SOBR9650Send」または「SOBR9656Send」を使用します。書き込みは通常の設定値を送信した後に EEPROM への書き込みコマンドを送信することによって行います(下記フロー図参照)。EEPROM への書き込みコマンドは DT-9650 の場合'y'、DT-9656 の場合"Z2"です。

例)DT-9656 に「全コードの読み取り」を設定する場合

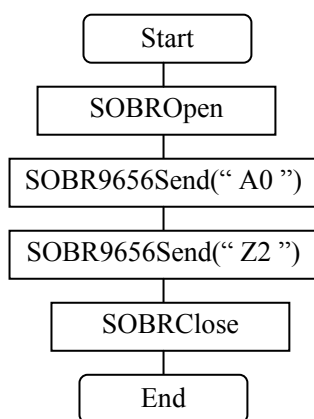


図 2-11

例)DT-9650 に「全コードの読み取り」を設定する場合

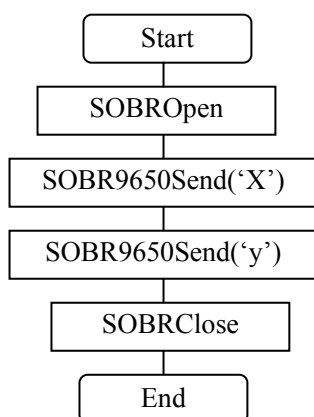


図 2-12

※DT-9650 では以下のコマンドを EEPROM に書き込むことができませんのでご注意ください。

表 2-38

設定内容	コマンド
ブザー鳴動/LED 点灯の 1 回駆動	‘L’
スキヤニング許可	‘H’
スキヤニング禁止	‘I’
スペシャルモード(1 回正読後スキヤニング禁止)	‘U’
スリープモード要求	‘o’
ストップモード要求	‘p’
拡張コマンド制御送信開始	‘u’
拡張コマンド制御送信終了	‘v’

## 2.3 プリンタ

DT-9800 のプリンタは、下記の機能を実装しています。

- 印字機能
- 検出機能

### 2.3.1 オリジナルAPIによる印字機能

プリンタライブラリを使用して、文字やビットイメージを印刷できます。

※ プリンタライブラリの関数仕様については、「プリンタライブラリマニュアル」を参照してください。

#### 印字文字種

ANK4 種類／漢字 3 種類のマルチフォントに加え、縦横 5 サイズ(計 25 サイズ)の印字、および 4 通りの文字装飾が可能です。

#### 文字フォント

ANK、漢字、OCR-B それぞれ下記の種類のフォントを搭載しています。

表 2-39

文字種	フォント		備考
ANK	6×7	ドットフォント	
	6×12	ドットフォント	
	8×16	ドットフォント	
	12×24	ドットフォント	
漢字	12×12	ドットフォント	JIS 第 1 水準および第 2 水準のコード
	16×16	ドットフォント	
	24×24	ドットフォント	
OCR-B	16×30	ドットフォント	
	24×45	ドットフォント	

#### 入力コード

本プリンタでは、印字する文字の文字コードを Unicode、または ANK (0x20～0xFF、およびシフト JIS) で指定することが可能です。

#### 文字コード表 (入力コードが ANK 指定時に有効)

ANK の文字コード表 (0x20～0xFF)として、下記の 2 つを搭載しています。

表 2-40

文字コード表	内容
拡張グラフィックスコード	80h 以降に IBM グラフィック文字を搭載した文字コード表
カタカナコード	80h 以降に半角カタカナを搭載した文字コード表

## 国際文字セット（入力コードが ANK 指定時に有効）

文字コードが同じでも、国によってフォントが異なるものがあります。そのため、ANK コードの一部を置き換えて各国に対応します。下表は国際文字選択機能によって置き換えられる文字と国の関係を表しています。横軸の数字は次のように国を意味します。

表 2-41

0.	アメリカ	1.	フランス	2.	ドイツ	3.	イギリス
4.	デンマーク	5.	スウェーデン	6.	イタリア	7.	スペイン
8.	日本						

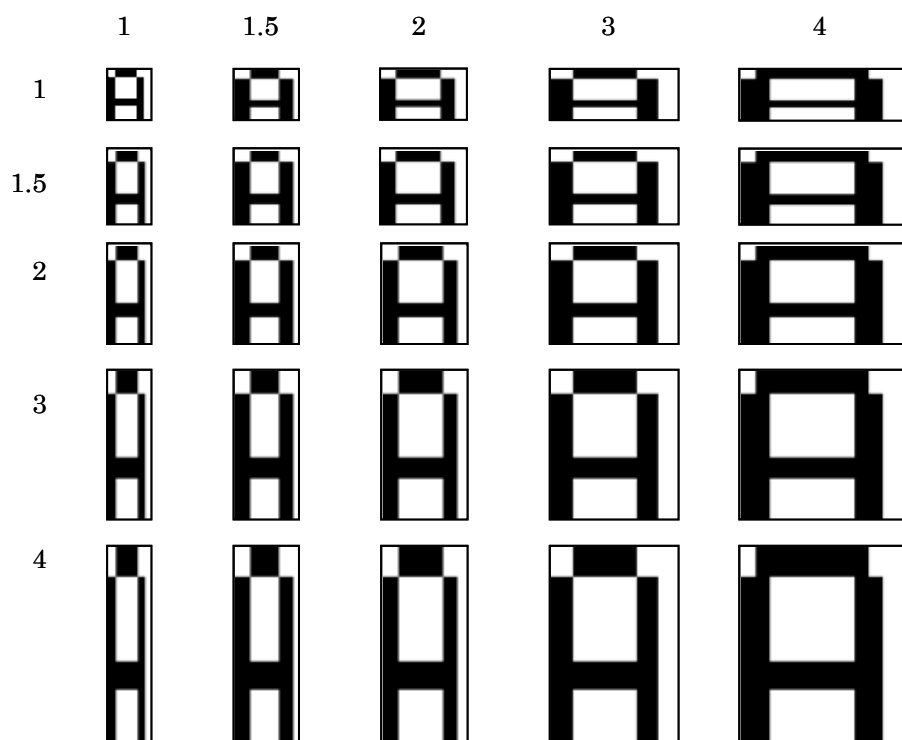
表 2-42

	0	1	2	3	4	5	6	7	8
23h	#	#	#	⌘	#	#	#	⌘	#
24h	⌘	⌘	⌘	⌘	⌘	⌘	⌘	⌘	⌘
40h	⌘	à	⌘	⌘	⌘	é	⌘	⌘	⌘
5Bh	[	°	Ä	[	Æ	Ä	°	i	[
5Ch	\	ç	ö	\	ø	ö	\	ñ	¥
5Dh	]	⌘	ü	]	Å	Å	é	¿	]
5Eh	^	^	^	^	^	ü	^	^	^
60h	`	`	`	`	`	é	ù	`	`
7Bh	{	é	ä	{	æ	ä	à	°	{
7Ch		ù	ö		ø	ö	ò	ñ	
7Dh	}	è	ü	}	å	å	è	}	}
7Eh	~	°	β	~	~	ü	ì	~	~



## 文字サイズ

標準サイズに対して、1、1.5、2、3、4 倍の計 5 種類をサポートしています。



※ 拡大した文字を印刷中に紙無しエラーが発生すると、印字データが欠ける場合があります。

※ OCR-B フォントに対しては、拡大することができません。

## 文字修飾

下記の4種類を組み合わせ、文字を修飾することができます。それぞれの修飾に対して下記の注意が必要です。

表 2-43

種類	注意事項
反転	印字デューティが極端に増加するため、消費電流が増加し印字速度が低下します。
強調	横方向に強調されます。
淡調	1ドット毎に間引いて印字するため、文字サイズが2倍以下では文字が読取れない場合があります。
スムージング	縦／横方向ともに、2倍以上の文字サイズに対して行います。ただし、このスムージングは明朝体フォント(24dot フォント)のみ対応しており、それ以外のフォントではスムージングはできません。

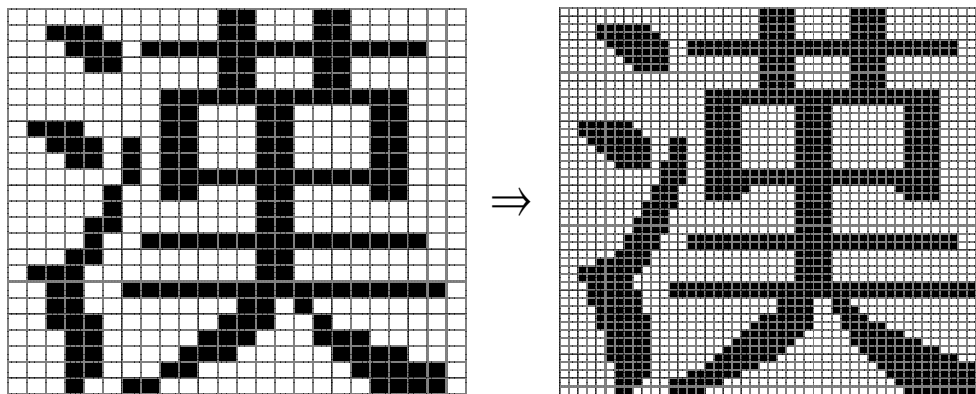
※ 拡大したフォントに対しての修飾は、フォントを拡大したイメージに対して行います。

※ OCR-B フォントには一切の文字修飾はできません。

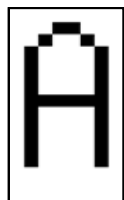
※ 複数の文字修飾を行った場合には、以下の順番で文字フォントに対して修飾を行います。

スムージング → 強調 → 反転 → 淡調

### スムージング



### 強調／反転／単調



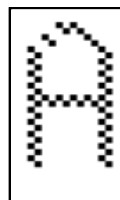
修飾なし



強調



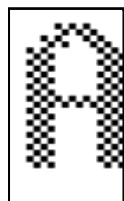
白黒反転



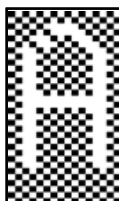
淡調



強調+反転



強調+淡調



反転+淡調



強調+反転+淡調

## 印字機能

大きく分けて、「文字フォントの印字」と「ビットイメージの印字」の2つの機能を実装しています。

### 印字開始条件

プリンタは、印字開始条件が成立した場合に印字します。印字開始条件は、下記のとおりです。

1. CR/LF/FF コードが出力された場合（CR/LF が連続で入力された場合は LF を無視します）
2. 1 行バッファフルになった場合
3. ビットイメージ印字（ビットマップ、画面印刷等を含む）の場合

### 用紙幅指定

プリンタライブラリ関数の用紙幅指定で、使用する用紙の用紙幅を指定します。指定可能な用紙幅は下記のとおりです。

1. 80 mm
2. 58 mm

※ 必ず使用する用紙に適した用紙幅を指定してください

※ 58 mm 用紙で印字した本体で 80 mm の印字を行うと、印字かすれが起こる可能性があります。このため、用紙幅 58 mm を設定し印字した後は、80 mm へ変更することはできません。

※ 用紙幅を変更した場合、左右マージンの設定は 0 にリセットされます。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

プリンタライブラリ

PRNSetPaperWidth 使用する用紙の用紙幅の指定

PRNGetPaperWidth 用紙幅の設定状態の取得

### 用紙指定

最適な印字（制御）を行うため、ESC コマンド「用紙設定」で使用する用紙を指定する必要があります。DT-9800 の推奨用紙を下記に示します。

表 2-44

用紙名	用紙種類
F-200U9W6	1P（高感度）
HS360	1P（標準）
AFP-235	1P（長期保存）
HG56S	ラベル
TLC00	2P※

※ 2P 紙を使用する場合は、印字速度指定もグラフィック印字モードへ設定して下さい。

※ 印字が停止（ESC コマンドの「未印字吐き出し」を実行）してから、用紙指定を行って下さい。印字中に用紙指定を変更すると、印字中のデータが指定された用紙のパラメータで印刷されるため、印字品位に影響を与える場合があります。

### 印字濃度指定

ESC コマンド「印字濃度指定」で、印字濃度を指定することができます。印字濃度は、9 段階の指定が可能です。

※ 印字が停止（ESC コマンドの「未印字吐き出し」を実行）してから、濃度指定を行って下さい。印字中に濃度指定を変更すると、印字中のデータが指定された濃度で印刷されるため、印字品位に影響を与える場合があります。

## 印字速度指定

ESC コマンド「印字速度指定」で、印字速度を下記のように指定することができます。

1. 低速印字(高品位印字)
2. 高速印字
3. グラフィック印字モード

各印刷速度指定において、テキスト印字／グラフィック印字することは可能です。ただし、グラフィック印字モード指定時は、グラフィックの印字品質を向上させるために印字速度がかなり低速になります。

※ 印字が停止(ESC コマンドの「未印字吐き出し」を実行)してから、速度指定を行って下さい。印字中に速度設定を変更しても、印字中のデータは指定前の速度で印字され、印字品位にも影響を与える場合があります。

※ バーコードは、バーコード読取に影響のない印刷をするためにグラフィック印字モードで印字して下さい

## 順方向フィード指定

ESC コマンド「順方向フィード指定」で、順方向のフィードを指定できます。フィード量は、「0～255 dot」、または「0～255 mm」の指定が可能です。

## オートローディング指定

ESC コマンド「オートローディング指定」で、オートローディングの有効、または無効を指定できます。オートローディング時のフィード量は、「10～96 mm」の指定が可能です。

※オートローディング指定は、単票用紙を使用する場合のみ指定してください。

## エラー時継続印字指定

エラーが発生すると、ただちに印字を停止します。その後、エラーが解除された後に継続して印字するか、否かを指定することが可能です。エラー時継続印字指定は、ESC コマンドで行います。

## 文字フォントの印字

文字フォントを印字する場合は、下記の指定が可能です。

表 2-45

項目	内容	
文字フォントの指定	1 文字毎に指定が可能	6X7、12dot 系、16dot 系、24dot 系、OCR-B
文字サイズの指定	1 文字毎に指定が可能	1 倍、1.5 倍、2 倍、3 倍、4 倍
文字修飾の指定	1 文字毎に指定が可能	強調、反転、単調、スムージング(24dot 系のみ)
文字間ピッチの指定	1 行毎に指定が可能	0～96dot。行中に指定された場合は次行から有効
改行ピッチの指定	1 行毎に指定が可能	0～96dot。行中に指定された場合は次行から有効
バッファフル印字	1 文字毎に指定が可能	有効／無効の指定が可能

## 文字フォント混在印字

1 行中に任意の文字フォント／文字サイズ／文字修飾を混在して印字することができます。行幅はその行に含まれる印字の最大サイズ(文字の高さ)になります。

## プリヒート指定

低温でヘッド温度が低くなっている場合、印字する前に自動的にヘッド温度を暖めることができます。これにより、低温下での印字品位の向上を図ります。

プリヒート実行中は、タスクトレイに下記のアイコンを表示します。

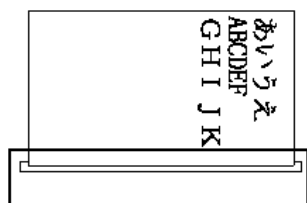


※ 低温下ではヘッド温度上昇させるために 1 分以上の時間を要する場合があります。

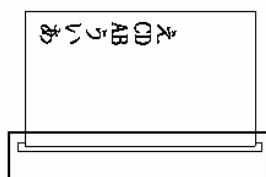
## 横印字

文字フォントを回転することにより横印字を実現します。ただし、回転可能な文字サイズは縦横方向に等倍されたサイズのみです。文字フォントの回転指定は行頭でのみ有効で、行途中での指定は無視されます。また、回転指定は回転指定を解除するまで有効になります。

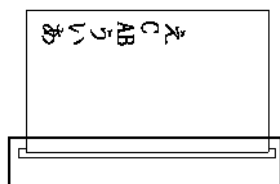
但し、ANK フォントの場合は前後のフォントによって印字結果が異なります。



1. 偶数个連続して同一フォント、同一サイズのコードが出力された場合(あいう ABCD え)



2. 奇数个連続して同一フォント、同一サイズのコードが出力された場合(あいう ABC え)



回転方向は、下記の 4 方向の指定が可能です。

解除      右 (90度)    下 (180度)    左 (270度)

漢      漢      漢      漢

※ 回転の指定は行頭で行います。行途中で指定された場合は無視されます。

※ 6×7ドットフォント、OCR-B フォントを回転する事はできません。

※ 回転可能な文字サイズは縦横方向に等倍にされたサイズのみです。

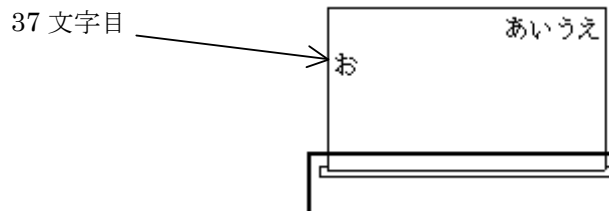
※ 回転の指定は解除されるまで有効です。

## バッファフル印字

ESC コマンドによってバッファフル印字の有効／無効を切り替えることができます。切り替えた場合の動作は以下ようになります。

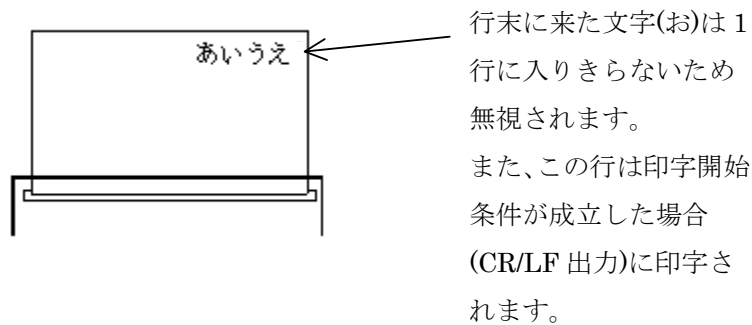
### 1. バッファフル印字有効の場合

文字コード印字中に印字開始条件が成立する前行バッファが一杯になる場合、当該文字の印字を改行後に行います。例えば 80 mm (82.55mm) 用紙使用時に、文字間スペース 0 で 16 ドット漢字を印字すると 1 行に 36 文字印字することができますが、37 文字目に文字コードがきた場合は 36 文字分の印字後、次の行の先頭に 37 文字目の文字コードが印刷されます。



### 2. バッファフル印字無効のとき

行末を超えた文字から印字条件が成立するまでに受け取った文字コードは無視されます。



## スタンプ印刷

イメージデータを登録し、スタンプとして使用することができます。

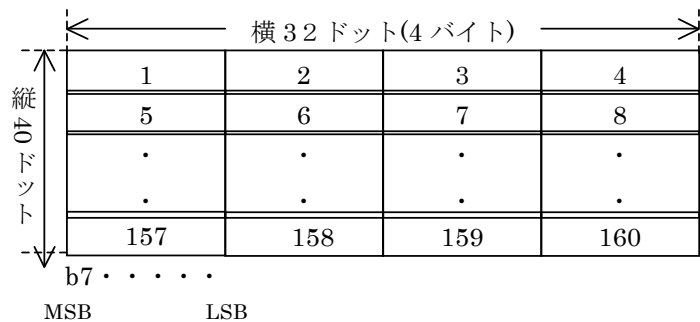
登録数 : 1 個  
 サイズ : 横 8 ドット単位、縦 1 ドットライン単位で任意のサイズを指定可能

表 2-46

項目	用紙幅:80 mm 指定時	用紙幅:58 mm 指定時
登録できる最大データ量	6912 バイト (72 バイト×96 ドット)	4608 バイト (48 バイト×96 ドット)
横方向の最大サイズ	576 ドット	384 ドット
縦方向の最大サイズ	96 ドット	96 ドット

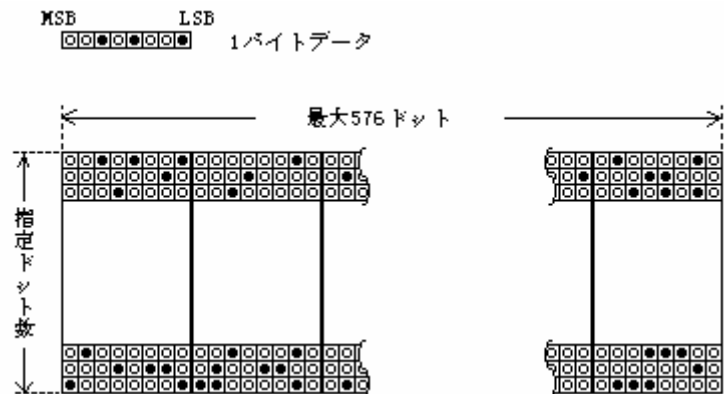
構成例

横 32 ドット×縦 40 ドットの  
 場合



## ビットイメージ印字

指定ドットライン分のイメージデータを印刷します。1 ドットライン分のデータ長は、80 mm 用紙の場合 576 ドット(72 バイト)ですが、左右マージンが指定されている場合は、その分を減じた長さを引き渡します。つまり左右マージンをそれぞれ 40 ドットに指定した場合(マージンは 8 ドット単位での指定)、 $576 - (40 + 40) = 496$  (62 バイト)が 1 ドットライン分のデータ長になります。



※ ビットマップファイルについて

2 階調のビットマップファイルは、プリンタライブラリ関数を使用して印字することができます。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

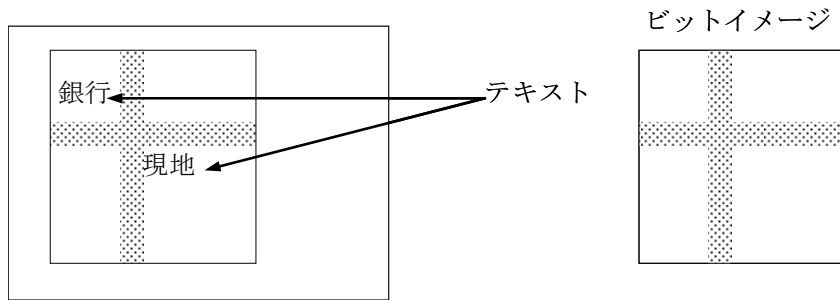
プリンタライブラリ

PRNImageOut ビットイメージの印刷

PRNBMPOut 指定された Bitmap の印刷

## ビットイメージの合成印字

テキストとビットイメージを合成して印字することができます。



## 外字印刷

128 の文字分の外字を登録する事ができます。登録できるフォントサイズは 24/16/12 ドットです。同一文字コードに 24/16/12 ドットをそれぞれ登録する場合は、別々に登録する必要しなければなりません。また未定義の文字コードを指定した場合は、全角スペースが印字されます。

外字登録範囲を下記に示します。

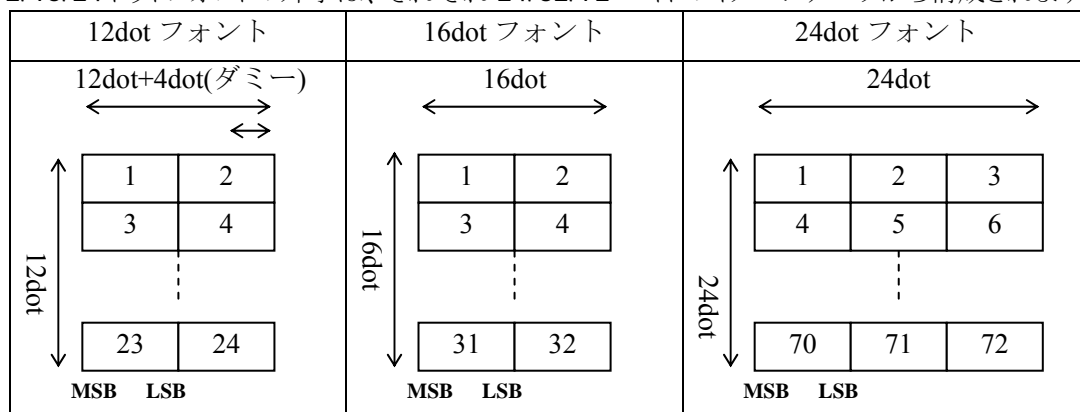
表 2-47

入力コード	登録範囲
Unicode	0xE100~0xE17F
ANK(ShiftJIS)	0xF185~0xF247 (0xF1FD~0xF23F は除く)



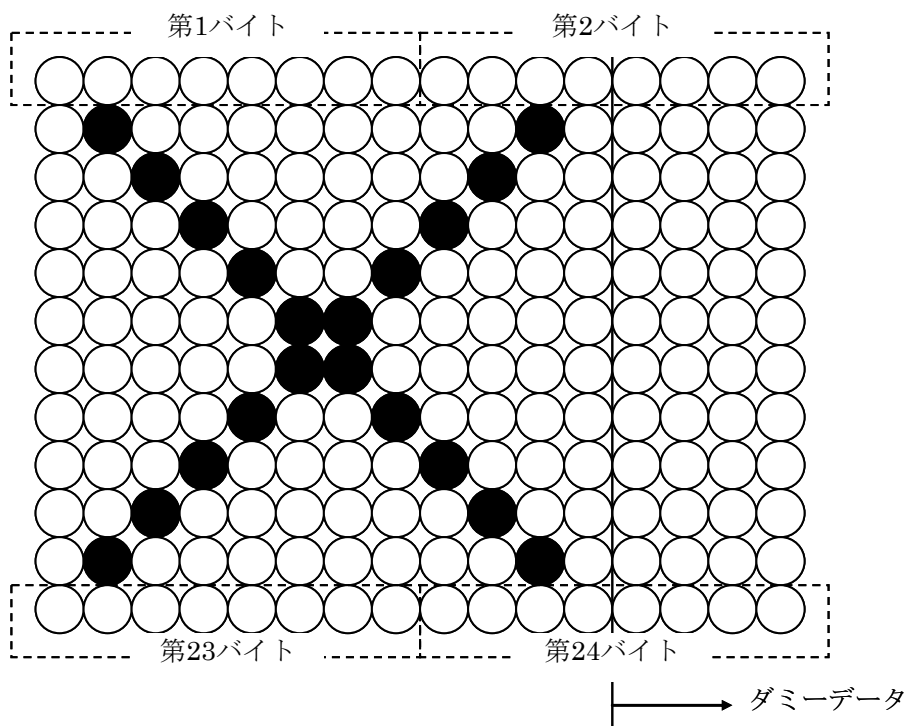
## 外字データの構成

12/16/24ドットフォントの外字は、それぞれ 24/32/72 バイトのイメージデータから構成されます。



注意！ 12dotフォントの横方向データは、ダミーの4dotを加えて2バイトとします。

### 12dot フォントのデータ構成例



## 印字中の APO 禁止

印字中は APO しないように、PrnOpen 関数で APO 機能を無効にします。印字終了後に PrnClose 関数が実行されると、印字開始前の設定に戻ります。

※ PRNOpen/PrnClose にて APO の制御を行いますので、プリンタ使用中はユーザーアプリケーションから APO を制御しないで下さい

## プリンタ電源

プリンタは、プリンタ使用时(プリンタライブラリ関数の PRNOpen~PRNClose までの間)のみ電源投入します。

## バーコード印字

プリンタライブラリを使用して、バーコード(1D)を印刷することが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

プリンタライブラリ

PRNBarcodeOut 指定されたバーコードの印刷

## コード指定

下記のバーコードを印字できます。API 使用時にバーコードの種類を指定します。

- JAN
- UPC-E
- NW-7
- CODE39
- ITF
- CODE-128 (※EAN-128)

※ CODE-128 を指定し、EAN-128 のデータフォーマットに合わせれば EAN-128 のバーコードを印字できます。ただし、AI (アプリケーション識別子) を () で囲んで印刷することはできません。

## 高さ指定

印刷するバーコードの高さをミリ単位で指定できます。指定範囲は、下記のとおりです。

- 高さ 1 ~ 63mm (58 mm 用紙時 : 1 ~ 39mm)

## C/D(チェックデジット)指定

チェックデジットを自動計算して、バーコードに付加するかを指定できます。

表 2-48

コード	C/D 指定	チェックデジット
JAN	必ず付加する	モジュラス 10
UPC(UPC-E)	必ず付加する	モジュラス 10
NW-7	必ず付加しない	———
CODE39	付加する/付加しない	モジュラス 43
ITF	付加する/付加しない	モジュラス 10
CODE128	必ず付加する	モジュラス 103

## データ印字指定

バーコードの下に印刷するバーコードデータの文字フォントを指定できます。指定によりバーコードデータの印刷を無効にすることも可能です。

- 標準文字 (ANK 8X16 ドット 縦横 2 倍)
- 縮小文字 (ANK 6X 7 ドット 縦横 2 倍)
- OCR-B I
- 印刷しない

## 左マージン指定

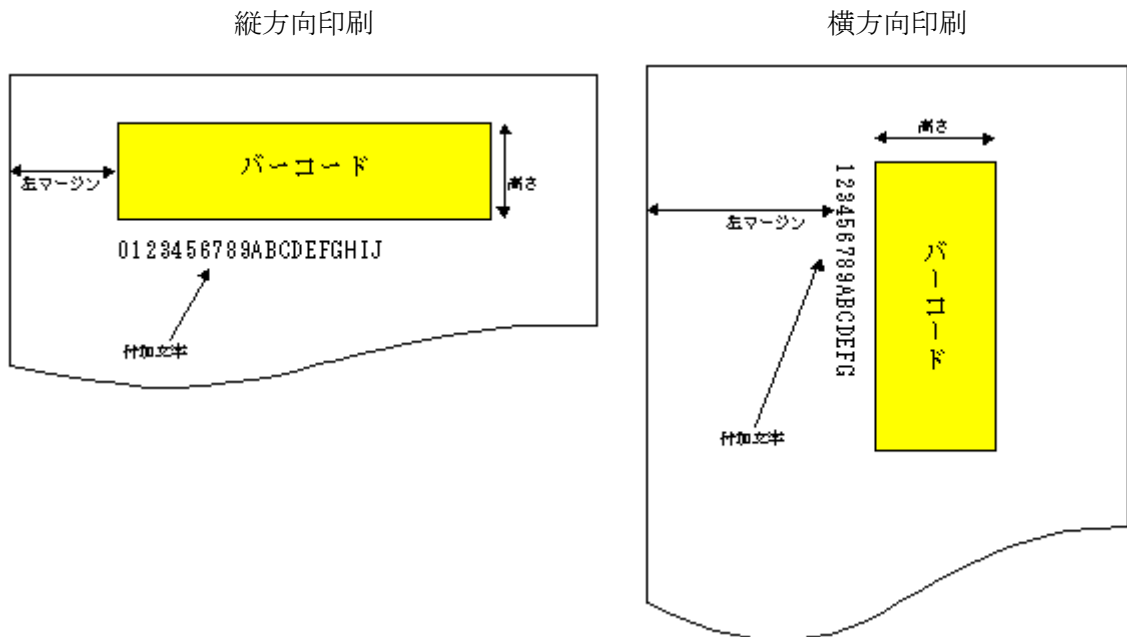
バーコードの左側に空けるスペースをミリ単位で指定します。

- 0~69mm (58 mm 用紙時: 0 ~ 45mm)
- 自動センタリング

## 印刷方向指定

バーコードを印刷する方向を指定します。

- 縦方向印刷
- 横方向印刷



## データの補正

- JAN
  - 7/8/12/13桁のデータのみ受け付けます。
  - 7桁/8桁の場合は短縮型、12/13桁の場合は標準型で印刷します。
  - 7/12桁の場合は自動的にC/Dを付加し、8/13桁の場合は再計算されます。
- CODE39
  - データの前後に"\*"が無い場合は自動的に付加されます。
  - データの途中に"\*"があった場合はエラーとなります。
- NW7
  - C/D有りを指定しても、付加しません。
  - データの途中にA~Dの文字があった場合、またはデータがスタート~ストップキャラクタの形式でない場合はデータエラーとなります。
  - A~Dの文字は、a~dを使用した場合も同様に扱います。
- UPC-E
  - 短縮された形式のデータのみ受け付けます。
  - 短縮前のデータを入力した場合は、エラーとなります。
- ITF
  - データの桁数が奇数で、C/D無しの場合は先頭に0を付加します。
  - データの桁数が偶数で、C/D有りの場合は先頭に0を付加します。

- **CODE128**

- データは、スタートキャラクタ・ファンクションキャラクタ・コードセットキャラクタ、シフトキャラクタ・データキャラクタを必要に応じて指定します。
  - ※ (上記のキャラクタとストップキャラクタを総称してシンボルキャラクタと呼びます。データキャラクタ以外のシンボルキャラクタは特殊シンボルキャラクタと呼びます。)
- アスキーコードの 00h~1Fh と 7Fh、“¥”、“#”、“,” および特殊シンボルキャラクタは、前置文字“¥”を付加した特殊表記を使用します。これらのデータは最初に1個のシンボルキャラクタに置き換えられ、その後データとして評価されます。(表記方法については後述)
- スタートキャラクタが指定されていない場合は、最初に現れるデータキャラクタにより、コードセット A または B が自動的に決定されますが、コードセットキャラクタがデータキャラクタより先に現れた場合にはこれがスタートキャラクタと置き換えられます。ただし、コードセット C を使用する場合は自動決定されないため指定が必要です。また、スタートキャラクタをデータの途中に指定するとエラー (2) となります。
- ファンクションキャラクタは自動挿入されません。必要に応じて指定する必要がありますが、使用が正しいかどうかのチェックは行わないので、デコード時にエラーとなる場合があります。
- コードセットキャラクタは自動挿入されます。また、不要なコードセットキャラクタは自動的に省略されます。
- シフトキャラクタは自動挿入されません。
- 使用できないキャラクタ (80h~FFh) を指定した場合はエラー (2) となります。
- コードセット C のエンコード対象になるデータは、コードセット C に移行後、連続した偶数桁の数字の列とします。数字の列が奇数桁になる場合はエラー (2) となります。2組以上の偶数桁の数字列が FNC1 で区切られている場合は、エラーにはなりません。数字・FNC1 以外のデータが表れた場合は自動的に他のコードセットに移行します。
- ストップキャラクタは自動的に付加されます。
  - ※ 先頭からデリミッタまでの無視をするコード以外の全てのデータを印字対象として扱いますので、データの中にスペースがあった場合、CODE39 および CODE128 以外ではデータエラーとなります。

## CODE128 シンボルキャラクタの詳細と表記方法

- スタートキャラクタ  
スタートキャラクタが指定されない場合、データ先頭のキャラクタにより自動的に決定します。ただし、コードセット C を使用するのであれば、¥sC を指定する必要があります。

表 2-49

キャラクタ名称	表記
START A	¥sA
START B	¥sB
START C	¥sC

- ファンクションキャラクタ  
ファンクションキャラクタの自動挿入は行わないので必要により指定して下さい。

表 2-50

キャラクタ名称	表記
FNC1	¥f1
FNC2	¥f2
FNC3	¥f3
FNC4	¥f4

- コードセットキャラクタ  
コードセットキャラクタの内、CODE A または B への移行は自動的に行います。ただし、コードセット C へ移行する場合は、¥cC を指定する必要があります。  
コードセット C から他のコードセットに移行する場合は、¥cA または ¥cB を指定する必要がありますが、コードセット C が指定されている状態で他のコードセットのキャラクタが現れた場合は、自動的にコードセットの移行を行います。

表 2-51

キャラクタ名称	表記
CODE A	¥cA
CODE B	¥cB
CODE C	¥cC

- シフトキャラクタ  
シフトキャラクタを記述すると次の 1 組のキャラクタのみコードセット A→B、B→A の移行を行います。  
このキャラクタの自動挿入は行いません。

表 2-52

キャラクタ名称	表記
SHIFT	¥sF

- ストップキャラクタ  
ストップキャラクタは自動挿入します。データの表記方法はありません。

表 2-53

キャラクタ名称	表記
STOP	なし

• データキャラクタ

表 2-54

コード	文字 表記	16進 表記	コード 値	コード	文字 表記	16進 表記	コード 値	コード	文字 表記	16進 表記	コード 値
00	文字表記不可	¥x00	A	30	0	¥x30	AB	60	‘	¥x60	B
01		¥x01	A	31	1	¥x31	AB	61	a	¥x61	B
02		¥x02	A	32	2	¥x32	AB	62	b	¥x62	B
03		¥x03	A	33	3	¥x33	AB	63	c	¥x63	B
04		¥x04	A	34	4	¥x34	AB	64	d	¥x64	B
05		¥x05	A	35	5	¥x35	AB	65	e	¥x65	B
06		¥x06	A	36	6	¥x36	AB	66	f	¥x66	B
07		¥x07	A	37	7	¥x37	AB	67	g	¥x67	B
08		¥x08	A	38	8	¥x38	AB	68	h	¥x68	B
09		¥x09	A	39	9	¥x39	AB	69	i	¥x69	B
0A		¥x0A	A	3A	:	¥x3A	AB	6A	j	¥x6A	B
0B		¥x0B	A	3B	;	¥x3B	AB	6B	k	¥x6B	B
0C		¥x0C	A	3C	<	¥x3C	AB	6C	l	¥x6C	B
0D		¥x0D	A	3D	=	¥x3D	AB	6D	m	¥x6D	B
0E		¥x0E	A	3E	>	¥x3E	AB	6E	n	¥x6E	B
0F		¥x0F	A	3F	?	¥x3F	AB	6F	o	¥x6F	B
10		¥x10	A	40	@	¥x40	AB	70	p	¥x70	B
11	¥x11	A	41	A	¥x41	AB	71	q	¥x71	B	
12	¥x12	A	42	B	¥x42	AB	72	r	¥x72	B	
13	¥x13	A	43	C	¥x43	AB	73	s	¥x73	B	
14	¥x14	A	44	D	¥x44	AB	74	t	¥x74	B	
15	¥x15	A	45	E	¥x45	AB	75	u	¥x75	B	
16	¥x16	A	46	F	¥x46	AB	76	v	¥x76	B	
17	¥x17	A	47	G	¥x47	AB	77	w	¥x77	B	
18	¥x18	A	48	H	¥x48	AB	78	x	¥x78	B	
19	¥x19	A	49	I	¥x49	AB	79	y	¥x79	B	
1A	¥x1A	A	4A	J	¥x4A	AB	7A	z	¥x7A	B	
1B	¥x1B	A	4B	K	¥x4B	AB	7B	{	¥x7B	B	
1C	¥x1C	A	4C	L	¥x4C	AB	7C		¥x7C	B	
1D	¥x1D	A	4D	M	¥x4D	AB	7D	}	¥x7D	B	
1E	¥x1E	A	4E	N	¥x4E	AB	7E	~	¥x7E	B	
1F	¥x1F	A	4F	O	¥x4F	AB	7F	文字表記不可	¥x7F	B	
20	空白	¥x20	AB	50	P	¥x50	AB				
21	!	¥x21	AB	51	Q	¥x51	AB				
22	“	¥x22	AB	52	R	¥x52	AB				
23	¥ #	¥x23	AB	53	S	¥x53	AB				
24	\$	¥x24	AB	54	T	¥x54	AB				
25	%	¥x25	AB	55	U	¥x55	AB				
26	&	¥x26	AB	56	V	¥x56	AB				
27	,	¥x27	AB	57	W	¥x57	AB				
28	(	¥x28	AB	58	X	¥x58	AB				
29	)	¥x29	AB	59	Y	¥x59	AB				
2A	*	¥x2A	AB	5A	Z	¥x5A	AB				

2B	+	¥x2B	AB	5B	[	¥x5B	AB				
2C	¥,	¥x2C	AB	5C	¥¥	¥x5C	AB				
2D	-	¥x2D	AB	5D	]	¥x5D	AB				
2E	.	¥x2E	AB	5E	^	¥x5E	AB				
2F	/	¥x2F	AB	5F	_	¥x5F	AB				

- ※ コードセット C を選択している場合、使用できるキャラクタは 0～9 で 2 桁ずつエンコードします。桁数が奇数の場合はエラー (2) となります。0～9、およびファンクション以外のキャラクタが指定された場合は、他のコードセットに移行します。自動的に復帰することはありません。
- ※ 表中、コードセットに A とあるキャラクタが現れた場合は、CODE A のコードセットキャラクタ (またはスタートキャラクタ) が自動挿入されます。  
コードセットに B とあるキャラクタの場合は、CODE B のコードセットキャラクタ (またはスタートキャラクタ) が自動挿入されます。  
コードセットに AB とあるキャラクタは、両方のコードセットに存在するため、コードセット C からの移行のみです。ただし、スタートキャラクタが未決定の場合は、CODE B のスタートキャラクタが挿入されます。

## 印刷仕様

縦方向に印刷した場合の印刷仕様を下記に示します。横方向に印刷した場合に異なる仕様は、()に示します。

表 2-55 80 mm 用紙

コード	印刷仕様	
JAN	印字桁数	8/13 桁 C/D 含む
	印字幅	8 桁:25.125mm 13 桁:35.625mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	必須:モジュラス 10・自動計算
UPC-E	印字桁数	6 桁
	印字幅	19.125mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	必須:モジュラス 10・自動計算
NW-7	印字桁数	3~23 桁(28 桁) スタートストップコード含む
	印字幅	9.25~69.25 (84.25) mm
	印字データ	数字:0~9 スタートストップコード:A~D/a~d 記号: -, \$, :, /, ,, +
	C/D	付加しない
CODE39	印字桁数	3~18 桁(22 桁) スタートストップコード含む
	印字幅	11.125~69.25 (84.75) mm
	印字データ	数字:0~9 スタートストップコード:* 記号: -, ., \$, /, +, %, space アルファベット:A~Z
	C/D	付加は任意:モジュラス 43・自動計算可
ITF	印字桁数	2~34 桁(44 桁)の偶数桁 C/D 含む データが奇数桁の場合、先頭に 0 を付加
	印字幅	6.125~70.125 (90.125) mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	付加は任意:モジュラス 10・自動計算可
CODE128	印字桁数	3~26 桁(46 桁) スタート・C/D・ストップコード含む
	印字幅	9.000~72.000 (127.000) mm
	印字データ	数字:0~9 アルファベット:A~Z,a~z 記号: space, !, ", #, \$, %, &, ', (, ), *, +, -, ., /, :, ;, <, =, >, ?, @, [, ¥, ], ^, _ ` {,  , } ~
	C/D	必須:モジュラス 103・自動計算可



表 2-56 58 mm 用紙

コード	印刷仕様	
JAN	印字桁数	8/13 桁 C/D 含む
	印字幅	8 桁:25.125mm 13 桁:35.625mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	必須:モジュラス 10・自動計算
UPC-E	印字桁数	6 桁
	印字幅	19.125mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	必須:モジュラス 10・自動計算
NW-7	印字桁数	3~15 桁(28 桁) スタートストップコード含む
	印字幅	9.25~45.25(84.25) mm
	印字データ	数字:0~9 スタートストップコード:A~D/a~d 記号: -, \$, /, /, /, +
	C/D	付加しない
CODE39	印字桁数	3~12 桁(22 桁) スタートストップコード含む
	印字幅	11.125~46.00(84.75) mm
	印字データ	数字:0~9 スタートストップコード:* 記号: -, /, \$, /, +, %, space アルファベット:A~Z
	C/D	付加は任意:モジュラス 43・自動計算可
ITF	印字桁数	2~22 桁(44 桁)の偶数桁 C/D 含む データが奇数桁の場合、先頭に 0 を付加
	印字幅	6.125~46.125(90.125) mm
	印字データ	数字:0~9
	C/D	付加は任意:モジュラス 10・自動計算可
CODE128	印字桁数	3~17 桁(46 桁) スタート・C/D・ストップコード含む
	印字幅	9.000~47.000 (127.000) mm
	印字データ	数字:0~9 アルファベット:A~Z, a~z 記号: space, !, ", #, \$, %, &, ', (, ), *, +, -, ., /, :, ;, <, =, >, ?, @, [, ¥, ], ^, _ ` {,  , } ~
	C/D	必須:モジュラス 103・自動計算可

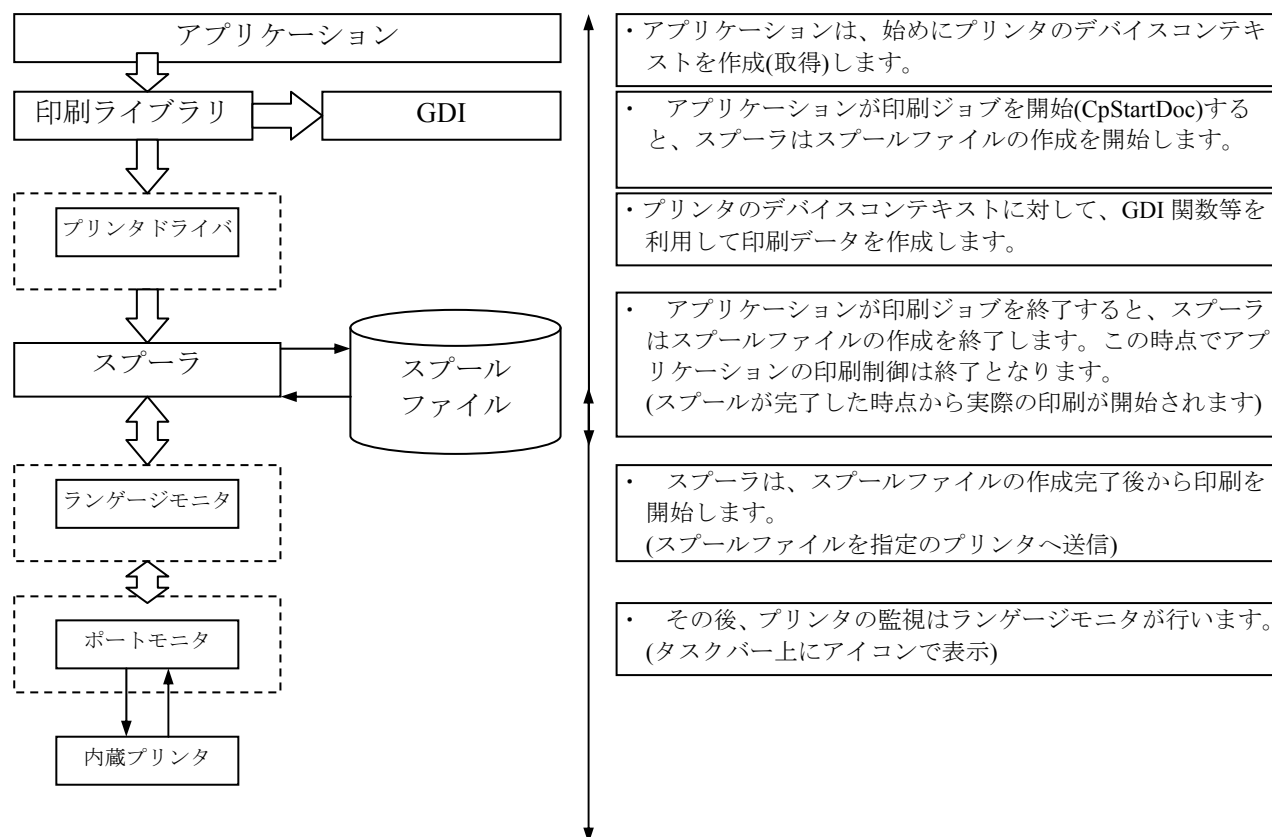
## 2.3.2 印刷システムによる印字機能

印刷システムライブラリを使用すると、Windows CE の GDI 関数を利用した印刷データの作成と印刷が可能になります。

※ 印刷システムライブラリの関数仕様については、「GUI ライブラリマニュアル」を参照してください。

### 印刷システムの構成

印刷システムの構成を以下に示します。

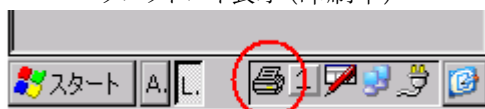


### 印刷処理

アプリケーションは、印刷システムの印刷ライブラリを使用して印刷データの作成、および印刷を行います。アプリケーションでの印刷は、上記のプリンタドライバを経由してスプーラがスプールファイルを作成するまでのことを意味します。実際の印刷は、スプーラがスプールデータ作成後にランゲージモニタ・ポートモニタを経由して印刷データを送信して印刷します。

印刷が開始されると、下図のようにタスクトレイにアイコンが設定されます。アイコンをダブルクリックすると、印刷中ダイアログを開きます。

タスクトレイ表示(印刷中)



印刷中ダイアログ (内蔵プリンタ)



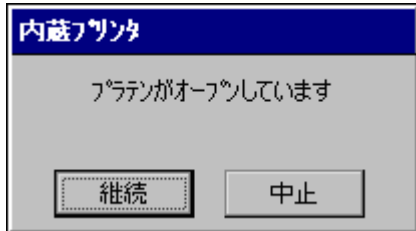
キャンセルボタン : 印刷が中断されます。

ダイアログを閉じる: タスクトレイにアイコンが表示されます。

## プリンタの監視

印刷システムでは、アプリケーションは印刷データのスパールファイルが作成された時点で印刷終了となります。その後のプリンタの監視は、ランゲージモニタがポートモニタを経由して行います。ランゲージモニタがプリンタのエラーを検出した場合は、ダイアログボックスを表示して通知します。

エラー表示ダイアログ (内蔵プリンタ)



印刷中にエラーが発生するとエラーダイアログが開きます。

継続ボタン:印刷を続けます。

中止ボタン:印刷が中断されます。

## プリンタの設定

印刷システムでは、プリンタプロパティダイアログを表示してプリンタの設定を行うことができます。



【用紙方向】 用紙方向を変更することができます。縦／横

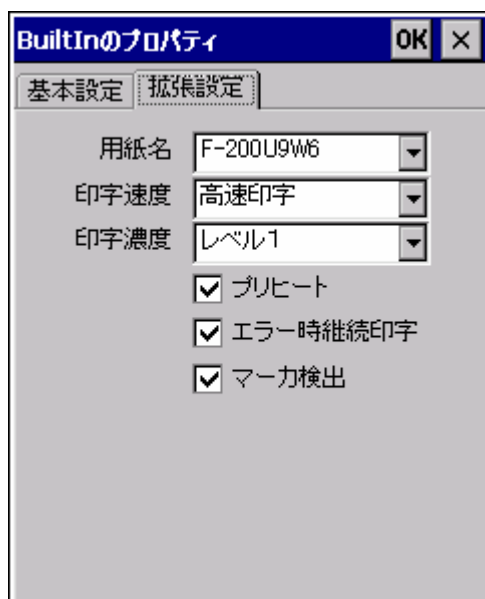
【印刷用紙】 フリーサイズ固定です  
【幅】 幅の値を指定できます。直接入力かスピンコントロールにより設定可能です。

【長さ】 長さの値を指定できます。直接入力かスピンコントロールにより設定可能です。

【コピー枚数】 コピー枚数の値を指定できます。直接入力かスピンコントロールにより設定可能です。

【部単位】 部単位印刷の可否を設定します。チェックが ON の場合に部単位印刷が行われます。

【モノクロ化】 モノクロ化の方法を設定します。完全2値／パターン／誤差拡散



- 【用紙名】 用紙名を設定します。  
F-200U9W6/HS360/AFP-235/  
HG56S/TLC00
- 【印字速度】 印字速度を設定します。  
高速印字/低速印字(高品位)/  
グラフィック印字
- 【印字濃度】 印字濃度を設定します。  
レベル1 ~ レベル9
- 【プリヒート】 プリヒートの可否を設定します。  
チェックが ON の場合にプリヒート  
が行われます。
- 【エラー時継続  
印字】 エラー時継続印字の可否を設定し  
ます。チェックが ON の場合にエラ  
ー時継続印字が行われます。
- 【マーカ検出】 マーカ検出の可否を設定しま  
す。チェックが ON の場合にマーカ  
ー検出が行われます。

## 2.3.3 検出機能

### マーカ―検出

用紙裏面のマーカ―(5mm)を検出する機能で、印字を行う際に印字位置を合わせるために使用します。

マーカ―検出機能実行後、約 30cm 以内にマーカ―を検出できなかった場合は、マーカ―検出エラーを出力し停止します。

マーカ―検出を行うには、プリンタライブラリ関数 PRNCheckMarker を使用します。

※ マーカ―検出中にエラー(サスペンド処理を含む)が発生した場合は、マーカ―検出を中止しエラーを返します。

※ マーカ―検出は、未印字データが無い状態(プリンタオープン直後、または未印字吐き出し正常終了後)で実行してください。

マーカ―検出機能を利用した、プレ印刷帳票を作成する場合の注意点については、「2.3.7 帳票作成のガイドライン」を参照してください。

### プラテンオープン検出

印字、または用紙フィードを行う前に、プラテンの状態を自動的に検出します。

プラテンが開いている状態(プラテンオープン)ならば、印字、または用紙フィードを行いません。

※ リセット後、またはプラテンを開閉した後に印字を行うと、印字前に十数ドット分フィードします。これは、プラテンの開閉によって発生する、プリンタモーターのギヤ間のバックラッシュ(隙間)を埋めるための動作です。

### 紙無し検出

印字、または用紙フィード中に用紙がなくなった場合は、紙無し(ペーパーエンド)を検出し、自動的に停止します。また印字開始時に用紙がセットされていない場合は、印字動作を行いません。

### 電源電圧(VDETP)検出

印字するために必要な電源電圧(VDETP)があるか否かを印刷時に監視しています。

印刷中に VDETP 以下になった場合は印刷中の同時発色ドット数を減少させて印刷による電圧降下を抑制し印刷を継続します。同時発色ドット数が最小の場合に VDETP が発生すると、エラー(電圧エラー: VDETP)を出力して印刷を中断します。

※ 電圧エラーが出力された場合は、電池を交換してから印字を行って下さい。

### ヘッド温度検出

良好な印字結果を得るために、ヘッド温度を検出し熱制御を行います。

また、ヘッドの異常な温度上昇による発火等を防ぐために、ヘッド温度が規定温度を超えないように常時監視します。規定温度を超えた場合は、強制的にヘッドへのエネルギー供給を停止させます。

## ハードエラー検出

プリンタが故障し、スローブ信号を出力(紙へ熱エネルギーを印加)し続ける状態になった事を検出した場合は、印字を中止します。

## ヘッド温度保持機能

ヘッド温度が常時、または一定時間適温となるように制御します。

ヘッド温度保持機能は、下記のような制御を行います。

- ヘッド温度が適温に達していない場合は適温になるまでヘッド温度を上昇させ、適温に到達後はヘッド温度の上昇を停止します。
- ヘッド温度保持機能を有効時は、PRNClose 実行後もヘッド温度保持を継続します。
  - ※ APO は、PRNClose 後に設定通りに動作します。
- ヘッド温度保持時間を常時、または 5 分単位で 1 時間まで指定することが可能です。
  - ※ 指定時間は、ヘッド温度保持コマンドを最後に送信した時間からの経過時間となります。印刷中は経過時間に含まれますが、サスペンド中は経過時間に含まれません。
- I/OBOX・AC アダプタ接続中(充電中)は、ヘッド温度を上昇させません。
  - ※ ヘッド温度の上昇を行うと電池が充電されないため、I/OBOX・AC アダプタ接続中はヘッド温度の上昇を停止します。

※ ヘッド温度保持機能を有効にすると、印刷時以外もプリンタに熱エネルギーを加えるため、印字量に影響(低下)します。

## 2.3.4 エラー制御

エラーや電源 OFF 等が発生した場合の処理は、ESC のエラー時継続指定コマンドで設定した内容に従います。

表 2-57

エラー要因	エラー時継続指定:有効		エラー時継続指定:無効	
	印字データ	エラー解除後動作	印字データ	エラー解除後動作
電源 OFF/VDET2	保持	継続して印字 ※1	※5 クリア	停止
VDETP	保持	継続して印字	保持	継続して印字 ※2※3
紙無し	保持	継続して印字	クリア	停止
プラテンオープン	クリア (印刷中に発生した場合)	停止	クリア (印刷中に発生した場合)	停止
ヘッド温度	保持	継続して印字	保持	継続して印字 ※2
マーカー検出※4	—	停止	—	停止
ハードエラー	クリア	停止	クリア	停止

- ※1 現在印字中のドットラインを即時停止し、エラー解除後に停止したドットラインから印字を再開するため、±1 ドットライン程度のズレが発生します。
- ※2 VDETP やヘッド温度等のエラーは、ユーザー操作では回避することが困難であるため、システムとしては「エラー時継続指定」に関わらず、印字継続可能とします。これらのエラーでも印字を継続させたくない場合は、エラー発生後に ESC の「CAN」を送信することで印字データをクリアすることが可能です。
- ※3 VDETP は、電池交換 (Suspend/Resume) によりエラーが解除されます。充電で電圧が復帰した場合も一度電源 OFF/ON をして下さい。
- ※4 マーカー検出はエラー時継続指定に関わらず、停止しエラーを返します。
- ※5 VDETP/ヘッド温度エラー発生後、次の印刷要求 (テキスト印刷やイメージ印刷など) が行われるまでは、電源 OFF/VDET2 が発生しても印字データは保存しています。

### エラーの優先順位

本プリンタは、下記のような優先順位でエラーを通知します。

表 2-58

優先順位	エラーの種類
1	電源 OFF/VDET2 発生
2	ハードエラー
3	プラテンオープンエラー
4	紙無しエラー
5	VDETP 発生
6	ヘッド温度エラー

## ヘッド温度異常

ヘッド温度が異常上昇して発火等起こさないように常時監視をしています。  
ヘッド温度が異常上昇した場合は、即時にヘッド電源を切り下記のメッセージを表示します。

プリンタヘッドの電源を切りましたので、印刷する前にリセットして下さい。

### 2.3.5 レジストリ情報

プリンタとして各種設定項目がありますが、その中で下記のはレジストリに保存されています。  
したがって、リセットした場合でも、設定を変更しない限り、保存されているデータが有効になります。

レジストリキーは、下記のとおりです。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥DRIVERS¥BUILDIN¥PRNDRV

表 2-59

項目		レジストリキー値
用紙設定	用紙種類指定	PAPER_TYPE
	用紙幅指定	PAPER_WIDTH
印字品質設定	印字濃度指定	DEPTH_OF_COLOR
	印字速度指定	PRINT_SPEED
機能設定	オートローディング指定	AUTOLOADING
	プリヒート指定	PREHEAT
	エラー時印字継続指定	PRINT_CONTINUATION



## 2.3.6 ESCコマンド一覧

プリンタを制御するための ESC コマンドを下記に示します。

表 2-60

コマンド	名称	初期値
CR、LF、FF	印字・紙送り	—
BS	一文字削除	—
CAN	バッファクリア	—
ESC B n1 n2	n(mm)紙送り	—
ESC b n1 n2	n(dot)紙送り	—
ESC r n	右マージン指定	00h
ESC s n	左マージン指定	00h
ESC A n	改行ピッチ指定	08h
ESC W n	文字間ピッチ指定	00h
ESC J n	自動改行指定	01h (有効)
ESC Y n	入力文字コード選択	00h (Unicode)
ESC C n	漢字変換設定	01h (有効)
ESC u n	国際文字選択	08h (日本)
ESC t n	文字コード表選択	01h (カタカナ)
ESC F n	文字フォント指定	02h (16dot font)
ESC S n1 n2	文字サイズ指定	n1=00h (1倍) n2=00h (1倍)
ESC O n	文字装飾指定／解除	00h (解除)
ESC L n	横印字(回転)指定／解除	00h (解除)
ESC m n Data	外字定義(登録)	—
ESC K n1 n2 Data	スタンプ定義(登録)	縦横 96dot の白いスタンプ
ESC G	スタンプ印刷	—
ESC Q n	イメージデータ合成	00h (解除)
ESC I n	ビットイメージサイズ指定	00h (1倍)
ESC V n	印字速度指定	01h (低速(高品位))
ESC D n	印字濃度指定	05h (標準)
ESC P n	用紙指定	00h (F200)
ESC H n	プリヒート指定	00h (無効)
ESC p n	ヘッド温度保持機能	00h (無効) 01h~0Ch (時間指定:5分単位) FFh (常時有効)
ESC T n	オートローディング指定	00h (無効)
ESC R n	エラー時印字継続指定	00h (無効)
ESC M	マーカー検出	—
ESC E	未印字データの吐出し(印字継続)	—
ESC h n	バーコードの高さ指定	12 (mm)
ESC c n	バーコードの C/D 指定	01h (付加する)
ESC f n	バーコードのデータ印字指定	01h (8x16 フォント)
ESC e n	バーコード印字時の左マージン指定	00h
ESC d n	バーコードの印字方向指定	00h (縦)

---

ESC g n1 n2 Data	バーコード印字	—
ESC Z n	初期化	—

## 2.3.7 帳票作成のガイドライン

DT-9800 のプリンタによる印刷では、印字位置の誤差が発生します。  
したがって、用紙に対してプレ印刷等を行う場合は、誤差を考慮して作成する必要があります。

下記に、プレ印刷帳票の例を示します。

(例)

マーカ―から印刷開始位置までが A mm、印字位置の誤差が±2 mm、文字の高さが 4 mm の場合

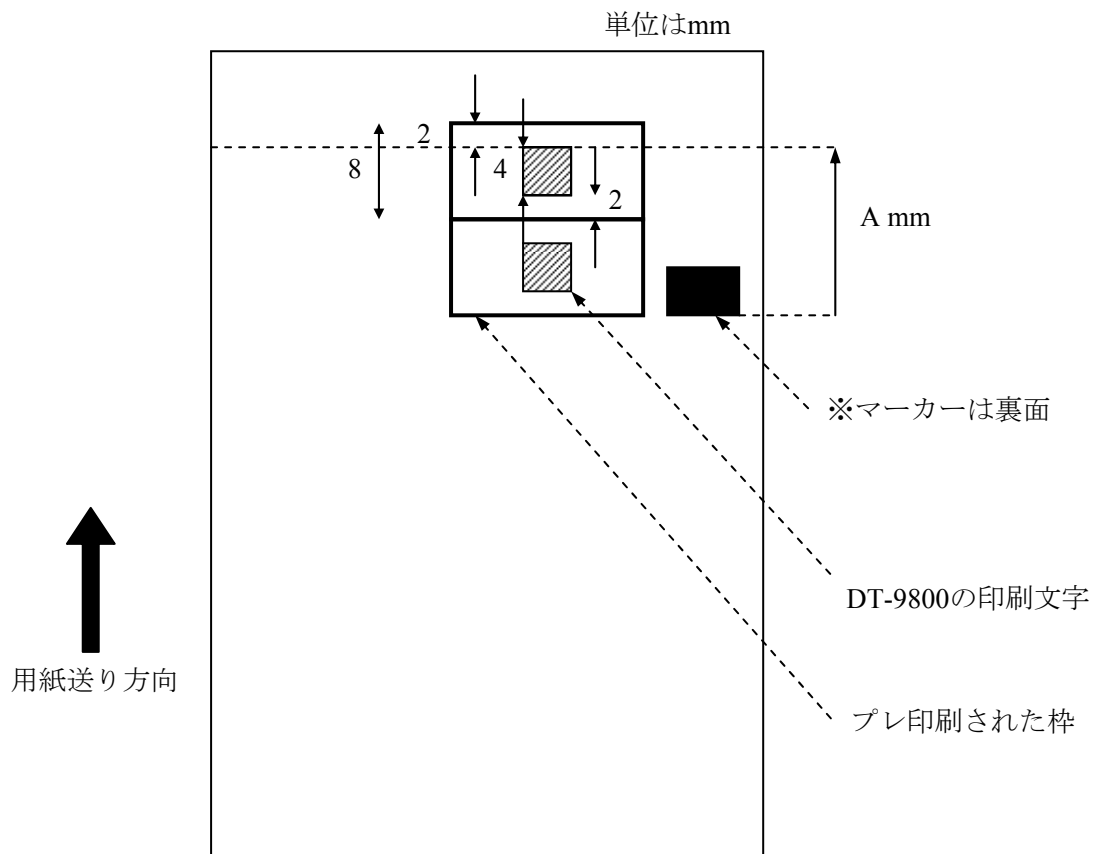


図 2-13

また、印字精度として、紙送りの累積誤差が発生します。  
長い帳票を印字する場合は、途中に別のマーカ―を設けて再度マーカ―検出を行い、累積誤差を解消する必要があります。

## 2.4 シリアル通信

DT-9800 には、8 pin と拡張 14 pin のシリアルインターフェイスがあります。

### 2.4.1 仕様

表 2-61

	パラメータ
ボーレート (bps)	300 / 600 / 1200 / 2400 / 4800 / 9600 / 19200 / 38400 / 57600 / 115200
データビット (bit)	7 / 8
パリティ	なし、奇数、偶数
ストップビット (bit)	1 / 2
フロー制御	なし、ハードウェア、ソフトウェア

### 2.4.2 COMポート

シリアル通信で使用する COM ポートは以下のとおりです。

表 2-62

8 pin	COM1
14 pin	COM4

### 2.4.3 Wake On 機能

拡張 14 pin には RI(CI)信号による Wake On 機能があります。

ただし、標準的な 14 pin デバイスがないため、設定メニューはありません。アプリケーションで有効/無効を設定し、イベント受信待ちをしてください。

また、WakeOn 機能を有効にして、本体の電源をオフしているときにも、14 pin デバイスに電源を供給するかどうか指定可能です。

## 2.5 IrDA通信

### 2.5.1 サポート速度

IrDA は、以下の物理速度をサポートします。

表 2-63

経由	SIR	FIR
IrDA プロトコル	9600、19.2K、38.4K、57.6K、115.2K bps	4M bps
RAW IR	9600、19.2K、38.4K、57.6K、115.2K bps	—

- IrDA プロトコル使用時の通信速度は、相手機器とのネゴシエーションで自動的に決定します。
- 自機と相手機とのサポート速度のうち両方でサポートしている最高速度で通信を行います。
- アプリケーションによる転送速度の設定はできません

### 2.5.2 COMポート

IrDA で使用する COM ポートは以下のとおりです。

表 2-64

IrDA プロトコル	COM3
RAW IR	IRD1

- IrDA 機器との通信をアプリケーションから直接プログラミングする場合、API として上記の COM ポートでなく、**IrSock** を使用することを推奨します。IrSock の仕様は MSDN を参照下さい。
- COM3 を使用した通信では、接続できたかどうかの確認が取れない等、厳密な通信管理が出来ないため推奨できません。どうしても使用せざるを得ない場合には、上位プロトコル側で通信管理を行う等、十分なシステム設計と検証が必要です。
- IRD1 は、プロトコルを介さず、生のデータを直接、赤外線上で送受信します。IrDA 物理層規格に準拠しているが、IrDA プロトコルを搭載していない機器との通信に使用します。赤外線上で生のデータのやりとりを行う事から、通信相手および上位で用いる通信速度、通信プロトコル等の組み合わせにより安定した通信ができない場合があります、推奨できません。どうしても使用する場合、システム構築時に赤外線通信の特性を十分に考慮の上、システム設計および検証を行ってください。

## 2.6 Bluetooth通信

### 2.6.1 基本機能

#### マスター

スレーブ(通信待機状態)の Bluetooth 機器に対して接続動作を行います。

#### スレーブ

通信待機状態となり、マスターからの接続動作を待ちます。

#### セキュリティ/暗号化

Bluetooth 規格によって定められたセキュリティ(PassKey 交換)と暗号化をおこないます。

#### AFH

Bluetooth が使用する電波の周波数帯域を自動または手動で制限します。

#### Fast Connection

Bluetooth 接続用の電波を、より高速に接続できる送信パターンに設定します。

## 2.6.2 通信プロファイル

以下の Bluetooth プロファイルをサポートします。

表 2-65

機能	目的
GAP (General Accessible Profile)	デバイス発見、リンク確立、セキュリティ等 Bluetooth 通信の基礎部分に使用します。
SDP (Service Discovery Profile)	接続先の Bluetooth 機器が現在使用可能なサービスの検索に使用します。
Serial Profile(クライアント)	Bluetooth シリアル通信において、他の Bluetooth 機器に接続する場合に使用します。
Serial Profile(サーバ)	Bluetooth シリアル通信において、他の Bluetooth 機器から接続を受け入れる場合に使用します。
DUN (Dial-Up Network)	Bluetooth 携帯電話を経由したダイヤルアップ通信に使用します。
PAN (Personal Area Network)	Bluetooth PAN アクセスポイントを経由したネットワーク通信に使用します。
OBEX Object Push Profile	簡易ファイル送受信として使用します。
File Transfer Profile	Bluetooth 規格で規定されたファイル送受信として使用します。

Bluetooth の通信用途と通信方法、およびプロファイルの関係は、以下のとおりです。

表 2-66

通信する Bluetooth 機器	通信用途	プロファイル
Bluetooth 携帯電話、Bluetooth モデム等	ダイヤルアップ	DUN
Bluetooth アクセスポイント (PAN Profile 対応)	LAN 接続	PAN
Bluetooth プリンタ	プリンタへの印字	Serial Profile
Bluetooth 対応 PC + Active Sync	ホスト PC との接続	Serial Profile
HT 本体間、Bluetooth 対応 PDA、 Bluetooth 対応 PC 等	Bluetooth 機器間の ファイル転送	OBEX Object Push File Transfer

### 2.6.3 セキュリティ

Bluetooth 規格に定められているセキュリティ機能をサポートします。

Bluetooth のセキュリティは認証と暗号化に分けられ、その実現には PassKey(PIN コードとも呼ばれる)を使用します。

PassKey は Bluetooth 機器との接続や信頼関係(ボンディング)を形成するときに使用する共通の認証キーです。

最大で 16 文字(ASCII コード)まで使用可能ですが、相手の Bluetooth 機器の仕様によっては、桁数・使用可能文字に制限のある場合があります。また PassKey の入力、PassKey 入力要求が発生してから 30 秒以内に行う必要があります。

なお、事前に接続する Bluetooth 機器と「デバイスの信頼」を実行すると、以降は PassKey の入力が不要になります。ただし、相手の Bluetooth 機器も信頼関係を記憶している必要があります。

暗号化は、PassKey 交換後に生成されるリンクキーと 128 ビットの乱数から生成した暗号キーを使用して行います。ただし、相手の Bluetooth 機器も暗号化をサポートしている必要があります。暗号化を有効にした場合、Bluetooth 接続時に PassKey の交換が必要です。

### 2.6.4 COMポート

Bluetooth で使用する COM ポートは以下のとおりです。

表 2-67

Serial Profile (クライアント)	COM5
Serial Profile (サーバ)	COM8
DUN (Dial-Up Network)	BTP1

#### Bluetooth COM ポートの同時使用について

複数の Bluetooth COM ポートを同時にオープンして使用することはできません。



## 2.6.5 通信手順

Bluetooth を使用した通信の基本的な手順は、以下のとおりです。

### 1. Bluetooth の初期化

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用して、初期化を行います。  
Bluetooth モジュールの電源が ON になり、Bluetooth プロトコルスタックの初期化を実行します。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ  
BTInitialize Bluetooth プロトコルスタックの初期化

### 2. デバイスの探索

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用して、デバイス探索を行います。  
デバイス探索用の電波を送信し、周囲にある使用可能な Bluetooth 機器から機器情報を取得します。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ  
BTGetDeviceInfo 接続する Bluetooth 機器のデバイス情報の取得

### 3. サービス情報の取得

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用して、サービス情報を取得します。  
通信先の Bluetooth 機器が現在使用可能なサービス(プロファイル)の情報を取得します。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ  
BTGetServiceInfo 通信する Bluetooth 機器のサービス情報の取得

### 4. PassKey 交換によるセキュリティ認証

サービス情報の取得、および Bluetooth 接続を実行する時点で、通信先の Bluetooth 機器が PassKey を要求する場合があります。

Bluetooth ツールの場合は、PassKey 入力画面に双方の Bluetooth 機器ともに同じ PassKey を入力します。

Bluetooth ライブラリの場合は、PassKey 設定関数を実行してあらかじめ PassKey を設定しておきます。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ  
BTSetPassKey PassKey の設定

## 5. Bluetooth の接続

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用して、Bluetooth を接続します。  
Bluetooth 接続完了後は、切断を実行するまで選択したプロファイルを使用して Bluetooth 通信を行うことが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

### Bluetooth ライブラリ

BTConnectSerial	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルで接続を実行
BTConnectPAN	Bluetooth PAN プロファイルで接続を実行
BTConnectHeadset	Bluetooth ヘッドセットへの接続を実行

## 6. Bluetooth の切断

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用して、Bluetooth 接続を切断します。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

### Bluetooth ライブラリ

BTDisconnectSerial	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルの接続を切断
BTDisconnectPAN	Bluetooth PAN プロファイルの接続を切断
BTDisconnectHeadset	Bluetooth ヘッドセットとの接続を切断

## 7. Bluetooth の終了

Bluetooth ツールを終了する、または Bluetooth ライブラリを使用して Bluetooth 終了関数を実行すると、Bluetooth プロトコルスタックが終了処理を実行し、Bluetooth モジュールの電源を OFF にします。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

### Bluetooth ライブラリ

BTDeInitialize	Bluetooth プロトコルスタックのリソースの解放
----------------	-----------------------------

## 2.6.6 プロファイルごとの通信手順

Bluetooth 通信では、電波環境により通信リンクが切断されてしまう可能性があるため、アプリケーションではリトライ処理を必ず行ってください。リトライ処理は、無線 LAN と Bluetooth の干渉だけでなく、ISM バンドを利用する電子レンジ等の他の機器との干渉時にも必要です。

### シリアルプロファイル

Bluetooth の接続管理を、Bluetooth ツールまたは Bluetooth ライブラリで行います。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ

BTConnectSerial	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルで接続を実行
BTSendSerialData	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルでデータの送信実行
BTReceiveSerialData	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルでデータの受信実行
BTDisconnectSerial	Bluetooth 仮想シリアルプロファイルの接続を切断

### DUN (Dial-Up Network)

Bluetooth の接続管理を、Bluetooth ツールまたは Bluetooth ライブラリで行います。

"BTP1"を使用する RAS 設定を使用して、通信を行います。

接続後は TCP/IP 通信が可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

Bluetooth ライブラリ

BTSelectDevice	接続する Bluetooth 機器の指定
----------------	----------------------

### PAN(Personal Area Network)

Bluetooth ツールでアクセスポイントに接続後、TCP/IP 通信が可能です。

### OBEX(Object Push Profile)

Bluetooth ツールを使用して、ファイル送受信を行います。

### FTP(File Transfer Profile)

Bluetooth ツールを使用して、ファイル送受信を行います。

## 2.6.7 通信切断時処理

周囲の電波状況などにより、Bluetooth 通信が切断する場合があります。アプリケーションでは、WriteFile API や ReadFile API などのエラーとして、通信切断を検出することが可能です。

通信の切断が発生した場合には、Bluetooth ツールまたはアプリケーションを使用して、通常の Bluetooth 切断処理を行った後、再度 Bluetooth 接続を行ってください。

通常の Bluetooth 切断処理を行わない場合には、Bluetooth スタック内部において下位層では切断されているが上位層では接続状態になっているなどの不整合が発生し、通信が継続できなくなる可能性があります。

## 2.6.8 サスペンド/レジューム時処理

Bluetooth 使用時に本体のサスペンドを実行すると、本体内蔵 Bluetooth デバイスの電源を自動的に OFF します。その後本体のレジュームを行うと、内蔵 Bluetooth デバイスの電源も自動的に ON しますが、一度電源が OFF されたことにより、Bluetooth 通信に必要なパラメータが初期状態に戻るため、Bluetooth デバイスに再度これらのパラメータ設定する必要があります。このため、Bluetooth スタックの再初期化を実行する必要があります。

Bluetooth ツール、または Bluetooth ライブラリを使用している場合は、サスペンド/レジュームを自動的に検出して、Bluetooth スタックの再初期化を自動的に実行します。

## 2.6.9 SRモードパラメータ設定

Bluetooth 通信を行う場合には、マスターの Bluetooth 機器からスレーブの Bluetooth 機器に電波を送信して接続を行います。ただし、接続する Bluetooth 機器によっては接続に時間がかかる場合があります。この場合、Bluetooth 接続で使用する SR モードパラメータを変更することで、マスターの Bluetooth 機器が接続時に送出する電波パターンが変化し、その結果 Bluetooth 通信の接続時間を短縮できる場合があります。

SR モードパラメータは、以下のレジストリで設定が可能です。

[HKEY\_CURRENT\_USER¥SOFTWARE¥RXBT¥HCI]

表 2-68

キー名	設定値	意味
DEFAULT_PAGE_SCAN_REP_MODE	dword:0/1/2	0:R0、1:R1、2:R2

- SR モードパラメータの変更は、Bluetooth 接続を行う前に行ってください。
- SR モードパラメータを変更しても、相手の Bluetooth 機器との接続時間が短縮されない場合があります。

## 2.6.10 通信可能距離

他の Bluetooth 機器とは、見通し距離約 3m 以内で通信してください。周囲の環境(障害物)によっては通信可能距離が短くなります。

## 2.7 通信カード

DT-9800 には PC Card インターフェイスがあり、無線 LAN カードや電話カードなどの PC Card および Compact Flash カード (PC Card アダプタに装着) を使用することができます。

### 2.7.1 通信カードドライバ

DT-9800 で通信カードを使用する場合は、カードメーカーより提供されるドライバおよびユーティリティを使用してください。その際、使用するドライバおよびユーティリティは、以下の条件に合致していなければなりません。

表 2-69

項目	内容	備考
対応 OS	Windows CE 5.0	Windows Mobile 用は不可
対応 CPU	ARMV4I	
ユーティリティの画面構成	縦 320 ドット×横 240 ドット	

DT-9800 に内蔵されている、Microsoft 提供の通信カードに関連したドライバは以下のとおりです。ただし、各ドライバに対応した特定のカードがあるわけではないので、動作保証はできません。

表 2-70

カード	関連するドライバ	備考
シリアルカード	・Serial port driver for the 16550 UART	
モデムカード	・Unimodem (TAPI Service Provider) Driver ・Tapi driver	
LANカード	・NDIS Miniport driver for generic NE2000 ・NDIS Miniport driver for Xircom CE2B PC Card adapter ・Cisco 802.11 PC Card driver	

### 2.7.2 カード電源投入切り替え

PC Card インターフェイスに電源を投入するかどうかを、コントロールパネルから設定します。メモリカードや LAN カードなど、デフォルト設定では常時電源を投入するカードについて不使用時にカード電源をオフすることで、電池寿命を延ばすのに有効です。この設定は PC Card スロットの電源を制御するため、挿入するカードの種類を問わず、全てのカードについて影響します。ユーザーアプリケーションで PC Card を制御する場合は、API で切り替えることを推奨します。

### 2.7.3 Wake On 機能

PC Card インターフェイスには、STSCHEG 信号による Wake On 機能があります。ただし、標準的な PC Card デバイスがないため、設定メニューはありません。アプリケーションで有効/無効を設定し、イベント受信待ちをしてください。その際、使用する通信カードドライバが Wake On 機能に対応している必要があり、使用するカードによってはカード内部の設定も変更する必要がある場合もあります。(詳細は、使用する通信カードの説明書を参照してください)

DT-9800 に内蔵されている通信カードドライバは、WakeOn 機能に対応していません。

## 2.7.4 セキュリティ機能

DT-9800 の OS (Windows CE 5.0) がサポートしているセキュリティ機能は以下のとおりです。

表 2-71

	使用可能なセキュリティ機能	備考
EAP	MD5	TLS は表示されるが使用できない
VPN	PPTP	IPv6 を使用しても IPsec はない
Web サービス	SSL 2.0/3.0, TLS 1.0	サーバ認証

その他のセキュリティ機能が必要な場合は、使用する通信カードのドライバおよびユーティリティ、アプリケーションにて対応する必要があります。

## 2.8 電源制御

この節では、DT-9800 の電源制御について説明します。

### 2.8.1 低電圧監視制御

本体ハードウェアによる低電圧検出レベルには、以下の 4 つがあります。

表 2-72

レベル	内容	動作	次回立ち上げ
VDET1	主電池電圧低下警告	主電池低下警告表示	—————
VDET2	主電池電圧低下 OFF	電源 OFF	レジューム(立ち上げ時警告あり)
VDET3	主電池電圧低下緊急 OFF	クリチカル OFF	ウオームブート(立ち上げ時警告あり)
VDETPC	PC 電圧低下 OFF	電源 OFF	レジューム(立ち上げ時警告あり)

### メインバッテリー

表 2-73

		文字表示	詳細
状態	外部	外部電源	外部電源が供給されていて、充電が完了している状態
	充電	充電中	外部電源が供給されていて、充電中の状態
	通常	メインバッテリー	バッテリーにより駆動している状態
レベル	1	O.K.	満充電もしくは、十分にバッテリーがある状態
	2	低	バッテリーの容量が 25%以下の状態
	3	残りわずか	バッテリーの容量が 10%以下の状態

#### メインバッテリーの状態とレベル:

通常 5 秒おきにバッテリーの状態をチェックします。

パワーマネージメントのプロパティが表示されている間のみ、1 秒おきにバッテリーの状態をチェックします。

過去 10 回分までの電源電圧の AD コンバータのデータを平均し、その値から「残りわずか」、

「低」、「O.K.」の 3 段階に分類して文字表示で行います。

VDET1 発生時は 10%になります。



## ユーザー通知方法

VDET1 状態時には、アプリケーションに対して、WM\_POWERBROADCAST メッセージで PBT\_APMBATTERYLOW を定期的を送信します。

メッセージの詳細は下表のとおりです。

表 2-74

電池種別	Message	wParam	lParam	通知 間隔
メインバッテリー	WM_POWERBROADCAST	PBT_APMBATTERYLOW	0	5 秒

```
#define WM_POWERBROADCAST    0x0218
```

```
#define PBT_APMBATTERYLOW    0x0009
```

アプリケーションから電圧監視を行う場合は、GetSystemPowerStatusEx2() API を使用します。取得可能な値を以下にしめします。

表 2-75

ACLineStatus	AC 電源の状態を返します。	AC_LINE_OFFLINE: AC 電源非接続 AC_LINE_ONLINE: AC 電源接続
BatteryFlag	メインバッテリーの状態を返します。	BATTERY_FLAG_HIGH: 「O.K.」 BATTERY_FLAG_LOW: 「低」 BATTERY_FLAG_CRITICAL: 「残りわずか」 BATTERY_FLAG_CHARGING: 充電中
BatteryLifePercent	メインバッテリーの残量を 10%毎に返します。	10% - 100%
BatteryChemistry	メインバッテリーの種別を返します。	BATTERY_CHEMISTRY_LION: 充電池 BATTERY_CHEMISTRY_ALKALINE: 乾電池

## 2.8.2 電源ON要因

電源 ON 要因には、次の種類があります。

1. 電源キーを押すことにより電源 ON します。
  2. Alarm 機能により、指定時間に自動的に電源 ON します。
  3. I/O ボックスにのせると自動的に電源 ON します。  
(I/O ボックス から給電されている場合のみ。デフォルト禁止)
  4. プログラムキーを押すことにより、電源を ON することもできます。
  5. 通信カードが装着されカード電源が入っている場合、着信信号によって電源 ON します。
  6. 通信カードによる WakeOn 設定中にカードが抜かれると電源 ON します。
  7. 14Pin シリアルからの起動要求により電源 ON します。
  8. WakeOn 設定中に VDET1 が発生した場合、WakeOn 機能を解除するために電源 ON します。  
(ただし、WakeON 解除したら直ぐ OFF するので、ユーザーが ON を確認することはできません。)
- ※ 各起動要因はプログラムから設定・解除できます。

### ■電源 ON 不可条件

電源 ON 時に、以下の項目をチェックし、該当項目がある場合は電源 ON しません。

1. 主電池電圧が起動不可レベルの場合、電源 ON しません。(VDET2 以下)
2. 電池ロックが開いていた場合、電源 ON しません。

## 2.8.3 電源OFF要因

電源 OFF 要因には、以下の種類があります。

1. 本体電源 ON 中に電源キーを押すことにより、電源が OFF されます。(禁止設定可)
2. ソフトウェアの設定により、一定時間アクティビティ(キー、タッチパネル、ディスク、カード、通信)がない場合、自動的に電源が OFF されます。(APO)
3. メインバッテリーの電圧低下により、電源が OFF されます。(VDET2 / VDET3)
4. 電池カバーロックを開けると、電源が OFF されます。(BCVR)
5. PC カードの強負荷による電圧低下により、電源が OFF されます。(VDETPC)

※3 または 5 の要因で OFF された場合、次回起動時に画面にポップアップ表示が出ます。

### ■電源OFF時間

VDET2 / BCVR / VDET PC / VDET3 が検出された場合には、それぞれ下記の所定時間後に、電源を OFF します。

表 2-76

VDET2	200 ミリ秒後に OFF
BCVR	
VDETPC	
VDET3	500 マイクロ秒後に、緊急 OFF (次回の電源 ON でリセットします)

## 2.8.4 省電力制御

省電力制御には、次の種類があります。

### アイドル:

システムやアプリケーションがイベント待ちの状態を検出した場合、CPU をアイドル状態にして省電力にします。

周辺デバイスは動作しています。

### APO(オートパワーオフ):

一定時間キー入力、タッチパネル操作、ディスクアクセス、カードアクセス、通信などが無い状態を検出した場合、自動的に電源を OFF します。

システムライブラリを使用して、APO の許可/禁止、および APO 時間を設定することが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysDisableAPO	オートパワーオフ無効の設定
SysEnableAPO	オートパワーオフ有効の設定
SysGetAPO	オートパワーオフ有効/無効の取得

### 減光/ABO(オートバックライトオフ):

一定時間キー入力、タッチパネル操作、ディスクアクセス、カードアクセス、通信などが無い状態を検出した場合、自動的にバックライトを減光します。

コントロールパネルを使用して、ABO の許可/禁止、および ABO 時間を設定することが可能です。

### CPU 周波数制御:

CPU 周波数を CPU 負荷またはユーザー指定により周波数を変更します。

コントロールパネルまたはシステムライブラリを使用して以下の CPU 周波数を設定することが可能です。

表 2-77

低消費電力 (LOW)	200 MHz
高速 (HIGH)	400 MHz

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

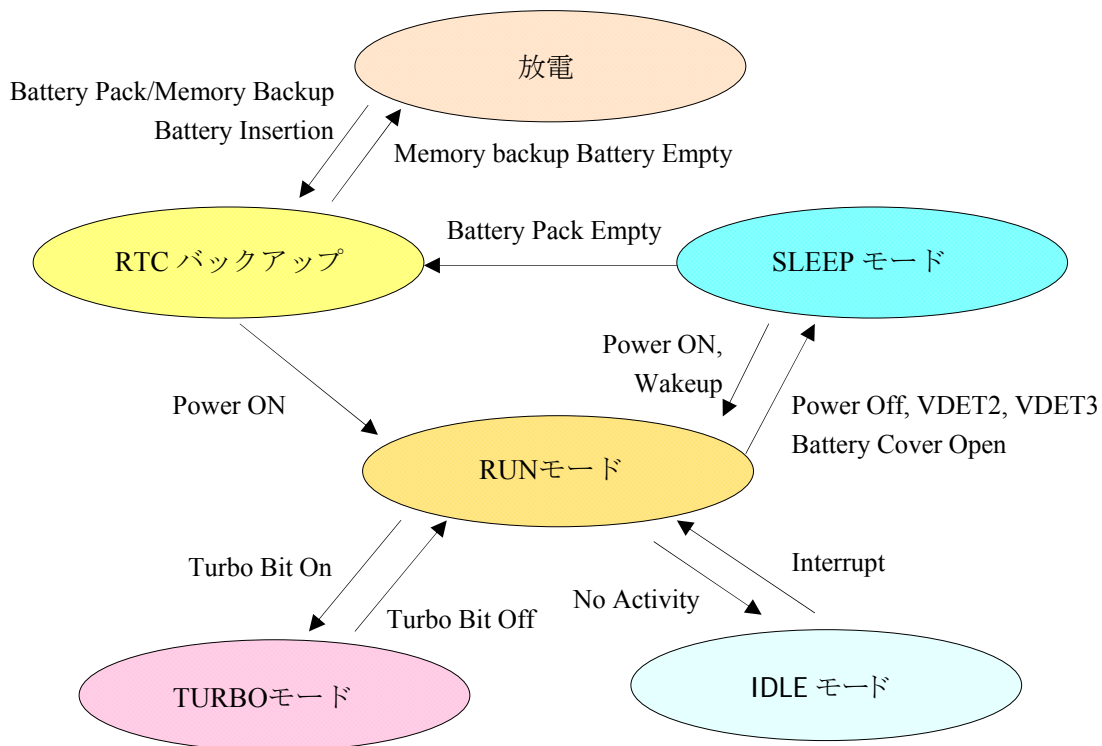
SysSetCPUMode	CPU 周波数制御の設定
SysGetCPUMode	CPU 周波数制御の取得
SysSetDefaultCPUMode	スピード設定を工場出荷状態に設定

## 2.8.5 CPUパワーステート制御

DT-9800 は次のパワー状態をとります。

表 2-78

ステート	内容
放電	主副電池がなく、スーパーキャパシタも放電した状態。 RAM および RTC もバックアップしません。
RTC バックアップ	RTC のみバックアップされている状態。 RAM は保持していません。
SLEEP モード	本体は OFF 状態で、周辺デバイスも停止している状態。 RTC/RAM はバックアップしています。
RUN モード	システムやアプリケーションを実行している状態。 (CPU 内部クロック: 200 MHz)
IDLE モード	システムやアプリケーションがイベント待ちの状態。
TURBO モード	システムやアプリケーションを高速で実行している状態。 (CPU 内部クロック: 400 MHz)



## 2.8.6 充電／給電機能

オプションのシングル／マルチ充電器を使用することにより、付属の電池を充電することが可能です。

また、I/O ボックスに本体を装着することにより、給電および充電が可能です。

オプションの AC アダプタはバッテリーを充電するだけであり、給電しません。

このため、AC アダプタが挿されてもコントロールパネルの電源プロパティでは外部電源表示にはならず、充電しているならば充電中表示となり、充電完了でバッテリー表示に切り替わります。

注) AC アダプタ挿入で満充電後は、次の状態になるまで再充電しません。

- プリンタ印字
- リセット
- 電源 OFF/ON
- アダプタ抜き差し

## 2.9 セキュリティ

DT-9800 では、本体のセキュリティ機能として、以下の 5 点を提供します。

### 2.9.1 本体パスワード設定

Windows CE に搭載されているパスワード設定です。  
コントロールパネルのパスワード設定にて、設定します。

### 2.9.2 日付と時計プロパティのパスワード設定

ユーザーが本体の日付と時計設定を変更できないように、日付と時計設定を開くためのパスワードを設定することが可能です。Windows フォルダの下の PASSTOOL を使用して設定します。  
パスワードは、個別 ID 設定などとともに FlashROM に格納します。

### 2.9.3 個別ID設定

個別 ID は端末個体を識別するユニークなコードです。  
システムライブラリを使用して、個別 ID を読み取ることが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysGetDeviceIDCode DeviceID の取得

### 2.9.4 代理店ID設定

代理店およびユーザーで、個別 ID と代理店 ID を使用して、アプリケーションのインストール時/実行時にチェックを行うことで、アプリケーションの不正使用を防止することが可能です。  
代理店コードは FlashROM 領域に格納します。

代理店 ID を登録するには、ユーザー ID 設定ツールにて行います。

※ ユーザ ID 設定ツールは、別途 DT-9800 サポートサイトからダウンロードしてください。

システムライブラリを使用して、代理店 ID を読み取ることが可能です。

※ この機能に関連するライブラリ関数は、以下のとおりです。

システムライブラリ

SysGetUserIDCode UserID の取得

## 2.9.5 メディアセキュリティ(オプション)

本体の PC カードスロットおよび SD カードスロットで使用するメディアに対し、認証 ID を設定します。指定した本体および PC 以外からのアクセスを禁止することができます。



図 2-14

これによりデータの外部漏洩を防ぐことができます。

### 特徴

- MDSR(カンオ暗号化技術)を使用した強固なセキュリティ機能
- PC 側既存アプリケーションに簡単に搭載可能
- セキュリティに必要なライブラリ、ユーティリティを用意
- VB や VC++ で構築された業務アプリケーションに簡単に搭載可能
- 携帯端末側のアプリケーションは修正不要
- 暗号化、復号化は携帯情報端末で全て処理を行うので端末側 AP はそのまま使用可能
- 端末パスワードの組み合わせによって、端末ごと紛失した場合のセキュリティも考慮

### 3. コントロールパネルアプレット

コントロールパネルアプレットは、DT-9800 の各種設定内容を表示、および変更するプログラムです。

コントロールパネルアプレットは、以下のとおりです。

表 3-1

名前	説明	CASIO	MS
システム	システム情報を表示し、メモリの設定を変更します		○
バージョン情報	デバイスのバージョン情報を表示します。		○
地域	数値、通貨、日付、および時刻の表示方法を変更します		○
日付/時刻	日付、時刻、タイムゾーンの設定を変更します		○
所有者情報	所有者の個人プロフィールを変更します		○
ダイヤル	テレフォニー設定を変更します		○
ネットワークとダイヤルアップ 接続	他のコンピュータ、ネットワーク、およびインターネットに接続します		○
インターネットオプション	インターネット設定を変更します		○
証明書	このデバイスのシステム、デジタル証明書の表示および変更を行います		○
ターミナルサーバーのクライ アントライセンス	登録されたターミナルサービスクライアントの認証ライセンスの表示		○
画面	デスクトップの背景を変更します		○
明るさ	バックライトの明るさを変更します	○	
スタイラス	タッチスクリーンを補正し、ダブルタップの速度を調整します		○
マウス	ダブルクリックの速度を調整します		○
入力パネル	現在の入力方法やオプションを変更します		○
キーボード	リピート入力速度および最大待ち時間を変更します		○
IME設定	IME ツールバーを設定します	○	
ボリューム&サウンド	サウンドの種類と音量設定します		○
記憶域マネージャ	記憶域メディアとディスクパーティションを管理します		○
アプリケーションの削除	デバイスからプログラムを削除します		○
プリンタ設定	プリンタデバイスの設定を変更します	○	
PCとの接続	デスクトップの接続設定を変更します		○
Bluetooth接続	Bluetooth デバイスとの接続を実行します	○	
PC Card電源	PC Card の電源設定を行います。	○	
パワーマネージメント	パワーマネージメントのオプションを変更します		○
CPUスピード設定	CPU スピード設定	○	
パスワード	所有者のパスワードとセキュリティオプションを変更します		○



## 3.1 システム

システムについての表示/設定を行います

### [全般]タブ



DT-9800M53

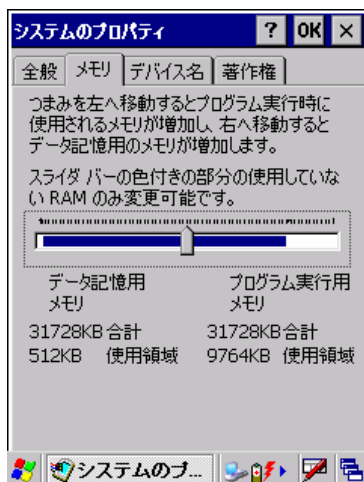
図 3-1



DT-9800M73

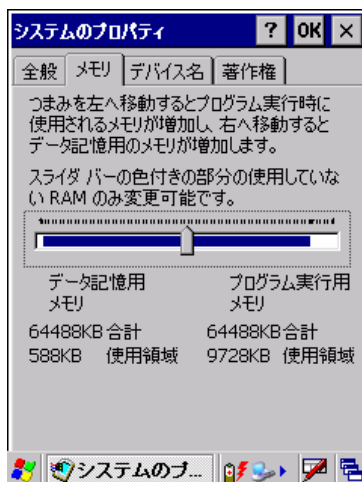
OS のバージョン、搭載している CPU 名、利用できる RAM サイズを表示します。

### [メモリ]タブ



DT-9800M53

図 3-2



DT-9800M73

“データ記憶用メモリ”、“プログラム実行用メモリ”のそれぞれの割合を設定します。

## [デバイス名]タブ

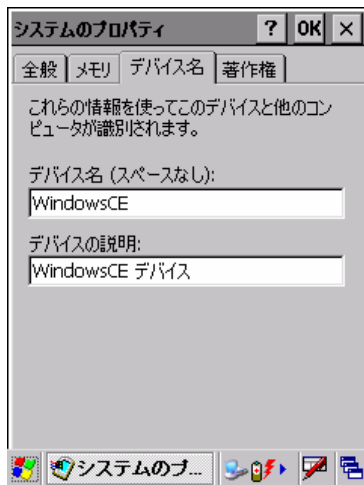


図 3-3

### “デバイス名”

デバイスの名前を指定します。

デバイスの名前に空白を含めることはできません。

### “デバイスの説明”

デバイスの説明文を指定します。

## [著作権]タブ

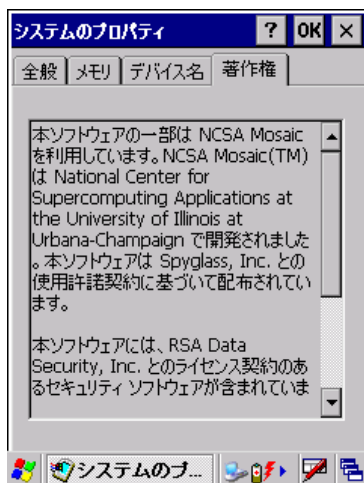


図 3-4

OS の著作権情報を表示します。

## 3.2 バージョン情報

OS、ブートセクション、ローダー、およびサービスパックのバージョンを表示します。



図 3-5

### 3.3 地域

地域/数値/通貨/日付/時刻の表示方法や書式を設定します。

#### [地域]タブ

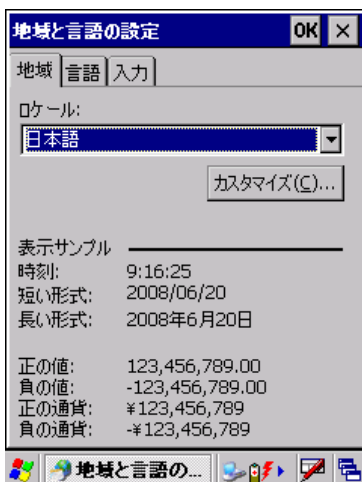


図 3-6

ロケールを選択します。

#### “カスタマイズ(C)...”

“数値”、“通貨”、“時刻”、“日付”の詳細設定画面を表示して、それぞれの詳細を設定します。

#### [言語]タブ

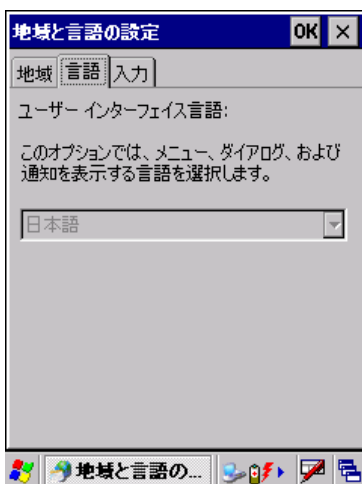


図 3-7

地域タブで選択したロケールでの、言語を表示します。  
言語を変更することはできません。

## [入力]タブ

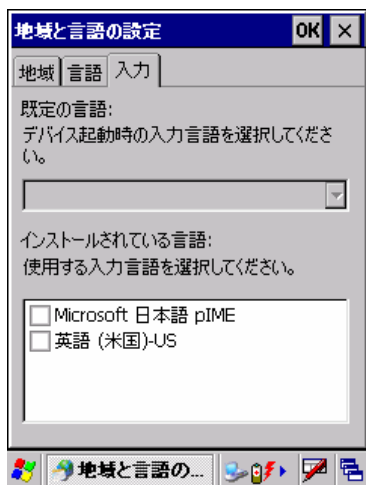


図 3-8

既定の言語を、リストのチェックボックスをオンにして選択します。

## 3.4 日付/時刻

日付および時刻を設定します。

※ パスワードツールによりパスワードが設定してある場合には、パスワードの入力を要求します。



図 3-9

現在の日付と時刻、およびタイムゾーンを設定します。

## 3.5 所有者情報

所有者に関する情報を設定します。

### [所有者情報]タブ

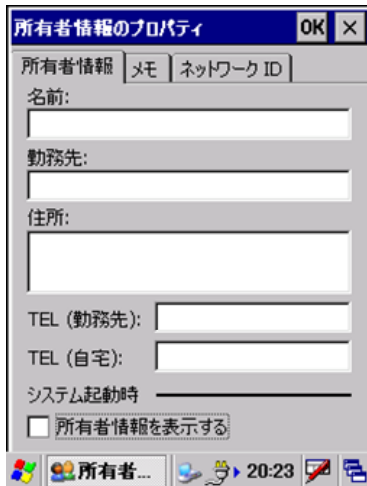


図 3-10

#### “名前”

名前を指定します。

#### “勤務先”

勤務先を指定します。

#### “住所”

住所を指定します。

#### “TEL(勤務先)”

勤務先の電話番号を指定します。

#### “TEL(自宅)”

自宅の電話番号を入力します。

#### “所有者情報を表示する”

本体起動時に所有者情報を表示する場合は、チェックボックスをオンにします。

## [メモ]タブ

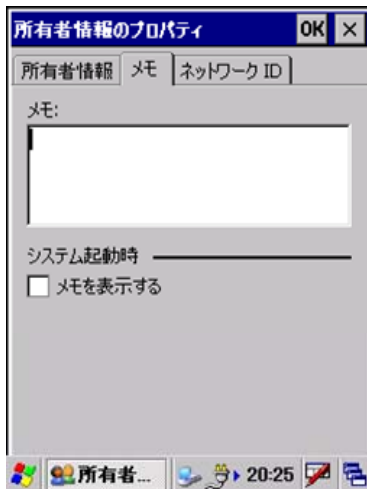


図 3-11

### “メモ”

任意の内容を指定します。

### “メモを表示する”

起動時にメモを表示する場合は、チェックボックスをオンにします。

## [ネットワーク ID]タブ

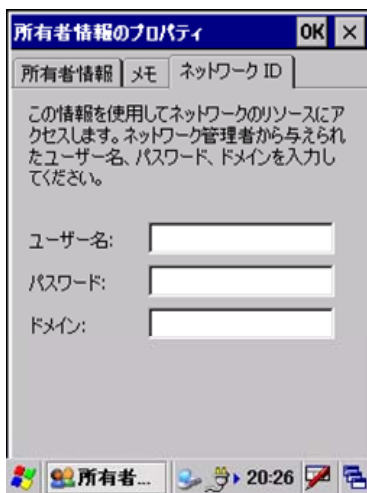


図 3-12

### “ユーザー名”

ネットワークリソースのアクセスに使用するユーザー名を指定します。

### “パスワード”

ネットワークリソースのアクセスに使用するパスワードを指定します。

### “ドメイン”

ネットワークリソースのアクセスに使用するドメインを指定します。



## 3.6 ダイヤル

テレフォニー設定を行います。

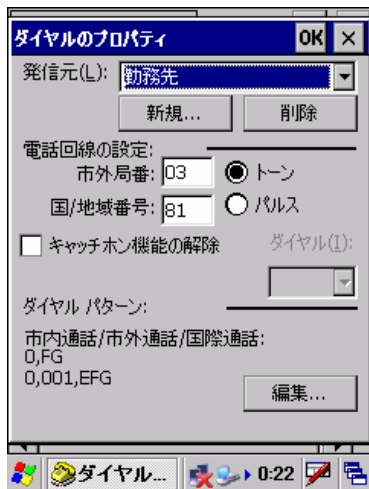


図 3-13

### “発信元(L)”

設定対象のテレフォニー情報を選択します。

### “新規...”ボタン

新しい発信元を作成します。

### “削除”ボタン

発信元を削除します。

### “市外局番”

市外局番を指定します。

### “国/地域番号”

国/地域番号を指定します。

### “トーン”/“パルス”

回線の種類を選択します。

### “キャッチホン機能の解除”

キャッチホン機能を解除する場合は、チェックボックスをオンにします。

### “ダイヤル”

キャッチホン機能を解除するダイヤルを指定します。

### “編集...”ボタン

ダイヤルパターンの編集画面を表示して、以下のダイヤルパターンを設定します。

- 市内通話
- 市外通話
- 国際通話

### 3.7 ネットワークとダイヤルアップ接続

ダイヤルアップや LAN を使用した接続を設定します。  
以下の種類の接続を作成することが可能です。

表 3-2

種類	説明
ダイヤルアップ接続	電話回線や ISDN 回線を通してネットワークの接続を確立します。
ケーブル接続	本体をケーブル(IrDA,Bluetooth を含む)で接続しネットワークの接続を確立します。
仮想プライベートネットワーク(PPTP)	Microsoft社によって提案された暗号通信のためのプロトコルです。2 台のコンピュータの間で情報を暗号化して送受信するので、インターネットを通じて安全に情報をやり取りできます。
仮想プライベートネットワーク(L2TP)	インターネットなどの公衆回線網上に仮想的にトンネルを生成し、そこを通じて PPP接続を確立することにより、VPNを構築するためのプロトコルです。OSI 基本参照モデルの第 2 層(データリンク層)のプロトコルで、IPネットワークだけでなくフレームリレー、ATMなど様々な経路を通じて利用することができます。
PPPoE (PPP over Ethernet)	電話回線や ISDN回線などの発呼を要するPPPを LANなどの"常時接続"の環境でも利用できるようにします。

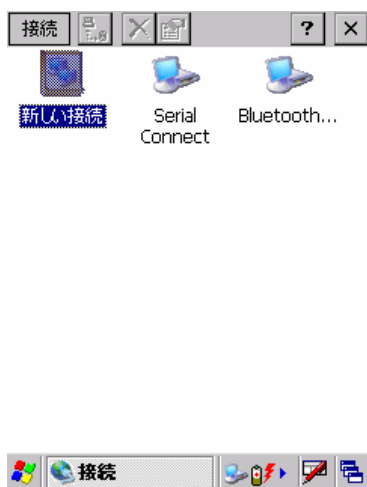


図 3-14

新しい接続を選択してエンターキーを押下するか、スタイラスでダブルタップすることで、新しい接続の作成画面を表示します。また、既に作成している接続を選択してエンターキーを押下するか、スタイラスでダブルタップすることで、接続設定画面を表示します。

## 新しい接続の作成画面

### 1. 接続情報の設定

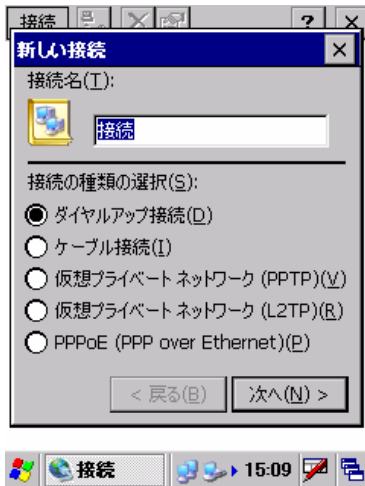


図 3-15

接続の名称と種類を指定して、[次へ]ボタンを押下します。

### 2. モデム情報の設定



図 3-16

モデム情報を設定して、[次へ]ボタンを押下します。

### 3. 電話番号情報の設定

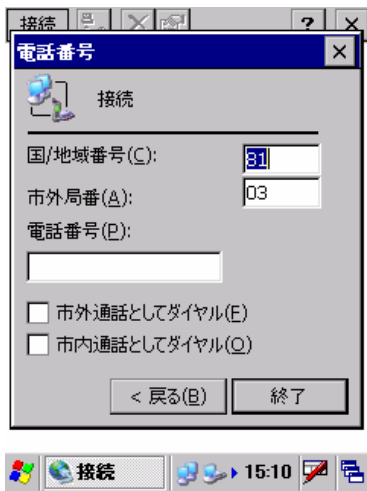


図 3-17

電話番号情報を指定して、[終了]ボタンを押下します

## 接続設定画面

### [IP アドレス]タブ

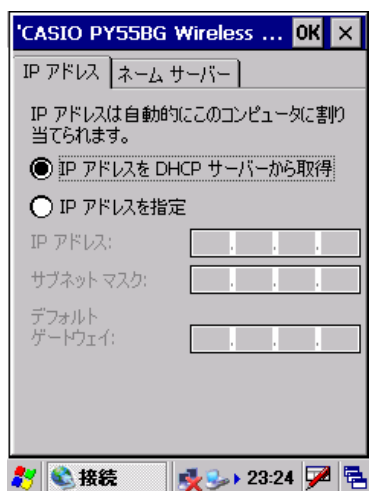


図 3-18

#### “IP アドレスを DHCP サーバーから取得”

DHCP サーバーを使用する場合に、チェックします。

#### “IP アドレスを指定”

DHCP サーバーを使用せず、直接 IP アドレスを指定する場合に、チェックします。

この場合、“IP アドレス”、“サブネットマスク”、“デフォルトゲートウェイ”を指定する必要があります。

### [ネームサーバー]タブ

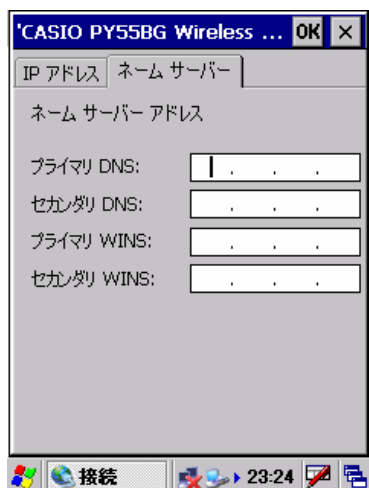


図 3-19

必要に応じて、“プライマリ DNS”、“セカンダリ DNS”、“プライマリ WINS”、“セカンダリ WINS”を指定します。

## 3.8 インターネットオプション

インターネットエクスプローラーのオプション設定を行います。

### [全般]タブ



図 3-20

#### “スタートページ(S)”

スタートページの URL を指定します。

#### “検索ページ(R)”

検索ページで使用する URL を指定します。

#### “ユーザーエージェント”

ユーザーエージェントを選択します。

#### “全画面表示で起動する”

次回起動時に全画面表示をする場合は、チェックボックスをオンにします。

#### “キャッシュサイズ”

キャッシュサイズを、KB 単位で指定します。

#### “キャッシュのクリア(A)”ボタン

キャッシュをクリアします。

#### “履歴のクリア(H)”ボタン

履歴をクリアします。

## [接続]タブ

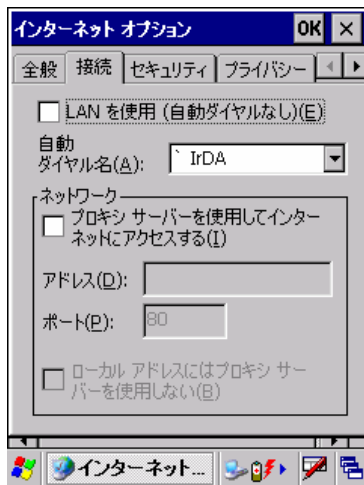


図 3-21

### “LAN を使用(E)”

接続に LAN を使用する場合は、チェックボックスをオンにします。

### “自動ダイヤル名(A)”

LAN を使用しない場合の自動ダイヤル名を選択します。

### “プロキシサーバを使用してインターネットにアクセスする(I)”

インターネットのアクセスにプロキシサーバを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。その場合、以下の項目に必要なに応じて適切な値を指定します。

- アドレス
- ポート
- ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない

## [セキュリティ]タブ



図 3-22

“インターネット”、“ローカルイントラネット”、“信頼されたサイト”、“制限付きサイト”、それぞれのゾーンごとのセキュリティを設定します。

### “サイト(I)...”ボタン

サイト追加画面を表示して、ゾーンにサイトを追加します。

### “設定(S)...”ボタン

ゾーンごとのセキュリティ詳細設定を行います。



## [プライバシー]タブ

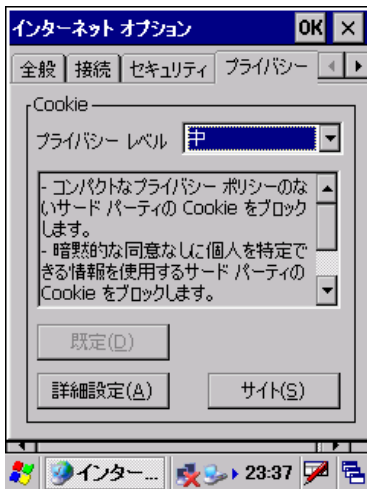


図 3-23

### “プライバシーレベル”

プライバシーレベルを選択します。

### “既定(D)”

設定内容をデフォルトの値に戻します。

### “詳細設定(A)”

プライバシー詳細設定画面を表示して、プライバシーの詳細設定を行います。

### “サイト(S)”

サイト選択画面を表示して、サイトごとのプライバシー設定を行います。

## [詳細設定]タブ

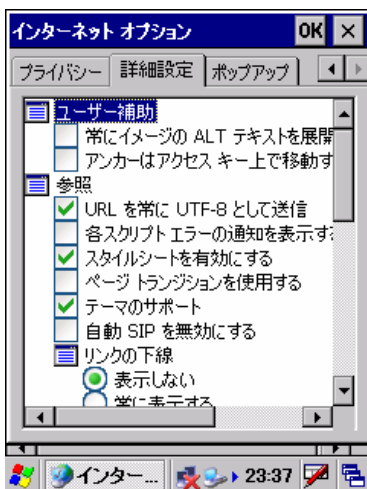


図 3-24

それぞれの項目の有効/無効を、必要に応じて指定します。

TVStyle やソフトインプットパネルの表示/非表示の設定は、ここで行います。

## [ポップアップ]タブ

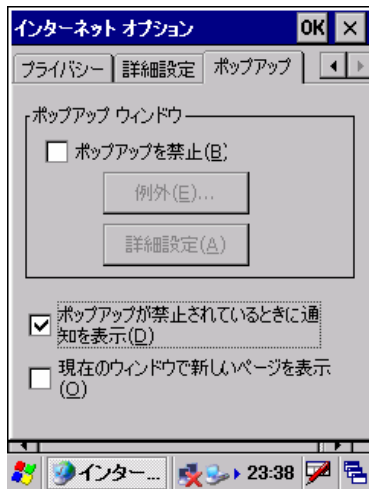


図 3-25

### “ポップアップを禁止(B)”

ポップアップを禁止する場合は、チェックボックスをオンにします。

### “例外(E)...”ボタン

ポップアップ例外画面を表示して、ポップアップブロックの対象から除外するサイトを指定します。

### “詳細設定(A)”ボタン

ポップアップフィルタ画面を表示して、ポップアップブロックの詳細設定を行います。

### “ポップアップが禁止されているときに通知を表示(D)”

ポップアップが禁止されているときに通知を表示する場合は、チェックボックスをオンにします。

### “現在のウィンドウで新しいページを表示(O)”

新しいページを現在のウィンドウで表示する場合は、チェックボックスをオンにします。

## 3.9 証明書

信頼する証明書を編集します。

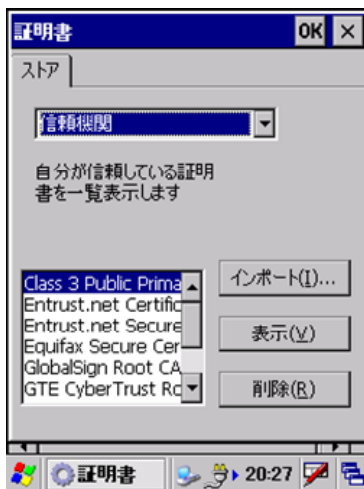


図 3-26

証明書の種類を“信頼機関”、“自分の証明”、“他の機関”から選択します。

### “インポート(I)...”

インポート画面を表示して、証明書、またはキーをインポートします。

### “表示(V)”

証明書、またはキーのプロパティを表示します。

### “削除(R)”

証明書、またはキーを削除します。

## 3.10 ターミナルサーバーのクライアントライセンス

ターミナルサービスクライアントの認証ライセンスを表示します。

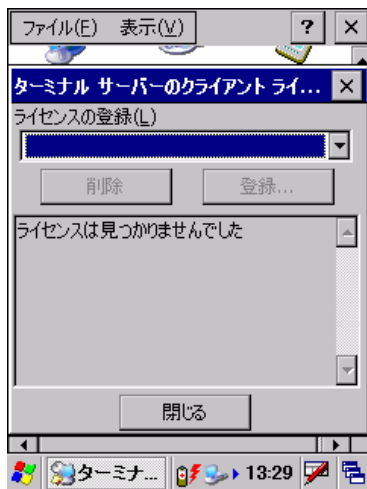


図 3-27

### “ライセンスの登録(L)”

ターミナルサービスのライセンスを指定します。

### “削除”ボタン

指定のターミナルサービスライセンスを削除します。

### “登録...”ボタン

指定のターミナルサービスライセンスを登録します。

## 3.11 画面

背景/デスクトップの配色を設定します。

### [背景]タブ



図 3-28

#### “模様(P)”

背景に表示するイメージを選択します。

#### “参照”ボタン

ファイル参照ダイアログを表示して、背景に表示するイメージを指定します。

#### “背景に並べて表示”

指定したファイルを背景として並べて表示させる場合は、チェックボックスをオンにします。

## [表示]タブ

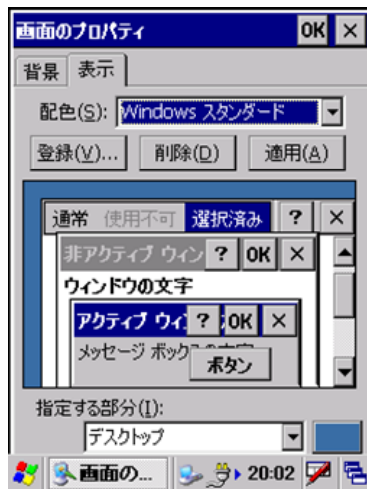


図 3-29

### “配色(S)”

デスクトップの配色を選択します。

### “登録(V)...”ボタン

作成した配色を登録します。

### “削除(D)”ボタン

指定の配色を削除します。

### “適用(A)”ボタン

指定の配色を、その場で適用します。

## 3.12 明るさ

バックライトの明るさ/自動減光/自動オフを設定します。

### [明るさ(バッテリー)]タブ

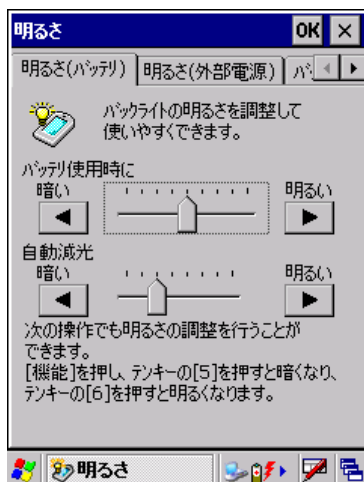


図 3-30

#### “バッテリー使用時に” スライダー

バッテリー使用時の明るさを、9段階で指定します

#### “自動減光” スライダー

バッテリー使用時の自動減光時の明るさを8段階で指定します。

### [明るさ(外部電源)]タブ

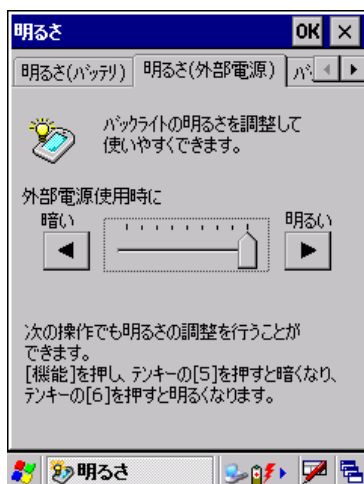


図 3-31

#### “外部電源使用時に” スライダー

外部電源使用時の明るさを、9段階で指定します

## [バックライト]タブ

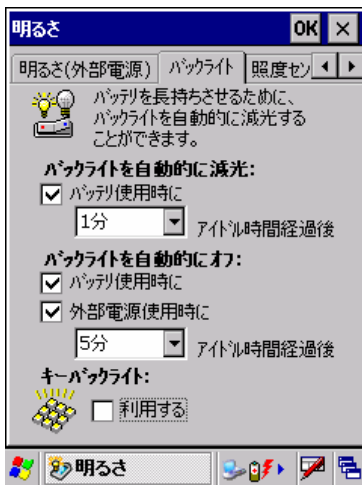


図 3-32

### “バックライトを自動的に減光”

バッテリー使用時の自動減光有効/無効と、有効の場合の減光までの時間を指定します。

### “バックライトを自動的にオフ”

バッテリー使用時/外部電源使用時の自動オフ有効/無効と、有効の場合のオフまでの時間を指定します。

※ 自動減光とバックライトオフの両方を設定した場合は、設定時間の短い方が有効となります。

### “キーバックライト”

テンキーに対する、バックライトの有効/無効を指定します。

## [照度センサー]タブ

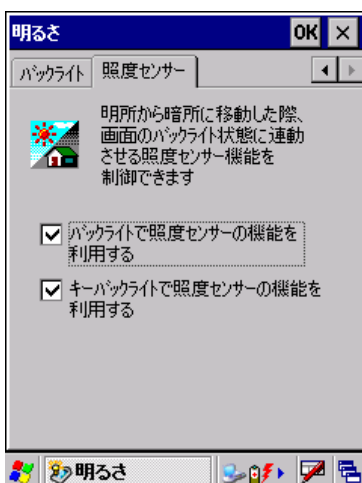


図 3-33

バックライトのオン/オフに、照度センサーの機能を利用するかどうか指定します。



## 3.13 スタイルラス

ダブルタップ、およびタッチスクリーンの補正を行います。

### [ダブルタップ]タブ

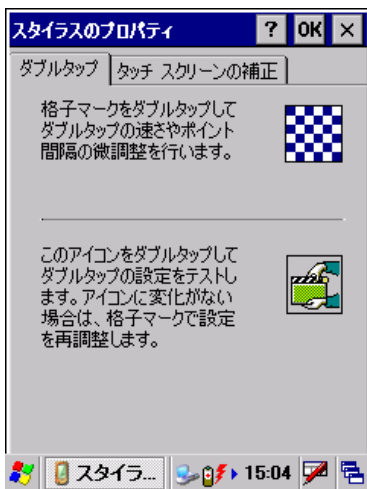


図 3-34

ダブルタップの速さとポイント間隔の微調整を行います。  
設定した値は、画面右下のアイコンを使用して確認することが可能です。

### [タッチスクリーンの補正]タブ

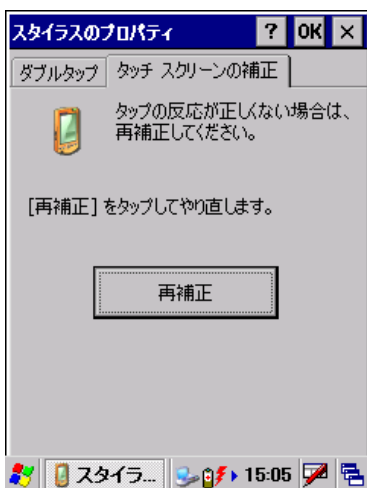


図 3-35

"再補正"ボタンを押してタッチスクリーンの補正を行います。

## 3.14 マウス

スタイラスでの画面のダブルタップの間隔を調整します。



図 3-36

画面右上の格子マークをダブルタップし、ダブルタップの速さとポイント間隔の微調整を行います。設定した値は、画面右下のアイコンをダブルタップすることでテストすることが可能です。

## 3.15 入力パネル

現在の入力方法や、オプションを変更します。

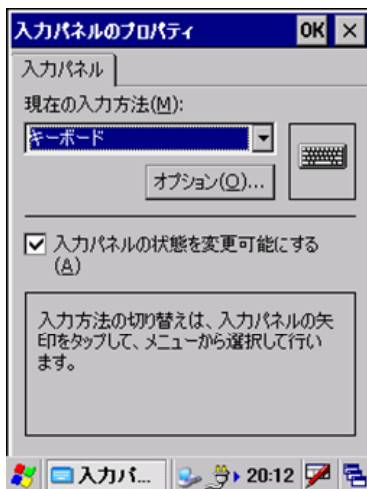


図 3-37

### “現在の入力方法(M)”

現在の入力方法を選択します。

コンボボックスで選択した入力方法が、入力パネルのデフォルトになります。

### “オプション(O)...”ボタン

“現在の入力方法”で指定した入力方法の詳細設定画面を表示します。

### “入力パネルの状態を変更可能にする(A)”

アプリケーションから入力パネルの状態を変更可能にする場合は、チェックボックスをオンにします。

## 3.16 キーボード

キーボードについての設定を行います。

### [リピート]タブ

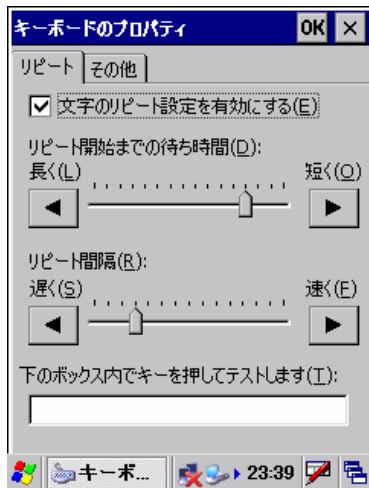


図 3-38

#### “文字のリピート設定を有効にする(E)”

キーリピートを有効にする場合は、チェックボックスをオンにします。

#### “リピート開始までの待ち時間(D)”

キーリピートを開始するまでの待ち時間を指定します。

#### “リピート間隔(R)”

キーリピートの間隔を指定します。

設定した値は、下部のテキストボックスを使用して確認することが可能です。

## [その他]タブ

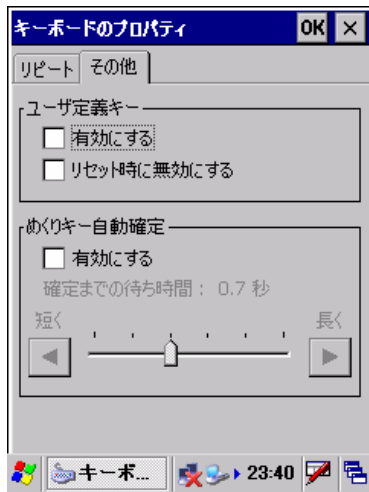


図 3-39

### “ユーザ定義キー”

ユーザ定義キーの有効/無効を指定します。

### “めくりキー自動確定”

めくりキー自動確定の有効/無効を指定します。  
有効にした場合は、確定までの待ち時間を設定します。

## 3.17 IME設定

画面に IME ツールバーを表示させたり、非表示にさせたりするためのツールです。



図 3-40

チェックボックスに入力し“OK”ボタンを押すと状態が反映されます。

## 3.18 ボリューム & サウンド

サウンドの種類と音量を設定します。

### [ボリューム]タブ



図 3-41

サウンドの音量を、画面上部スライダーで設定します。

### “サウンドの設定”

“各種イベント”、“アプリケーション”、“通知”、“キー入力時”、“画面タップ時”それぞれのサウンドの有効にする場合はチェックボックスをオンにします。

“キー入力時”、“画面タップ時”は、“小”、“大”を指定することが可能です。

### [サウンド]タブ

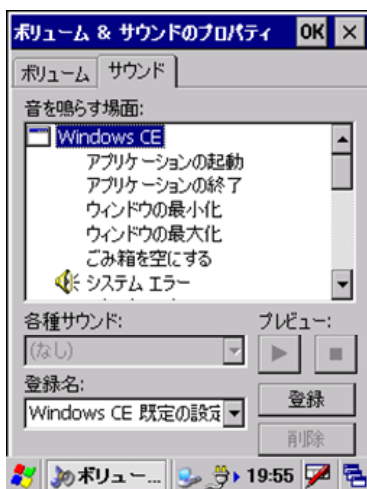


図 3-42

システムが使用する音声ファイルを設定します。

### 3.19 記憶域マネージャ

FlashDisk や SD カード、CF カードの情報を表示します。



図 3-43

#### “プロパティ(P)”ボタン

パーティションのプロパティ画面を表示して、FlashDiskやSDカード、CFカードのフォーマットや管理を行います。



## パーティションのプロパティ画面

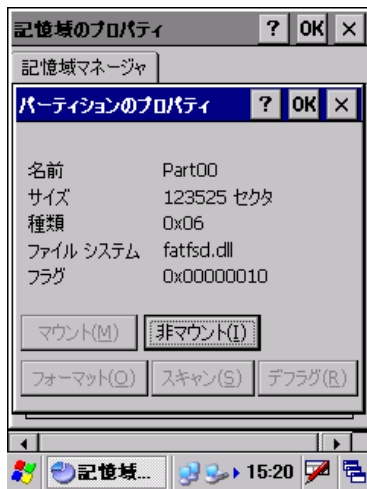


図 3-44

### “マウント(M)”ボタン

パーティションをマウントします。

### “非マウント(I)”ボタン

パーティションのマウントを解除します。

### “フォーマット(O)”ボタン

フォーマット画面を表示して、パーティションのフォーマットを行います。  
マウントしているパーティションをフォーマットすることはできません。

### “スキャン(S)”ボタン

スキャン画面を表示して、パーティションの整合性チェックを行います。

### “デフラグ(R)”ボタン

デフラグ画面を表示して、パーティションのデフラグを行います。

## フォーマット画面



図 3-45

パーティションのフォーマットパラメータを指定します。

### “開始”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのフォーマットを開始します。

### “キャンセル”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのフォーマットをキャンセルします。

## スキャン画面



図 3-46

パーティションのスキャンパラメータを指定します。

### “開始”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのスキャンを開始します。

### “キャンセル”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのスキャンをキャンセルします。

## デフラグ画面



図 3-47

パーティションのデフラグパラメータを指定します。

### “開始”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのデフラグを開始します。

### “キャンセル”ボタン

確認ダイアログを表示して、パーティションのデフラグをキャンセルします。

## 3.20 アプリケーションの削除

インストール済みのプログラムを削除します。

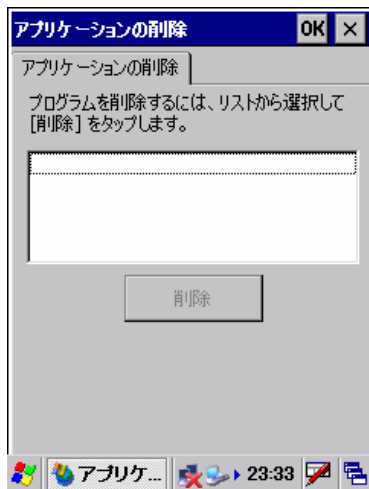


図 3-48

削除するアプリケーションを一覧から選択し、“削除”ボタンを押してプログラムを削除します。  
※ 本体 ROM 内蔵のプログラムは削除できません。

## 3.21 プリンタ設定

プリンタ設定ツールは、印字に必要な各種機能の設定・変更を行います。

下記にプリンタ設定ツールの設定一覧を示します。

これらの設定はレジストリに保存されるため、リセット時も保持されます。初期化する場合は、ESC の初期化コマンドを送信するか、フルリセットを実行して下さい。

表 3-3

機能分類	機能名称	備考
用紙設定	用紙種類指定	5種類
印字品質設定	印字濃度指定	9段階
	印字速度指定	高速/低速(高品位)/グラフィック
機能設定	オートローディング指定	有効/無効
	プリヒート指定	有効/無効
	エラー時印字継続指定	有効/無効
状態表示	プリンタステータス	プリンタ状態の表示と確認

### 初期状態表示

ダイアログオープン時の初期状態は、現在設定されている設定値を取得し、表示します。

[用紙・品質]タブ

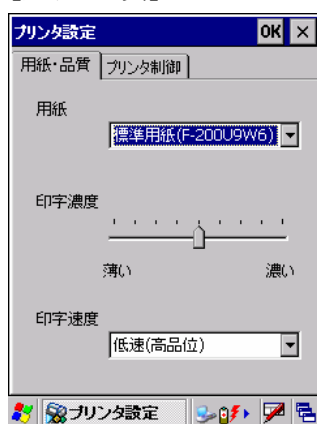


図 3-49

[プリンタ制御]タブ

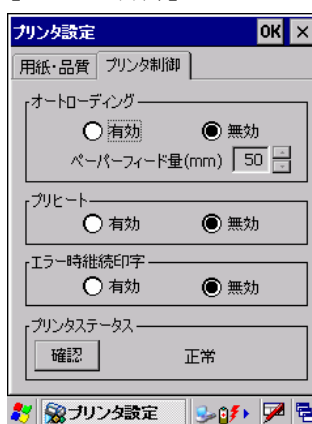


図 3-50

- ※ 設定を有効にするには「OK」ボタンを押下して下さい。
- ※ 「OK」ボタンの押下により設定状態を更新してダイアログ画面が消えます。
- ※ 複数の設定を続けて行う場合は、全ての変更を行った後に「OK」ボタンを押下して下さい。

## 用紙・書式設定

### 用紙設定機能

印刷に使用する用紙を指定します。これにより、指定された用紙に最適なパラメータで印字します。

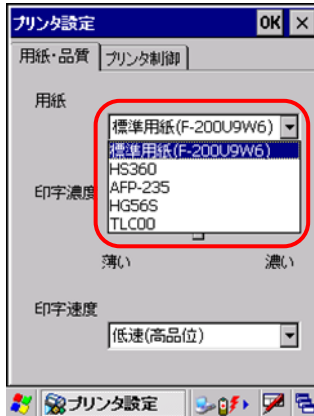


図 3-51

■ コンボボックスの用紙リストより、使用する用紙を選択します。  
印刷用紙を変更する場合は、再度設定し直してください。

選択可能な用紙は下記の 5 種類です。

- 標準用紙 (F-200U9W6)
- HS360
- AFP-235
- HG56S
- TLC00

※ 出荷時の初期設定は「標準用紙 (F-200U9W6)」に設定されています。

### 印字品濃度調整機能

印字濃度を設定します。設定可能な印字濃度は 9 段階です。

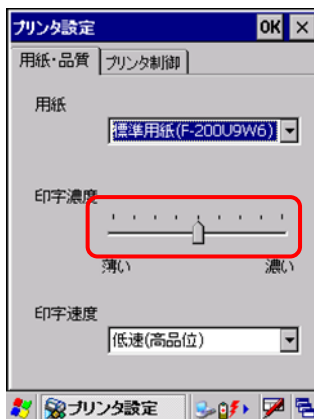


図 3-52

■ スライダーボタンを左右に操作することで印字濃度の変更を行います。  
スライダーボタンを左側に操作すると薄く、右に操作すると濃く設定することができます。  
※ 出荷時の初期設定は「標準濃度」(左側から 5 目盛目)に設定されています。

## 印字速度選択

印字速度を設定します。

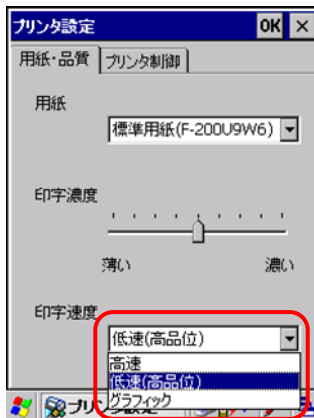


図 3-53

■ コンボボックスの印字速度リストより印字速度を選択します。  
選択可能な印字速度は下記の 3 種類です。

- 高速
- 低速(高品位)
- グラフィック

※ 出荷時の初期設定は「低速(高品位)」に設定されています。



## プリンタ機能設定

### オートローディング指定

オートローディングの有効／無効を設定します。

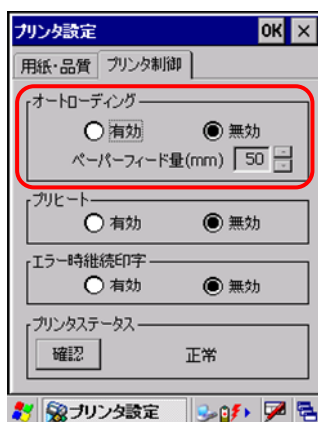


図 3-54

■ラジオボタンによりオートローディングの有効または、無効を選択します。

- 有効 (Enable) : オートローディング機能を有効状態にします。
- 無効 (Disable) : オートローディング機能を無効状態にします。

ペーパーフィード量は 10 mm ～ 96 mm の間で設定することができます。

ペーパーフィード量はオートローディングのラジオボタンが「有効」になっているときのみ、入力することができます。「無効」が選択されている場合は、ペーパーフィード量の入力はいけません。

※ 出荷時の初期設定は「無効」に設定されています。ペーパーフィード量は「50 mm」に設定されています。

※ オートローディング機能の有効設定は、単票紙の使用する場合にのみ行ってください。

## プリヒート機能選択

プリヒートの有効／無効を設定します。

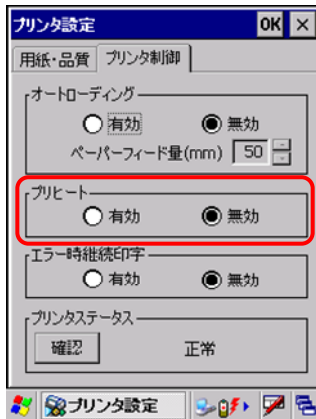


図 3-55

■ ラジオボタンによりプリヒート機能の有効または、無効を選択します。

- 有効 (Enable) : プリヒート機能を有効状態にします。
- 無効 (Disbale) : プリヒート機能を無効状態にします。

※ 出荷時の初期設定は「無効」に設定されています。

## エラー時継続印字指定

エラーが発生した場合、継続して印字するか(印字データを保持)、印字を中止するか(印字データをクリア)を指定します。

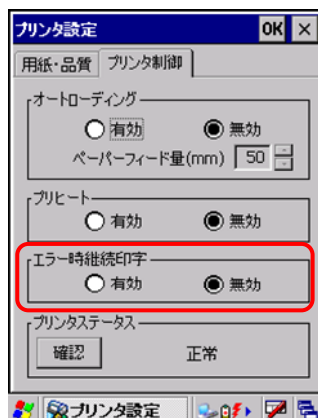


図 3-56

■ラジオボタンによりエラー時継続印字機能の有効または、無効を選択します。

- 有効 (Enable) : エラー時継続印字機能を有効状態にします。
- 無効 (Disable) : エラー時継続印字機能を無効状態にします。

※ 出荷時の初期設定は「無効」に設定されています。

## プリンタステータス

現在のプリンタ状態を表示します。

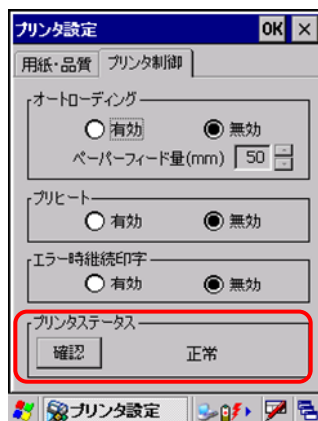


図 3-57

■「確認」ボタンの押下により最新状態を表示します。

タブシートの切り替え、最小化から最大化などの「プリンタ制御」タブの再表示でも、最新状態を表示します。

※ ダイアログ起動時の初期表示は、プリンタの状態により異なります。

【プリンタステータス・メッセージ一覧】

表 3-4

No.	表示されるメッセージ	メッセージの意味	対処
1	正常	通常の状態です。 プリンタに異常は発生していません。	—
2	ドライバ未オープン	プリンタドライバがオープンできない状態になっています。	リセットをして下さい。 リセット後も同じ状態が継続して発生する場合はカシオテクノ・サービスステーションへ問い合わせして下さい。
3	ドライバロードエラー	他のアプリケーションがプリンタを使用中か、プリンタドライバがロードできない状態になっています。	他のアプリケーションがプリンタを使用していないか確認して下さい。 他のアプリケーションが使用していない場合はリセットをして下さい。 リセット後も同じ状態が継続して発生する場合はカシオテクノ・サービスステーションへ問い合わせして下さい。
4	二重オープンエラー	他のアプリケーションがプリンタを使用中です。	他のアプリケーションがプリンタを使用していないか確認して下さい。
5	ハードウェア異常	プリンタハードウェアの異常が発生しています。	リセットをして下さい。 リセット後も同じ状態が継続して発生する場合はカシオテクノ・サービスステーションへ問い合わせして下さい。
6	プラテンオープン	プラテンが開いています。	プラテンを閉じて下さい。
7	用紙なし	用紙がありません。	用紙を設定して下さい。
8	VDETP発生	電池残量が少ないため、印刷ができません。	バッテリーを交換して下さい。
9	ヘッド温度エラー発生	プリンタヘッドの温度が高くなっています。	印刷しないでしばらく待って下さい。 同じ状態が継続して発生する場合はカシオテクノ・サービスステーションへ問い合わせして下さい。
10	オートローディング中	オートローディング中の状態です。	—
11	フィード中	フィードキーによるフィード中です。	—
12	プリンタエラー発生	プリンタドライバまたは、プリンタハードウェアの異常です。	リセットして下さい。 リセット後も同じ状態が継続して発生する場合はカシオテクノ・サービスステーションへ問い合わせして下さい。

## 3.22 PCとの接続

PC との接続方法を設定します。

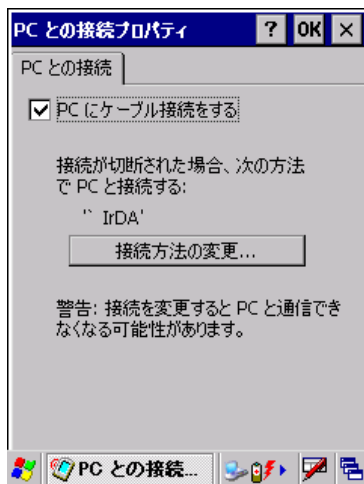


図 3-58

### “PCにケーブル接続をする”

I/O ボックス経由で PC と ActiveSync 接続を行う場合は、チェックボックスをオンにします。

### “接続方法の変更...”ボタン

接続方法の変更画面を表示して、PC との接続方法を指定します。

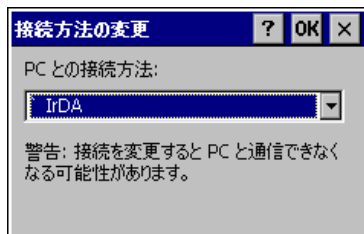


図 3-59

I/O ボックス経由で PC と ActiveSync 接続を行う場合は、“IrDA”を選択します。

## 3.23 Bluetooth接続

Bluetooth 接続ツールの操作方法を説明します。

### 3.23.1 デバイス一覧画面(起動画面)

デバイス一覧画面では、デバイス探索を実行して発見した Bluetooth デバイスの一覧を表示します。

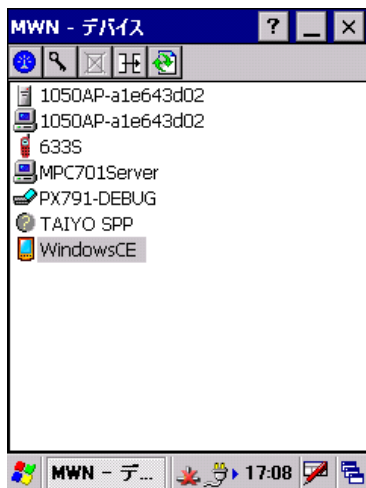


図 3-60 デバイス一覧画面

デバイス一覧に表示するデバイスを以下に示します。

表 3-5 デバイスアイコン一覧

アイコン	デバイスタイプ
	PDA
	ラップトップコンピュータ
	デスクトップコンピュータ
	Bluetooth 携帯電話
	Bluetooth プリンタ
	Bluetooth ヘッドセット(音声)
	Bluetooth アクセスポイント
	ダイヤルアップネットワーク(DUN)
	上記以外の Bluetooth 機器 (BT プリンタをこのように表示する場合があります)
	接続中のマーク
	ボンディング済みのマーク
	ボンディング済みで接続中のマーク
	接続中の PDA
	ボンディング済みの携帯電話
	ボンディング済みで接続中のラップトップコンピュータ






デバイスをタップ&ホールド(長押し)すると、コンテキストメニューを表示します。

デバイスをダブルタップすると、デバイスのサービス情報を表示します。

## ツールバー構成

デバイス一覧画面のツールバー構成を以下に示します。

表 3-6 ツールバー構成

アイコン	説明
	メインメニューを表示します
	マルチメニューを表示します (表示されている画面により、メニュー内容が変わります)
	複数の画面が開いているとき、現在の画面を閉じます
	複数の画面が開いているとき、画面を選択して移動します
	Bluetooth 機器の探索を実行し、デバイス一覧の表示を更新します

## メニュー構成

デバイス一覧画面のメニュー構成を以下に示します。

表 3-7 メインメニュー項目

項目	機能
マイデバイス	DT-9800 本体の設定画面を表示します (詳細は 3.23.3 参照)
ショートカット	作成されたショートカットの一覧を表示します (詳細は 3.23.4 参照)
デフォルトデバイス	設定されたデフォルトデバイスの一覧を表示します (詳細は 3.23.5 参照)
Wakeup を有効にする	Wakeup 設定の有効/無効を切り替えます
ヘッドセットを使用する	Bluetooth ヘッドセットと接続しているとき、音声経路をヘッドセットまたは DT-9800 内蔵のマイク/スピーカに切り替えます
セットアップウィザード	セットアップウィザードを表示します (詳細は 3.23.6 参照)
バージョン	バージョン情報を表示します
最小化	画面を最小化します
終了	アプリケーションを終了します


表 3-8 マルチメニュー項目

項目	機能
デバイスの追加	検索できないデバイスを追加します
アドレス表示	発見されたデバイスのアドレスの表示/非表示を切り替えます
ボンディング済み	選択したデバイスのボンディングの実行および解除を行います
常に表示	選択したデバイスを一覧表示に常に表示します
削除	選択したデバイスを一覧表示から削除します
全て切断	Bluetooth 接続を全て切断します
プロパティ	選択したデバイスのプロパティを表示します

表 3-9 コンテキストメニュー項目

項目	機能
ボンディング済み	選択したデバイスのボンディングの実行および解除を行います
常に表示	選択したデバイスを一覧表示に常に表示します
削除	選択したデバイスを一覧表示から削除します
全て切断	Bluetooth 接続を全て切断します
プロパティ	選択したデバイスのプロパティを表示します

## デバイスの探索

デバイスの探索を実行するには、ツールバーの (更新) ボタンをタップします。  
デバイスを発見した後、デバイス一覧の内容を更新します。

## デバイスのプロパティ

マルチメニューまたはコンテキストメニューの「プロパティ」を選択すると、以下のデバイスのプロパティ画面を表示します。

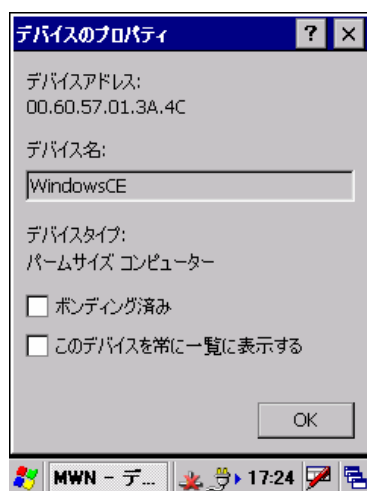


図 3-61

### デバイスアドレス

デバイスの Bluetooth アドレスを表示します。

### デバイス名

デバイスの名前を表示します。

### デバイスタイプ

デバイスの種類を表示します。

### ボンディング済み

このデバイスと「デバイスの信頼」を実行したかどうかを表示します。

### このデバイスを常に一覧に表示する

このデバイスを常にデバイス一覧に表示するかどうかを表示します。

## PassKey の交換

デバイスの信頼やサービスの取得、Bluetooth 接続を実行すると、PassKey (PIN コード) を要求する以下の画面を表示することがあります。



図 3-62 Passkey 入力画面

接続する機器に Passkey が指定されている場合は、それと同一の Passkey を、Passkey が指定されていない場合はお互いに同一の Passkey を入力して下さい。

- 入力する文字は任意の ASCII 文字 (16 文字以内) を使用して下さい。
- PassKey をあらかじめ設定することにより、PassKey の要求を行わないことができます。(詳細は 3.23.3 参照)



### 3.23.2 サービス一覧画面(マスター接続画面)

デバイス一覧画面で、デバイスをダブルタップすると、以下のサービス一覧を表示します。



図 3-63 サービス一覧画面

サービスをダブルタップすると、そのサービスを使用して Bluetooth 接続を実行します。

- ※ サービスによっては、ファイル転送を自動的に実行します。
- ※ デバイスによっては、サービス一覧の取得およびBluetooth接続の実行の際に、図 3-62 のPassKey 入力画面が表示される場合があります。

サービス一覧に表示するサービスを以下に示します。







表 3-10 サービスアイコン一覧

アイコン	説明
	名刺ファイルの送受信
	指定したカレンダーファイルの送信
	指定した Email ファイルの送信
	指定したメモファイルの送信
	Bluetooth FTP で通信先のデバイスと接続
	Bluetooth Serial を使用して通信先のデバイスと接続
	Bluetooth Serial を使用して通信先の Bluetooth デバイスと ActiveSync 通信を実行する
	Bluetooth LAN アクセスポイントに接続
	Bluetooth ダイアルアップを使用して通信先のデバイスと接続
	Bluetooth PAN を使用して通信先のデバイスと接続
	Bluetooth ヘッドセットサービスを使用して接続

## ツールバー構成







サービス一覧画面のツールバー構成を以下に示します。

表 3-11 ツールバー構成

アイコン	説明
	デバイス一覧画面に戻ります
	メインメニューを表示します
	マルチメニューを表示します (表示されている画面により、メニュー内容が変わります)
	複数の画面が開いているとき、現在の画面を閉じて上位画面に戻ります
	複数の画面が開いているとき、画面を選択して移動します
	サービス情報を再取得し、サービス一覧の表示を更新します

OBEX および FTP 以外のプロファイルを使用して Bluetooth 接続を実行すると、画面のツールバー構成は以下に示すように変化します。

表 3-12 ツールバー構成

アイコン	説明
	メインメニューを表示します
	マルチメニューを表示します (表示されている画面により、メニュー内容が変わります)
	現在の画面を閉じてサービス一覧画面に戻ります (Bluetooth が接続中の場合は、接続を切断します)
	複数の画面が開いているとき、画面を選択して移動します (Bluetooth 接続状態のまま、サービス一覧画面に戻ることができます)
	Bluetooth 接続の切断を実行します。画面はサービス一覧に戻りません。
	Bluetooth 接続を切断後、再度 Bluetooth 接続を実行するときに使用します

## メニュー構成

メインメニューの項目は、デバイス一覧画面と同じです。

コンテキストメニューおよびマルチメニューの項目を以下に示します。


表 3-13 コンテキストメニュー/マルチメニュー項目

項目	機能
ショートカットに追加	指定したサービスを使用してショートカットを作成し、ショートカット一覧に追加します (詳細は 3.23.4 参照)
ActiveSync 接続に使用する	指定したシリアルポートを ActiveSync 接続に使用します
デフォルトデバイスに設定	指定したサービスをデフォルトデバイスに設定します (詳細は 3.23.5 参照)

## シリアルポートプロファイル(SPP)接続

シリアルポートプロファイル(SPP)をサポートする Bluetooth デバイスと接続し、仮想シリアル通信を行うことができます。

### シリアルポートプロファイル接続の実行

サービス一覧の  (シリアルポートアイコン) をダブルタップすると、以下の Bluetooth 接続画面を表示し、シリアルポートプロファイルによる接続を実行します。

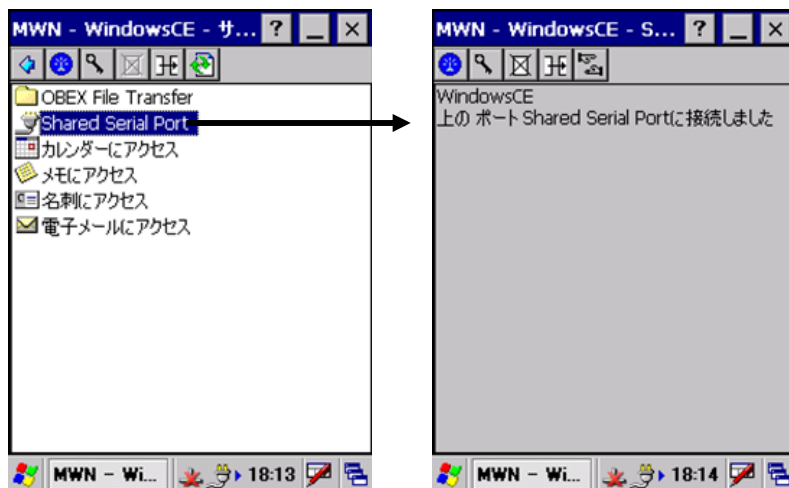




図 3-64


接続完了後、通信アプリケーションを起動して、仮想シリアルポートを使用した通信を実行します。

### シリアルポートプロファイル接続の切断

Bluetooth 接続画面のツールバー ( アイコン) をタップして、シリアルポートプロファイル接続を切断します。

Bluetooth 接続画面を閉じる場合は、ツールバーの  アイコンをタップします。

## シリアルポートタイプ ActiveSync 接続の実行

シリアルサービスのアイコンを長押ししてコンテキストメニューを表示し、「ActiveSync 接続に使用する」を選択すると、サービスのアイコンが (ActiveSync アイコン) に変化します。

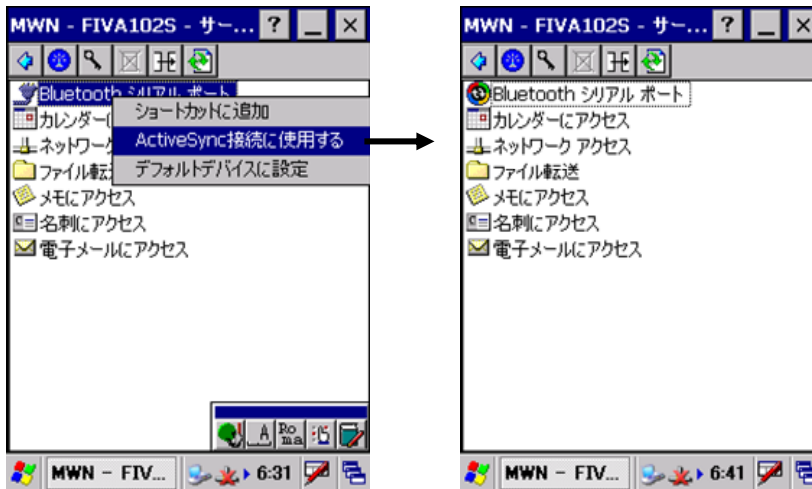


図 3-65

ActiveSync アイコンをダブルタップすると、シリアルプロファイルを使用した ActiveSync 接続を実行します。

シリアルサービスを ActiveSync 接続に使用しない場合は、ActiveSync アイコンを長押ししてコンテキストメニューを表示し、「ActiveSync 接続に使用しない」を選択します。


※ PC と Activesync 通信を行う場合には PC 側 ActiveSync が、Bluetooth シリアルポートを使用する仮想 COM ポート番号に設定する必要がります。

## シリアルポートタイプ ActiveSync 接続の切断

「シリアルポートプロファイル接続の切断」と同じ手順で切断します。

## ダイヤルアップネットワーク(DUN)接続

ダイヤルアップネットワーク(DUN)を使用して、Bluetooth デバイスとダイヤルアップ通信を行うことができます。

サービス一覧画面の  (ダイヤルアップアイコン) をダブルタップすると、次の画面が表示されます。

### ダイヤル画面

ダイヤルアップ接続の電話番号が設定されていない場合には、以下の画面を表示します。

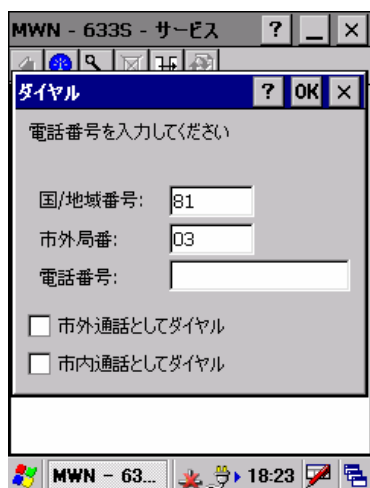


図 3-66

電話番号を入力して「OK」ボタンをタップします。

### ネットワークログオン画面

ダイヤルアップ接続の電話番号が設定されていると、以下の画面を表示します。



図 3-67

ユーザー名、パスワード等を入力し「OK」ボタンをタップすると、ダイヤルアップ接続を開始します。

## BluetoothDUN 設定画面

ネットワークログオン画面の「プロパティ」ボタンをタップすると、以下の BluetoothDUN 設定画面を表示します。

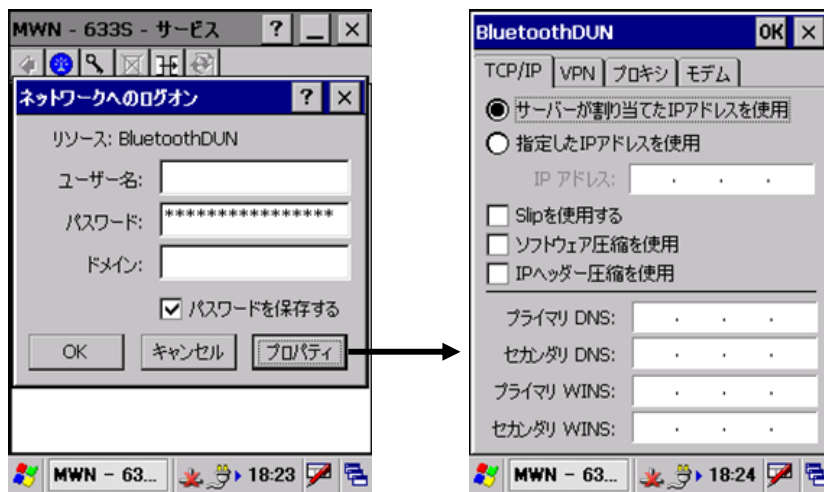


図 3-68

BluetoothDUN 設定画面を使用して、各種設定を行います。

BluetoothDUN 設定画面の詳細を以下に示します。

### [TCP/IP]タブ

ダイヤルアップ通信の TCP/IP に関する設定を行います。

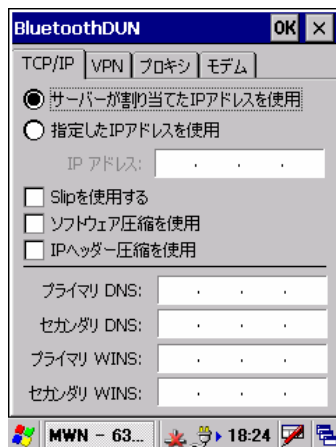


図 3-69

### [VPN]タブ

バーチャルプライベートネットワーク (VPN) の設定を行います。

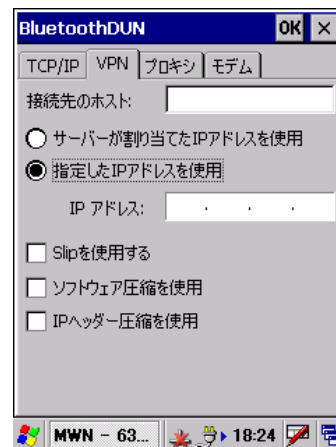


図 3-70

## [プロキシ]タブ

プロキシの設定を行います

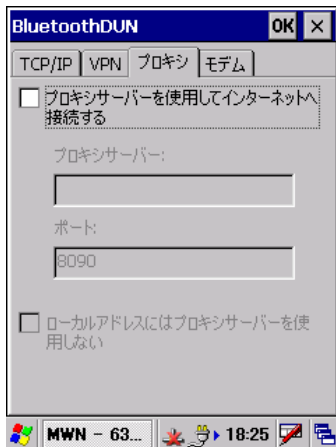


図 3-71

## [モデム]タブ

モデムに関する設定を行います。

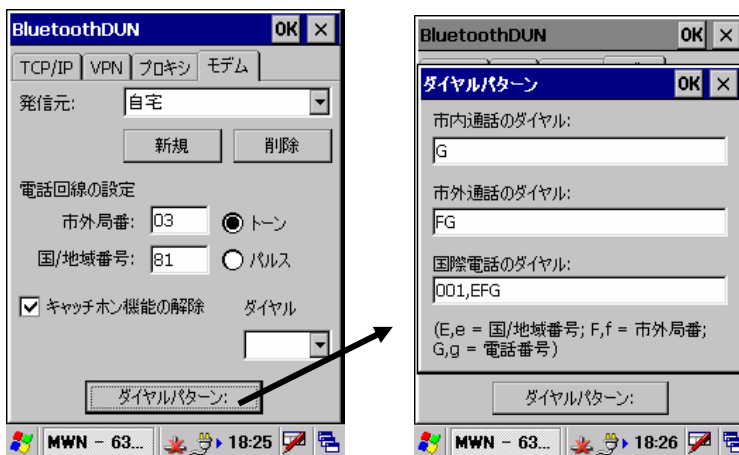




図 3-72

## ダイヤルアッププロファイル接続の切断


ダイヤルアップ接続完了後、Bluetooth 接続画面のツールバーの  アイコンをタップして、ダイヤルアッププロファイル接続を切断します。

Bluetooth 接続画面を閉じる場合は、ツールバーの  アイコンをタップします。

## パーソナルエリアネットワーク(PAN)

パーソナルエリアネットワーク(PAN) Bluetooth デバイスと接続して、TCP/IP 通信を行うことができます。

### パーソナルエリアネットワークプロファイル接続の実行

サービス一覧画面の  (パーソナルエリアネットワークアイコン) をダブルタップすると、以下の Bluetooth 接続画面を表示して、パーソナルエリアネットワークプロファイルによる接続を実行します。

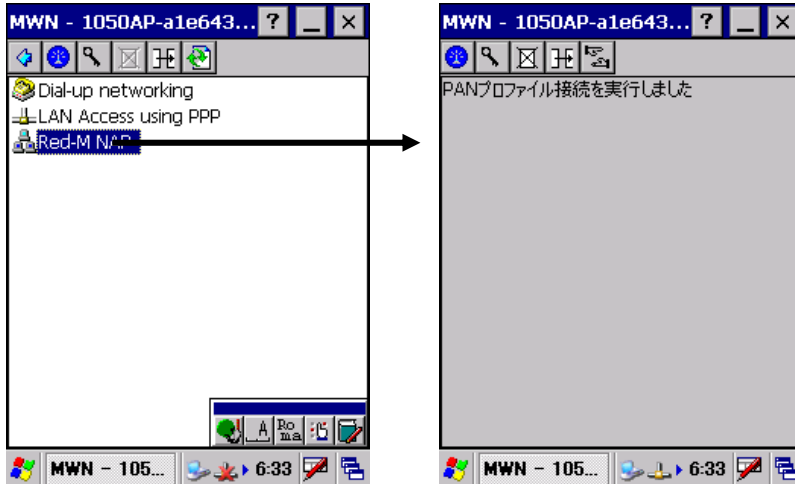




図 3-73

接続完了後、通信アプリケーションを起動して、TCP/IP を使用した通信を実行します。

### パーソナルエリアネットワークプロファイル接続の切断

Bluetooth 接続画面のツールバーの  アイコンをタップして、パーソナルエリアネットワークプロファイル接続を切断します。

Bluetooth 接続画面を閉じる場合は、ツールバーの  アイコンをタップします。



## ネットワーク設定の変更

パーソナルエリアネットワーク接続のネットワーク設定を変更する場合は、コントロールパネルを開き、「ネットワークとダイヤルアップ設定」を開きます。

「RX\_BTPAN1」というアイコンをダブルタップすると、以下の設定画面が表示されるので、IP アドレス等の設定を行います。

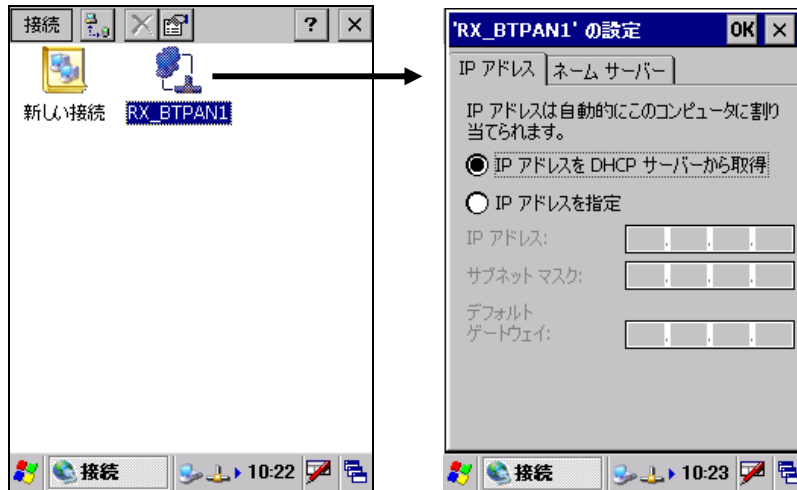


図 3-74

## Object Push プロファイルによるファイル転送

サービス一覧画面で、📄(名刺アイコン)、📅(カレンダーアイコン)、✉(電子メールアイコン)、💾(メモアイコン)のサービスをダブルタップしてファイル転送を行います。

※ 上記ファイルの転送を実行する前に、転送するファイルをあらかじめ指定しておく必要があります。指定方法については、3.23.3 を参照してください。

### 「名刺」を使用したファイル転送例

「名刺を送信」をダブルタップすると、指定した名刺ファイルを送信します。

「名刺を受信」をダブルタップすると、相手デバイスから名刺ファイルを受信します。

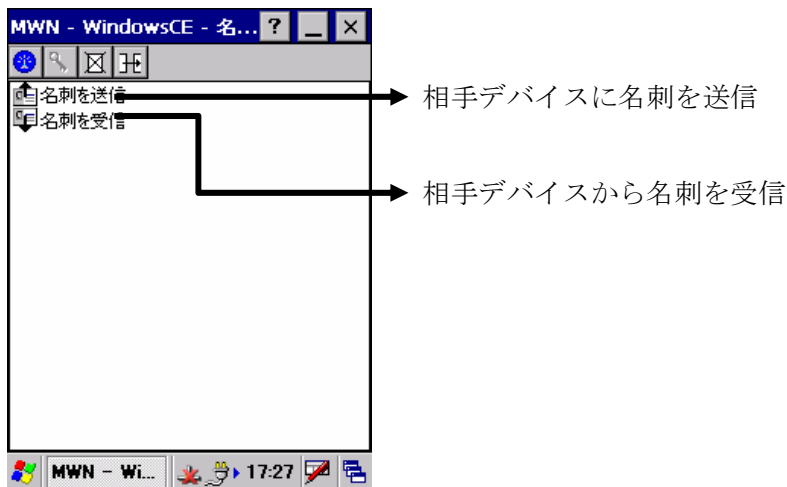


図 3-75

## Bluetooth FTP によるファイル操作

Bluetooth FTP を使用したファイル転送およびファイル/フォルダ操作を行います。

Bluetooth デバイスのサービス一覧から  (ファイルアイコン) をダブルタップすると、相手 Bluetooth デバイスの Bluetooth FTP サービスに接続し、以下の Bluetooth FTP 画面を表示します。

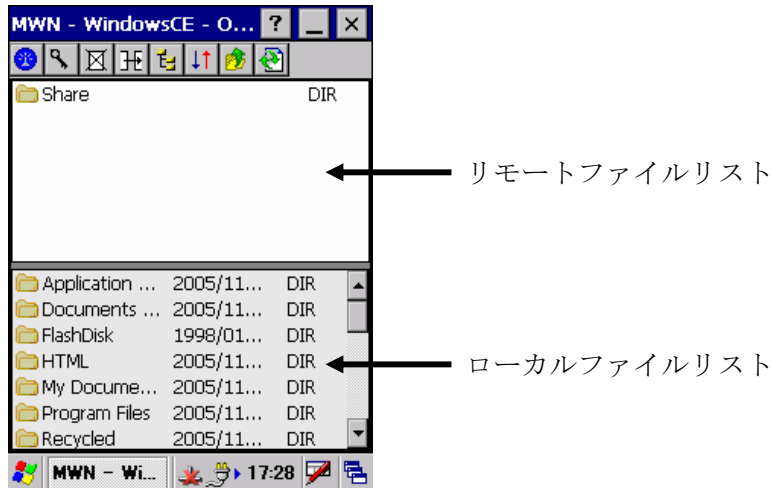


図 3-76









Bluetooth FTP 画面では、以下のファイル操作を行うことができます。

- ファイル送信
- ファイル受信
- フォルダ移動
- 新規フォルダ作成
- ファイル名変更
- ファイル削除

## ツールバー構成

Bluetooth FTP 画面のツールバー構成を以下に示します。

表 3-14 ツールバー構成

アイコン	説明
	メインメニューを表示します
	マルチメニューを表示します
	Bluetooth FTP 接続を切断し、現在の画面を閉じてサービス一覧画面に戻ります
	複数の画面が開いているとき、画面を選択して移動します (Bluetooth FTP 接続状態のまま、サービス一覧画面に戻ることができます)
	現在のフォルダの位置を表示します表示をツリー表示に切り替えます
	ファイルのソート方法を指定します(ファイル名、日付、ファイルサイズ)
	一つ上のフォルダへ移動します
	アクティブなリストのファイル一覧を更新します

## メニュー構成

Bluetooth FTP 画面のメニュー構成を以下に示します。「リモートファイルリスト」、「ローカルファイルリスト」共通です。

表 3-15 コンテキストメニュー項目[ファイル選択時]

項目	機能
最新の情報に更新	リストを更新
コピー	選択したファイルをコピー
削除	選択したファイルを削除
ダイレクトコピー	選択したファイルをダイレクトコピーで転送(コピー)
ダイレクトムーブ	選択したファイルをダイレクトムーブで転送(移動)
名前の変更	選択したファイルを名前変更
新規フォルダ	新規フォルダの作成
すべて選択	選択したリストのファイルを全て選択

表 3-16 コンテキストメニュー項目[非選択時]

項目	機能
貼り付け	選択したリストにファイルを貼り付け
すべて選択	選択したリストのファイルを全て選択
新規フォルダ	選択したリストにフォルダを作成

## ファイル送信

ローカルファイルリストから送信するファイルを選択して、「ダイレクトコピー」または「ダイレクトムーブ」を選択します。

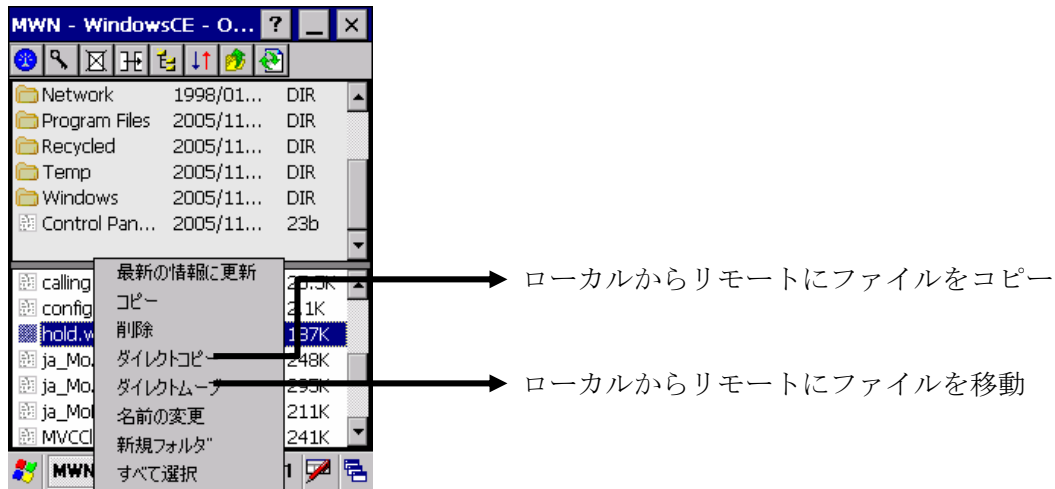


図 3-77

※ 送信中は画面下に進捗を表示します。

## ファイル受信

リモートファイルリストから送信するファイルを選択して、「ダイレクトコピー」または「ダイレクトムーブ」を選択します。

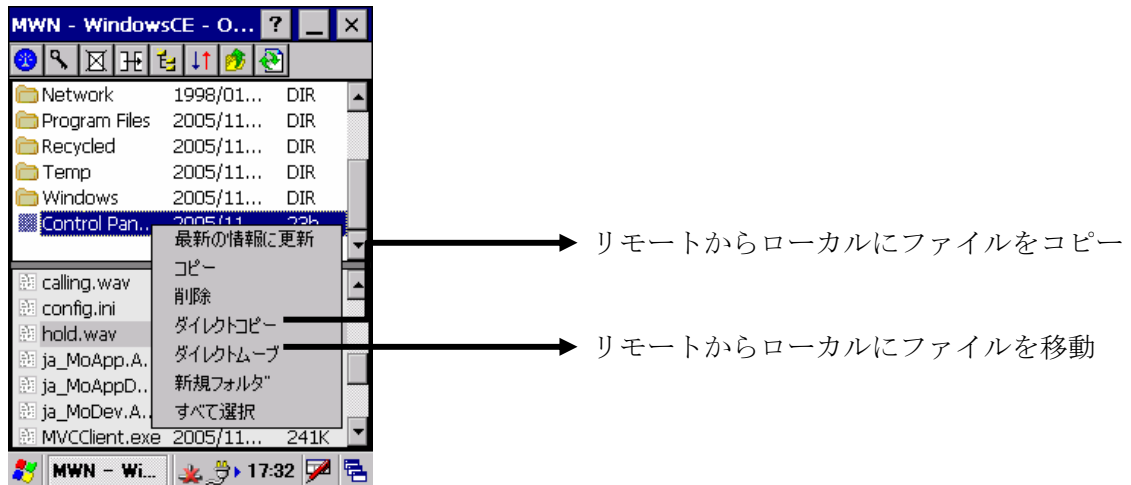


図 3-78

※ 送信中は画面下に進捗を表示します。

## 新規フォルダ作成

リモートファイルリストまたはローカルファイルリストのメニューから「新規フォルダ」を選択して、新規フォルダを作成します。

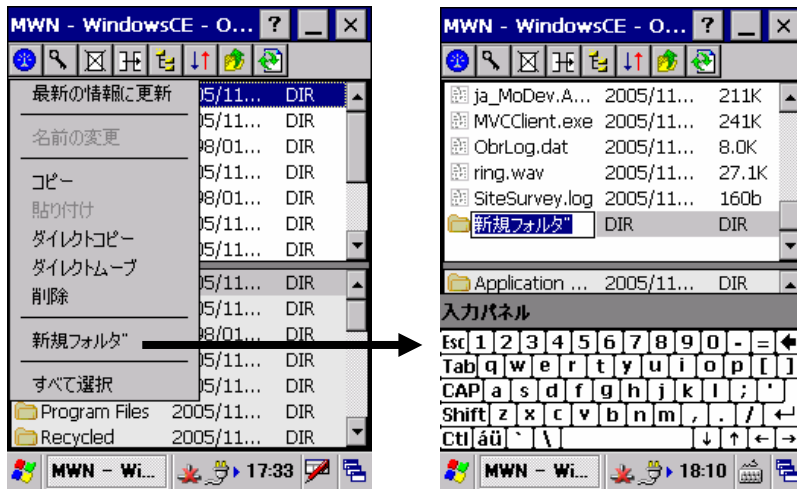


図 3-79

## ファイル名変更

リモートファイルリストまたはローカルファイルリストのファイルを選択して、「名前の変更」を選択します。



図 3-80

## ファイル削除

リモートファイルリストまたはローカルファイルリストのファイルを選択して、「削除」を選択します。

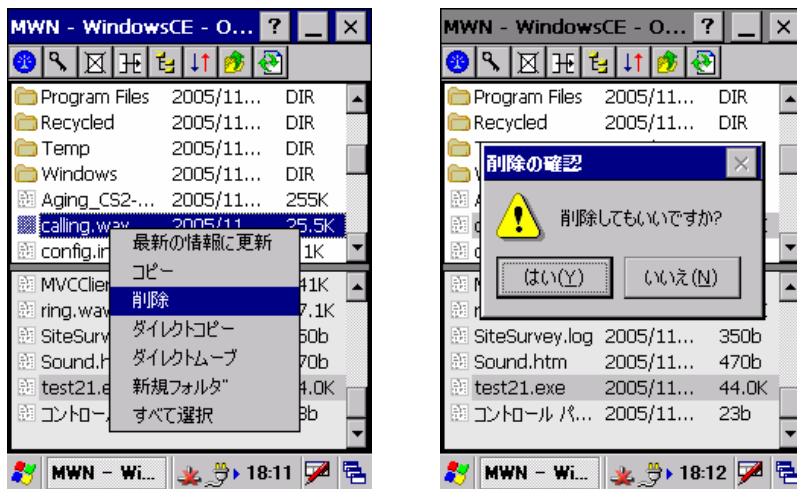



図 3-81


## Bluetooth FTP の終了

Bluetooth FTP ファイル転送を終了してデバイス一覧に戻るには、ツールバーの  アイコンをタップします。

## Bluetooth ヘッドセットとの接続

Bluetooth ヘッドセットサービスを使用して、Bluetooth ヘッドセットとの接続を行うことができます。

### ヘッドセット接続の実行

サービス一覧の  (ヘッドセットアイコン) をダブルタップすると、以下の Bluetooth 接続画面を表示して、ヘッドセットプロファイルによる接続を実行します。

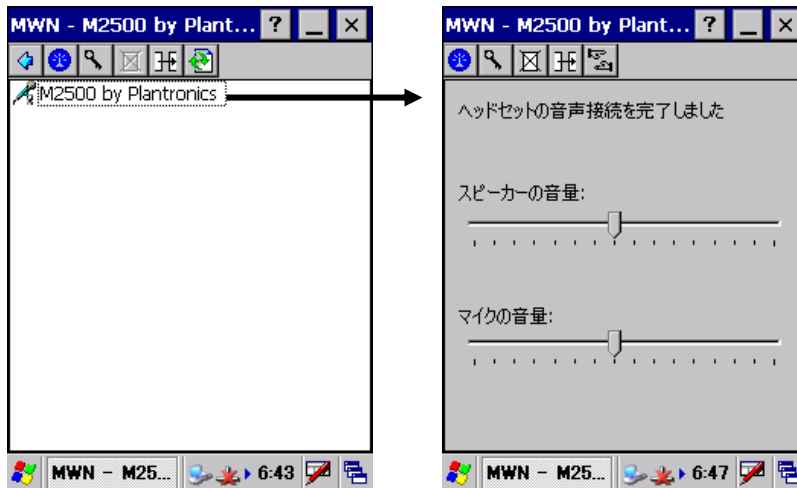




図 3-82

### ヘッドセットのボリュームの変更

ヘッドセット接続の完了後、Bluetooth 接続画面の「スピーカの音量」および「マイクの音量」を変更することにより、ヘッドセットのボリュームを変更することができます。

### ヘッドセット接続の切断

Bluetooth 接続画面のツールバーの  アイコンをタップして、ヘッドセット接続を切断します。

Bluetooth 接続画面を閉じる場合は、ツールバーの  アイコンをタップします。



### 3.23.3 マイデバイス画面(各種設定画面)

デバイス一覧画面の「メインメニュー」-「マイ デバイス」を選択すると、以下のマイデバイス画面を表示して、Bluetooth 接続ツールの設定を変更する事ができます。



図 3-83

マイデバイス画面に表示する設定項目を以下に示します。

表 3-17 設定項目アイコン一覧

項目	機能
サービス	使用可能なサービスの設定
設定	Bluetooth 接続ツールの設定
共有フォルダ	Bluetooth FTP の共有フォルダ設定

## サービス設定

Bluetooth 接続ツールで使用するサービス(プロファイル)を選択します。

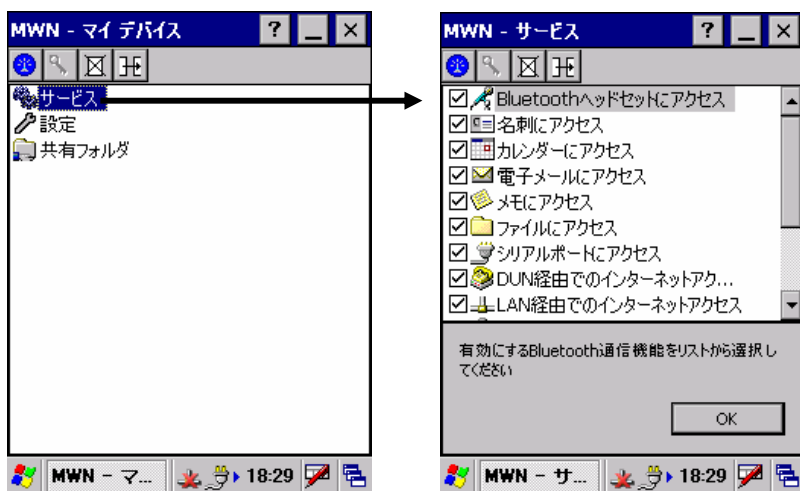


図 3-84

サービス設定画面で表示するサービスの一覧を以下に示します。

表 3-18 サービス一覧

項目	機能
名刺にアクセス	名刺ファイル転送(クライアント)
カレンダーにアクセス	カレンダー送信
電子メールにアクセス	Eメール送信
メモにアクセス	メモファイルの送信
ファイルにアクセス	Bluetooth FTP ファイル転送(クライアント)
シリアルポートにアクセス	シリアルポート接続(クライアント)
DUN 経由でのインターネットアクセス	Bluetooth ダイアルアップ接続
LAN 経由でのインターネットアクセス	Bluetooth LAN アクセスポイントとの接続
PAN 経由でのインターネットアクセス	Bluetooth PAN アクセスポイントとの接続
Bluetooth ヘッドセットにアクセス	Bluetooth ヘッドセットとの接続(クライアント)
ファイルを共有	Bluetooth FTP ファイル転送(サーバ)
全ての PIM アイテムを共有する	OBEX ファイル受信(サーバ)
シリアルポートを共有	シリアルポート接続(サーバ)
音声ゲートウェイを共有	Bluetooth ヘッドセットとの接続(サーバ)

チェックを On にするとサービスが有効になり、チェックを Off にするとサービスが無効になります。無効としたサービスは、Bluetooth デバイスのサービス一覧に表示しません。

## 共有フォルダ設定画面

Bluetooth FTP 通信をサーバモードで使用する場合に使用する共有フォルダを設定します。

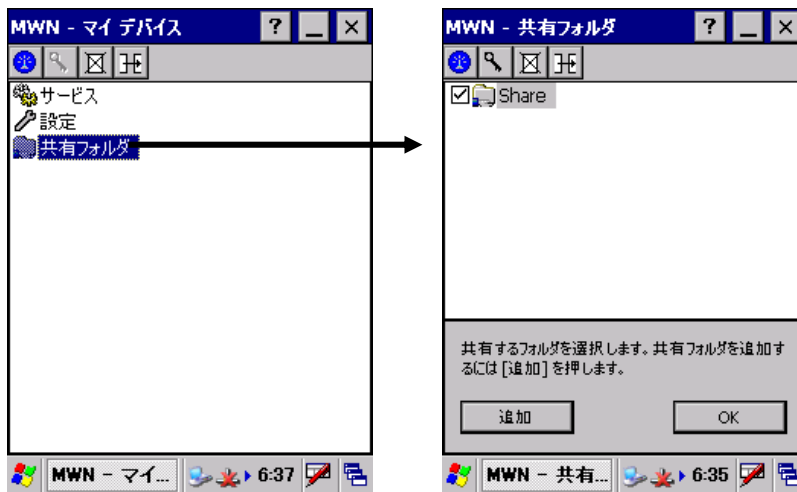


図 3-85

## 共有フォルダの作成

Bluetooth FTP 通信で使用する共有フォルダを作成します。

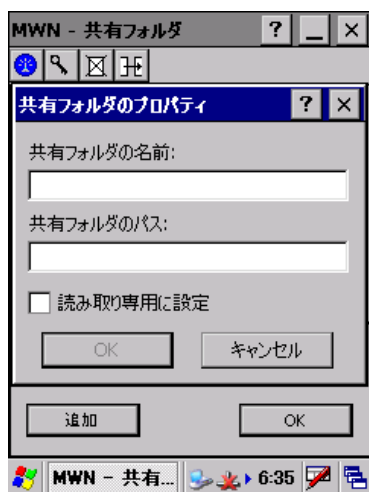


図 3-86

### 共有フォルダの名前

共有フォルダの名前を設定します。

ここで設定した名前を、マスターのデバイスが FTP 接続を実行したときに表示します。

### 共有フォルダのパス

共有フォルダのパスを設定します。

ここで設定したパスが、マスターのデバイスが FTP 接続を実行したときにアクセスできるようになります。

### 読み取り専用

共有フォルダを読み取り専用を設定します。

読み取り専用に設定した共有フォルダには、ファイルを書き込むことができません。

## 共有フォルダの削除

共有フォルダを削除するには、削除対象共有フォルダのコンテキストメニューから「削除」を選択します。

## 設定画面

「サービス」「共有フォルダ」以外の Bluetooth 接続ツールの設定を変更します。

### [デバイス]タブ

DT-9800 の Bluetooth デバイス名を設定します。  
他の Bluetooth デバイスが DT-9800 を探索したとき、ここに設定したデバイス名が表示されます。

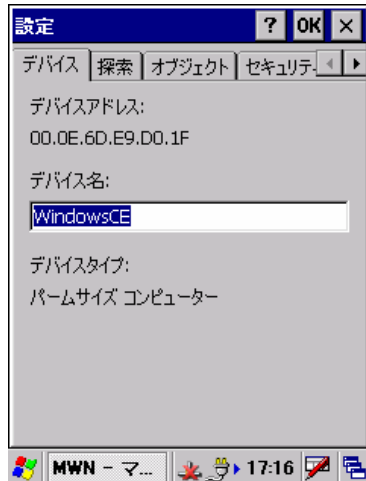


図 3-87

#### デバイスアドレス

Bluetooth アドレスを表示します。

#### デバイス名

Bluetooth デバイス名を設定します。  
(ASCII 文字で最大 100 文字)

#### デバイスタイプ

Bluetooth デバイスの種類を表示します。

### [探索]タブ

Bluetooth デバイスの探索に関する設定を行います。

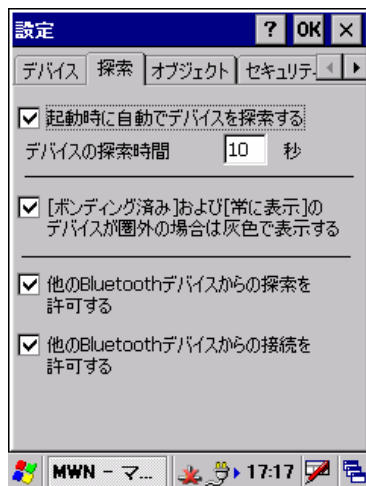


図 3-88

#### 起動時にデバイスを自動的に発見

Bluetooth 接続ツール起動時に、デバイス探索を自動的に実行します。

#### デバイスの検索対象

デバイス探索を行う時間を、秒単位で設定します。

#### [ボンディング済み]および[常に表示]に該当するデバイスが圏外の場合は灰色で表示する

‘信頼済み’と‘常に表示する’に設定した Bluetooth デバイスが、デバイス探索で見つからなかった場合は、灰色で表示します。

#### 他の Bluetooth デバイスからの探索を許可する

DT-9800 をスレーブモードで使用するとき、DT-9800 が他の Bluetooth デバイスから発見できるかを設定します

#### 他の Bluetooth デバイスからの接続を許可する

DT-9800 をスレーブモードで使用するとき、DT-9800 が他の Bluetooth デバイスから接続できるかを設定します。

## [オブジェクト]タブ

OBEX ファイル転送で送信するファイルを設定します。



図 3-89

### 受信フォルダの場所

Object Push 通信でファイルを受信するフォルダを指定します。

### オブジェクトの種類

「名刺」「カレンダー」「電子メール」「メモ」の中から、送信するオブジェクトの種類を選択します。

### オブジェクトの場所

オブジェクトの種類で選択したオブジェクトに対応する送信ファイルを指定します。

## [セキュリティ]タブ

Bluetooth 規格で定められているセキュリティ機能の設定を行います。

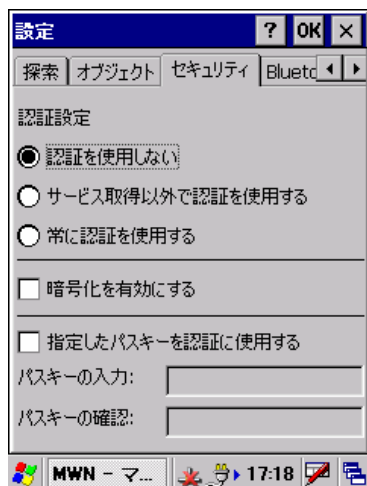


図 3-90

### 認証設定

Bluetooth 接続の際に認証を行うかどうかの設定を行います。

#### 認証を使用しない

Bluetooth 接続の際に認証を行いません。

#### サービス取得以外で認証を使用する

サービス取得以外の Bluetooth 接続の際に認証を行います。

#### 常に認証を使用する

サービス取得を含めた全ての Bluetooth 接続の際に認証を行います。

認証を有効にすると、接続時に PassKey 入力画面が表示されます。

#### 暗号化を有効にする

Bluetooth 通信の暗号化を有効にするかどうかの設定を行います。

暗号化を有効にすると、接続のときに PassKey 入力画面が表示されます。

#### 指定したパスキーを認証に指定する

通常、Bluetooth 認証の際には PassKey 入力画面が表示されますが、ここに PassKey を設定しておくことで、PassKey 入力画面が表示されずに自動的に PassKey 交換を実行します。

## [Bluetooth V1.2]タブ

Bluetooth バージョン 1.2 でサポートする、Fast Connection 機能と AFH 機能 (適応型周波数ホッピング機能) の設定を行います。

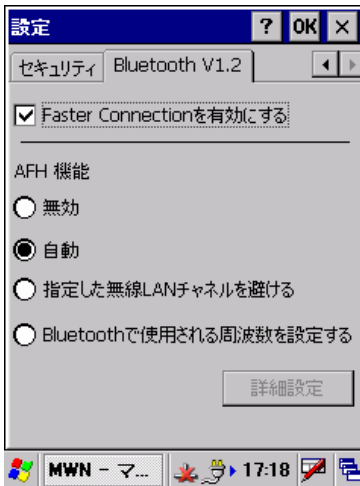


図 3-91

### Faster Connection を有効にする

Faster Connection 機能 (Bluetooth 接続短縮機能) を有効にするかどうかを設定します。

### 無効

AFH 機能を無効に設定します。

### 自動

AFH 機能を自動モードで使用する設定にします。

### 指定した無線 LAN チャンネルを避ける

AFH 機能において、指定した無線 LAN チャンネルに対応する周波数帯域を使用しない設定にします。

### Bluetooth で使用される周波数を設定する

Bluetooth に割り当てられている周波数帯域 (2402~2480MHz) のうち、実際に使用する周波数帯域を直接指定します。

### 詳細設定

AFH 機能で「指定した無線 LAN チャンネルを避ける」または「Bluetooth で使用される周波数を設定する」を選択した場合の詳細な設定を行います。

## [詳細設定]画面

[Bluetooth V1.2]タブの AFH 機能で「指定した無線 LAN チャンネルを避ける」または「Bluetooth で使用される周波数を設定する」を選択した場合、ここで詳細な設定を行います。



図 3-92

### Bluetooth が使用しない無線 LAN のチャンネル

無線 LAN チャンネルを指定して、対応する周波数帯域を Bluetooth 側で使用しません。

Bluetooth が使用しない無線 LAN チャンネルは、最大で 3 チャンネル分設定可能です。

### Bluetooth が使用する周波数

Bluetooth が使用する周波数帯域を直接指定します。

周波数の範囲を指定して「追加」ボタンをタップすると、指定した範囲の周波数帯域がリストに追加されます。複数の周波数帯域を指定する場合は、同じ操作を繰り返します。

リストに追加した周波数帯域を削除する場合は、リスト上にある周波数帯域を選択して「削除」ボタンをタップします。選択した周波数帯域がリストから削除されます。

- ※ 「指定した無線 LAN チャンネルを避ける」「Bluetooth で使用される周波数を設定する」のいずれの設定においても、使用可能な Bluetooth 周波数の合計が 20MHz 未満の場合は、エラーが表示されます。使用可能な Bluetooth 周波数が 20MHz 以上になるように再設定してください。
- ※ 「指定した無線 LAN チャンネルを避ける」の設定において、無線 LAN のチャンネル番号と Bluetooth が使用しない周波数の対応については、以下の表を参照してください。

表 3-19

無線 LAN チャンネル番号	Bluetooth が使用しない 周波数範囲 (MHz)	無線 LAN チャンネル番号	Bluetooth が使用しない 周波数範囲 (MHz)
1	2402 — 2423	8	2436 — 2458
2	2406 — 2428	9	2441 — 2463
3	2411 — 2433	10	2446 — 2468
4	2416 — 2438	11	2451 — 2473
5	2421 — 2443	12	2456 — 2478
6	2426 — 2448	13	2461 — 2480
7	2431 — 2453	14	2473 — 2480

### 3.23.4 ショートカット操作

指定した Bluetooth デバイスのサービスをショートカットに登録すると、次回からはショートカットをダブルタップすることにより、簡単に Bluetooth 接続を実行することができます。

また、ショートカットに登録済みの設定を「自動接続」に設定すると、Bluetooth 接続ツール起動時に自動的に接続することができます。

#### ショートカットの登録

ショートカットの登録は、「サービス一覧」画面で行います。

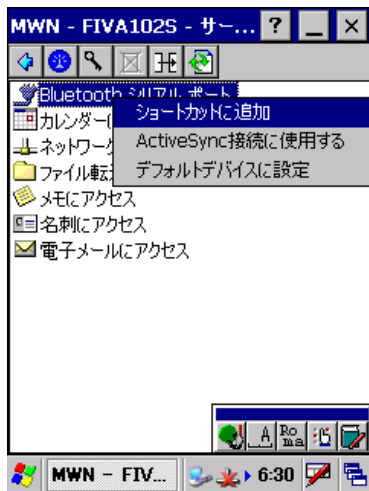


図 3-93

登録対象のサービスを選択し、コンテキストメニューまたはマルチメニューの「ショートカットに追加」を選択して、ショートカットを作成します。



## ショートカットによる接続

ショートカットを使用して接続を行う場合は、「メインメニュー」-「ショートカット」メニューを選択して、以下のショートカット一覧画面を表示します。

### ショートカット一覧画面

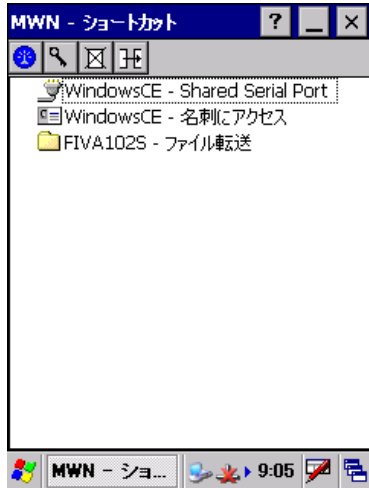


図 3-94

### メニュー構成

ショートカット一覧画面のメインメニュー項目は、デバイス一覧画面と同じです。

ショートカット一覧画面のコンテキストメニュー、およびマルチメニューの項目を以下に示します。

表 3-20 コンテキストメニュー/マルチメニュー項目一覧

項目	機能
接続	指定したショートカットを使用して Bluetooth 接続を実行します
ショートカットの削除	指定したショートカット設定を削除します。
自動的に接続する	指定したショートカットを自動接続設定にします

## 接続

ショートカット設定に従って Bluetooth 接続 (OBEX の場合はファイル転送) を実行します。  
ショートカットをダブルタップした場合も、同様の動作を実行します。

## 自動的に接続する

ショートカットのコンテキストメニューから「自動的に接続する」を選択すると、次回から Bluetooth 接続ツール起動時に自動的に接続を実行します。

「自動的に接続する」を設定したショートカットは、アイコンの左側に星印のマークが表示されます。



図 3-95

すでに自動接続が設定されているショートカットに対して、コンテキストメニューの「自動的に接続する」を選択した場合には、自動接続設定を解除します。

## ショートカットの削除

ショートカットのコンテキストメニューから「ショートカットの削除」を選択して、ショートカット設定を削除します。

### 3.23.5 デフォルトデバイス操作

デフォルトデバイスとは、接続するデバイスを事前に設定する機能です。

通常、デフォルトデバイスの設定は、Bluetooth ライブラリにて行う必要がありますが、「シリアル」、「ダイヤルアップ」、「ヘッドセット」のサービスに関しては、Bluetooth 接続ツールから設定することができます。

ただし、Bluetooth 接続ツールは、デフォルトデバイスの設定および解除のみを行い、デフォルトデバイスによる接続動作は行いません。Bluetooth 接続ツールを使用して自動接続を行う場合には、ショートカット機能を使用してください。

#### デフォルトデバイスの設定

サービス一覧画面の「コンテキストメニュー」-「デフォルトデバイスに設定」を選択します。

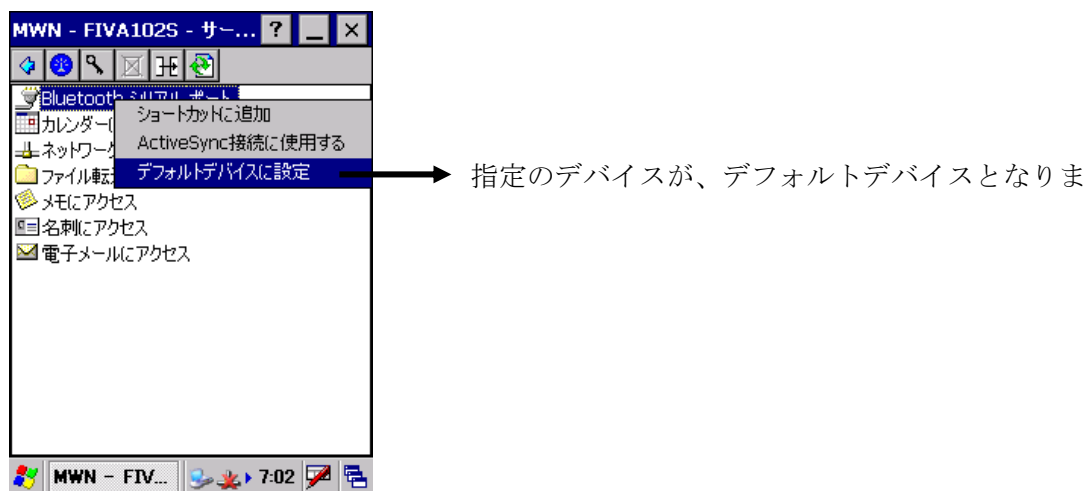


図 3-96

## デフォルトデバイスの表示

デバイス画面の「メインメニュー」-「デフォルトデバイス」を選択します。

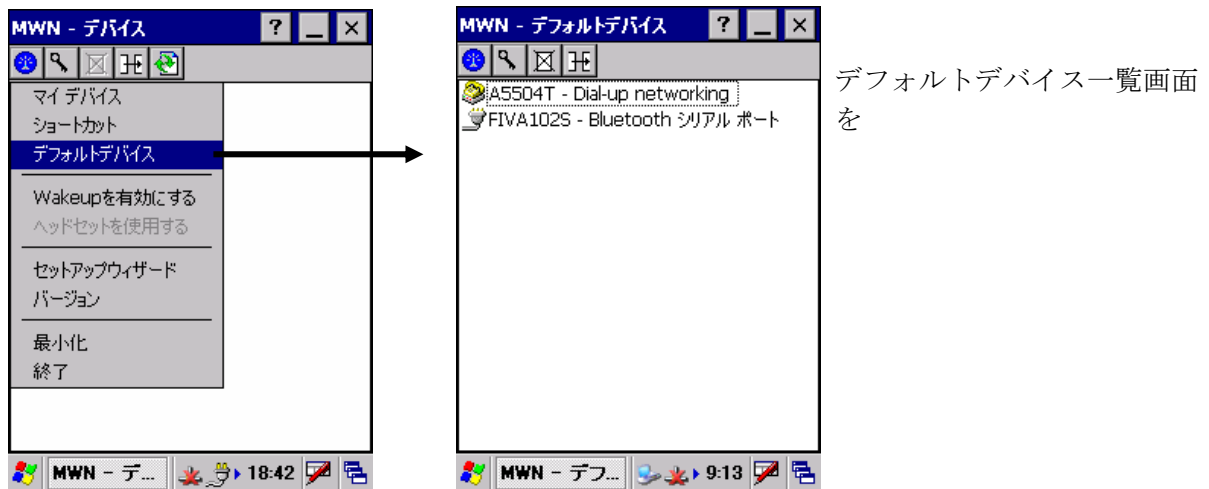


図 3-97

## デフォルトデバイスを解除

デフォルトデバイス一覧画面で、デフォルトデバイスの「コンテキストメニュー」-「解除」を選択します。

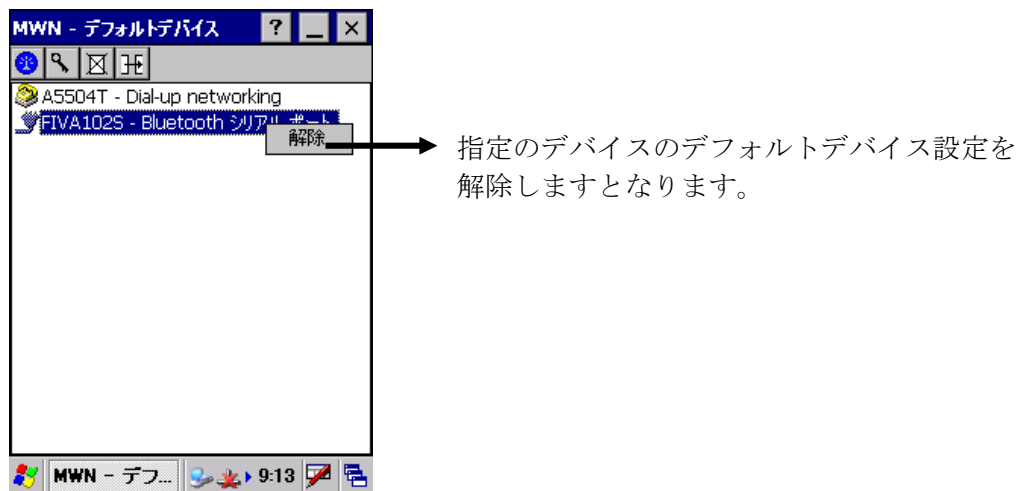


図 3-98

### 3.23.6 セットアップウィザード画面

セットアップウィザードを使用して、Bluetooth 接続ツールの初期設定を行います。

#### 初期設定の手順

デバイス一覧画面の「メインメニュー」-「セットアップウィザード」を選択すると、以下の画面を順次表示します。

1. ようこそ画面
2. サービス設定画面
3. 共有フォルダ画面
4. 終了画面

それぞれの画面での設定内容を以下に示します。

#### 1. ようこそ画面

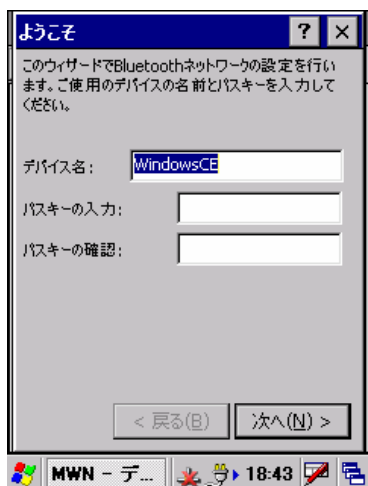


図 3-99

デバイス名とパスキーを、必要に応じて設定します。

デバイス名は、3.23.3 の設定内容に反映されます。  
パスキーは、3.23.3 の設定内容に反映されます。

#### 5. 2 サービス設定画面

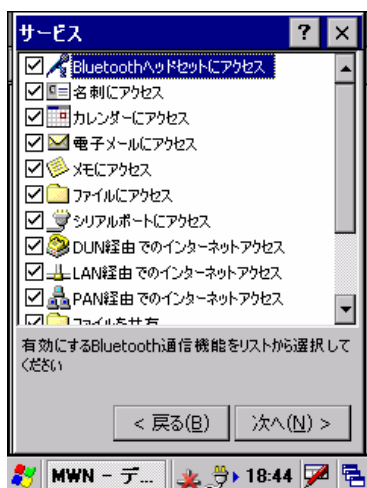


図 3-100

Bluetooth 接続ツールで使用するサービス(プロファイル)を選択します。

チェックを On にしたサービスが有効になります。  
サービス設定は、3.23.3 の設定内容に反映されます。

## 6. 共有フォルダ設定画面



図 3-101

Bluetooth FTP通信をサーバモードで使用する場合に必要となる、共有フォルダを作成します。

共有フォルダ設定は、3.23.3 の設定内容に反映されます。具体的な設定方法については、3.23.3 を参照してください。

## 7. ウィザード終了画面

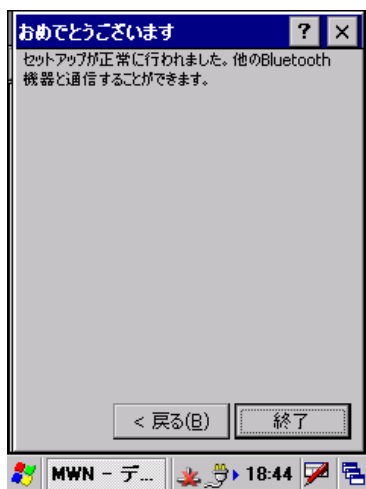


図 3-102

「終了」ボタンをタップすると、Bluetooth 接続ツールのデバイス一覧画面にもどります。

### 3.23.7 注意事項

#### ツール使用中の電源 Off/On 操作

Bluetooth 接続ツールを使用中に DT-9800 の電源の Off/On を実行すると、電源 On 後に Bluetooth 接続ツールが自動的にツールの再初期化を実行します。

再初期化の実行中、Bluetooth 接続ツールの画面下に「スタックを再初期化中です。お待ちください...」と表示されます。このメッセージが表示されている間は、Bluetooth 接続ツールを操作しないでください。


ただし、Bluetooth 接続ツールが以下の状態の場合に電源 Off/On を行ってしまった場合には、画面の指示に従って操作を行ってください。

#### デバイス探索中に電源 Off/On を実行した



図 3-103

Bluetooth 接続ツールがデバイス探索を実行中に DT-9800 の電源を Off/On すると、電源 On 後にツールの再初期化を実行した後、メッセージを表示します。

この場合、デバイス探索が完全に完了していません。ツールバーの  (更新) ボタンをタップして、再度デバイス探索を実行してください。

#### 他のデバイスと接続中に電源 Off/On を実行した



図 3-104

Bluetooth 接続ツールが他のデバイスと接続中に DT-9800 の電源を Off/On すると、電源 On 後にツールの再初期化を実行した後、メッセージを表示します。

この場合、Bluetooth 接続も切断されます。再度 Bluetooth 接続動作を行ってください。

## 3.24 PC Card電源

PC Card への電源供給の設定を行います。

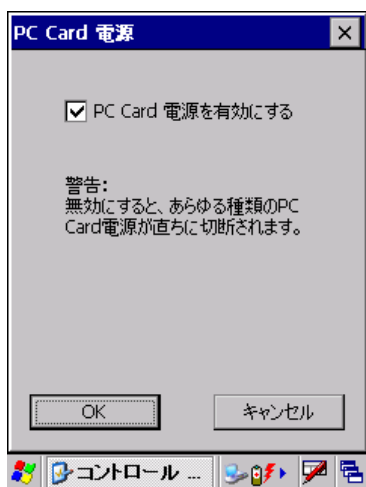


図 3-105

### “PC Card 電源を有効にする”

PC Card に電源供給を行う場合は、チェックボックスをオンにします。



## 3.25 パワーマネージメント

パワーマネージメントのオプションを設定します。

### [バッテリー]タブ

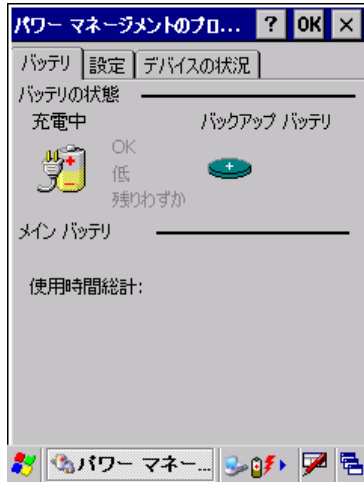


図 3-106

メインバッテリーとバックアップバッテリーの状態を表示します。

## [設定]タブ

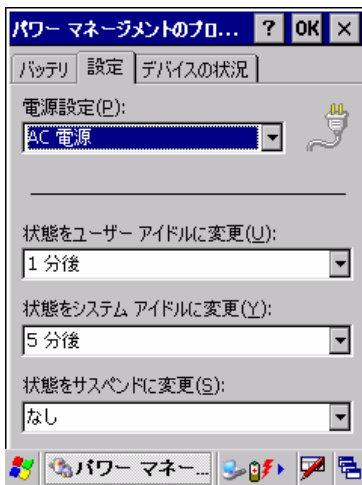


図 3-107

### “電源設定(P)”

設定対象の電源設定を“バッテリー電源”、“AC 電源”から選択します。

### “状態をユーザーアイドルに変更(U)”

ユーザーアイドル状態に移行するまでの時間を選択します。

### “状態をシステムアイドルに変更(Y)”

システムアイドル状態に移行するまでの時間を選択します。

※ ユーザーアイドル・システムアイドルは、設定された時間に OS 内部でイベントが発生し、周辺デバイスに対してスリープやスタンバイ状態にするためのものです。

※ DT-9800 においては、必要なときにデバイスに電源を入れ、使用後には電源を切るという省電力設計になっているため、上記の設定をしても系統的に状態は変わりません。(CPU は上記設定に関係なく、実行プロセスがなくなればアイドル状態になり、消費電流を抑えます)

### “状態をサスペンドに変更(S)”

サスペンド状態に移行するまでの時間を選択します。

サスペンドは、実行するべきプロセスがなく、キー入力やタッチパネル押しなどのアクティビティが無くなつて、本体電源が OFF するまでの時間を示しています。

オートパワーオフまでの時間は、“状態をユーザーアイドルに変更”、“状態をシステムアイドルに変更”、“状態をサスペンドに変更”を合計した値になります。最短時間は 3 分です。

## [デバイスの状況]タブ



図 3-108

デバイスの電源レベルを表示します。

## 3.26 CPUスピード設定

CPU の動作スピードを設定します。

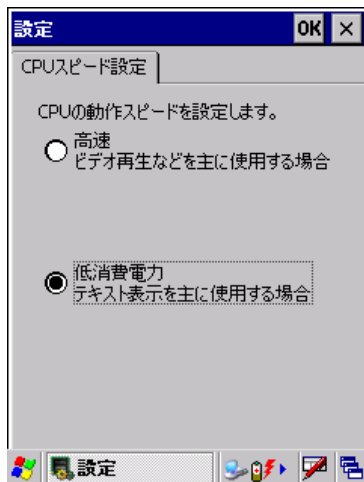


図 3-109

### “高速”

CPU 動作周波数を、400 MHzに設定します。

### “低消費電力”

CPU 動作周波数を、200 MHz に設定します。

## 3.27 パスワード

本体起動時に入力するパスワードを設定します。

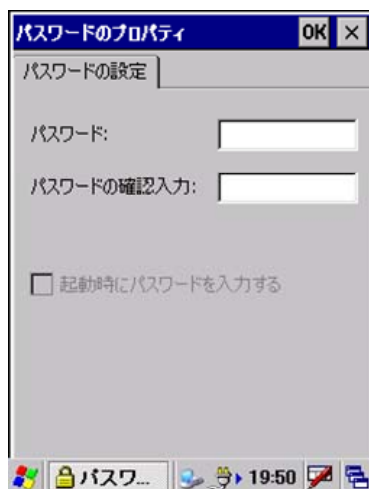


図 3-110

### “パスワード”

パスワードを指定します。

パスワードに利用できる文字は、数字のみです。

### “パスワードの確認入力”

“パスワード”で指定したパスワードを確認のため再入力します。

### “起動時にパスワードを入力する”

本体起動時にパスワード入力を要求する場合は、チェックボックスをオンにします。

## 4. アプリケーションプログラム

この章では、DT-9800 のスタートメニューから起動できる、アプリケーションプログラムについて説明します。

アプリケーションプログラムには、以下のものがあります。

表 4-1

名前	説明	CASIO	MS
Internet Explorer	インターネット、イントラネットの Web ページを表示	○	
エクスプローラ	ファイル管理プログラム		○
コマンドプロンプト	システムを DOS コマンドで操作		○
リモートデスクトップ接続	リモートデスクトップ接続のクライアント		○
ActiveSyncクライアント	ActiveSync 接続のクライアント		○
受信トレイ	電子メールの送受信ソフト	○	
メディアプレイヤー	MediaPlayer9 ベースのメディアプレイヤー		○
ターミナル	TTY/VT-100 エミュレータ		○
Microsoft ワードパッド	リッチテキストエディタ		○
ファイルビューア	Word、Excel、PowerPoint、PDF、画像ファイルの表示	○	
ClearVue Document	Word ファイルを表示	○	
ClearVue Image	画像ファイルを表示	○	
ClearVue PDF	PDF ファイルを表示	○	
ClearVue Presentation	PowerPoint ファイルを表示	○	
ClearVue Worksheet	Excel ファイルを表示	○	
バックアップツール	FlashDisk へのバックアップ、FlashDisk からのリストア	○	
本体間コピー	ユーザーデータの本体間コピー	○	
電卓	最大 12 桁の四則演算	○	
プリンタ デモアプリケーション	プリンタのデモ用プログラム	○	
FLCE	データアップダウンロードクライアント	○	

## 4.1 Internet Explorer

インターネットやイントラネットの Web ページを表示することができます。

### メニュー画面



図 4-1

- IE 6.0 for WindowsCE モジュールを採用しています。
- Kerberos、TLS Ver. 1.0、SSL Ver. 2.0 and 3.0、SGC をサポートします。
- JScript5.5 は、ECMA 262 language specification (ECMAScript Edition 3) に準拠します。






### メニュー構成

表 4-2

項目	機能
メニュー	
開く	HTML、JPEG ファイルの表示
名前を付けて保存	HTML、TEXT、GIF、BMP 形式での保存
編集	ページ内のテキストの編集
画面に合わせる	ページの縮小表示切り替え
アドレスバー	アドレスバー表示切り替え
文字のサイズ	表示文字の大きさの指定
言語の指定	表示文字の指定
全画面表示	メインメニュー、ツールバーなどを表示しない
履歴	履歴リストにあるページへの移動
ページの検索	ページ内のテキストの検索
オプション	セキュリティ等のオプション設定
プロパティ	ページのプロパティ表示
終了	ブラウザの終了

## ツールバー構成

表 4-3

	項目	機能
	戻る	直前に表示していたページに戻る
	進む	戻る前に表示していたページに移動する
	最新の情報に更新	現在のページを、最新の情報に更新
	ホームページ	ホームページに戻る
	お気に入り	お気に入りメニューの表示



## 4.2 エクスプローラ

ファイル管理プログラムです。

ファイルのコピー、移動、削除、フォルダの作成および削除などを行うことが可能です。

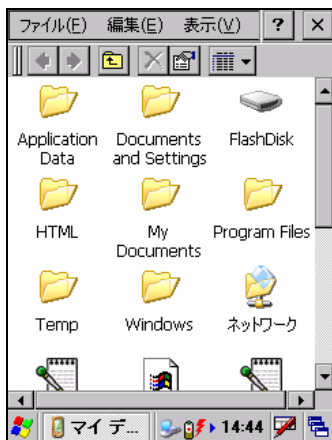


図 4-2

表 4-4 メニュー構成

項目	機能
ファイル	
開く	ファイル、フォルダを開く
新しいフォルダ	新しいフォルダの作成
削除	ファイル、フォルダの削除
名前の変更	ファイル名、フォルダ名の削除
プロパティ	ファイル、フォルダのプロパティを表示
送る	
デスクトップのショートカット	選択したファイル、フォルダのショートカットをデスクトップに作成
My Documents	選択したファイル、フォルダを My Documents コピー
編集	
元に戻す	一つ前の操作に戻る
切り取り	選択したファイル、フォルダを切り取る
コピー	選択したファイル、フォルダをコピー
貼り付け	切り取り、コピー操作したファイル、フォルダの貼り付け
ショートカットの貼り付け	切り取り、コピー操作したファイル、フォルダのショートカットの作成
すべて選択	表示しているファイル、フォルダをすべて選択
表示	
大きいアイコン	大きいアイコンで表示
小さいアイコン	小さいアイコンで表示
詳細	名前、サイズ、種類、更新日時を表示
アイコンの整列	
名前	アイコンを名前順に整列
種類	アイコンを種類人に整列
サイズ	アイコンをサイズ順に整列
日付	アイコンを日付順に整列
アイコンの自動整列	アイコンの整列で指定した順序で自動整列
最新情報の更新	一覧表示を最新の情報に更新

オプション	フォルダオプション画面を表示
アドレスバー	アドレスバーの表示/非表示を切り替え
ステータスバー	ステータスバーの表示/非表示を切り替え

## 4.3 コマンドプロンプト

Pocket CMD を起動して、システムを DOS コマンドで操作します。

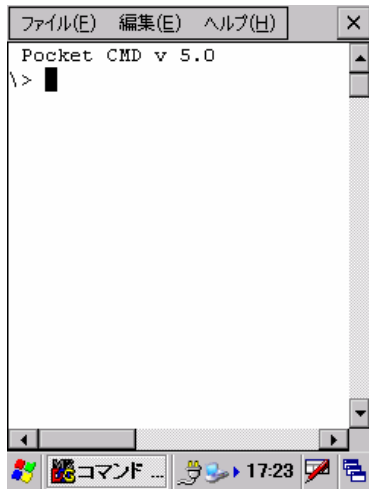


図 4-3

### メニュー構成

表 4-5

項目	機能
ファイル	
閉じる	アプリケーションの終了
編集	
コピー	選択範囲のコピー
貼り付け	切り取り、コピー操作したテキストの貼り付け
画面の消去	画面のクリア
画面バッファの設定	画面バッファのサイズ設定画面を表示
ヘルプ	
バージョン情報	バージョン情報の表示

利用できるコマンドは、help コマンドで確認できます。

## 4.4 リモートデスクトップ接続

RDP5.5 ベースのリモートデスクトップクライアントです。

Microsoft のリモートデスクトップ機能を用いて、ターミナルサービスを実行している Windows マシンをリモート操作します。

接続手順は、以下のとおりです。

1. 接続先コンピュータのコンピュータ名、または IP アドレスを入力して[接続]を押します。



図 4-4

2. 接続先コンピュータのユーザー名、パスワードを入力して、ログインします。

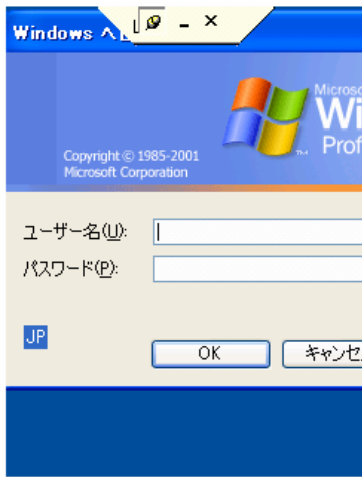


図 4-5

ログインが成功すると接続先コンピュータのデスクトップ画面が表示されます。

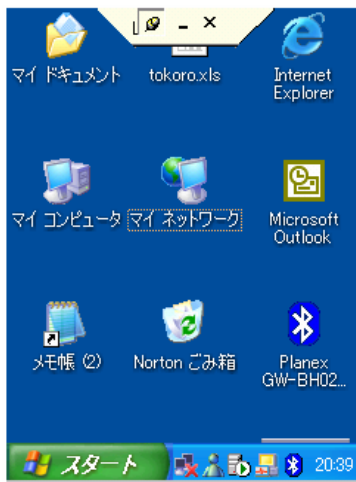


図 4-6

## 4.5 ActiveSyncクライアント

PC との通信を行うための ActiveSync クライアントプログラムです。

## 4.6 受信トレイ

受信トレイは、Microsoft の Inbox モジュールを使用したメールソフトです。メールの送受信, 転送, 返送, ファイル添付送信が可能です。

メイン画面と、表示または作成画面の 2 つの画面で構成されています。

### メイン画面

メイン画面は指定したフォルダ下にあるメールをリスト表示します。



図 4-7

メニューの構成は以下のとおりです。

表 4-6

項目	機能
ファイル	
開く	指定したメールを開く
移動	指定したメールを移動
コピー	指定したメールをコピー
削除	指定したメールを削除
フォルダ	フォルダの新規作成と名称変更
削除済みアイテムを空にする	[削除済みアイテム]内のメールを削除
アドレス帳	アドレス帳の編集
終了	終了
作成	
メッセージの作成	メールの新規作成
差出人へ返信	差出人への返信メールの作成
全員へ返信	全員への返信メールの作成
転送	転送メールの作成
状態	メール件数の表示
サービス	
接続	指定したサービスでメールサーバに接続
オフラインフォルダ	指定したフォルダをオフライン用にする
メールの送受信	メールの送受信
フォルダの同期	フォルダの同期
すべてクリア	選択したテキストの削除
全文をサーバーからコピー	メッセージの全文をサーバーからコピー
オプション	オプション設定

ツールバーアイコンの構成は以下のとおりです。

表 4-7

項目	機能
メッセージの作成	メールの新規作成
差出人へ返信	差出人への返信メールの作成
全員へ返信	全員への返信メールの作成
転送	転送メールの作成
削除	メールの削除
オフラインフォルダ	指定したフォルダをオフライン用にする
メールの送受信	メールの送受信
接続	指定したサービスでメールサーバに接続

## 表示／作成画面



図 4-8

表示画面は、メイン画面で指定したメールの、ヘッダ部(差出人、CC、件名)と本文を表示します。  
作成画面は、メイン画面で指定したメールの、ヘッダ部(宛先、CC、件名)と本文を表示します。

メニューの構成は以下のとおりです。

表 4-8

項目	機能
ファイル	
送信	作成したメールの送信
上書き保存	作成したメールの保存
添付ファイル	添付ファイルを開く／追加／表示
大きいフォント	大きいフォントで表示
閉じる	表示および作成画面を閉じる
編集	
元に戻す	1つ前の状態に戻す
切り取り	選択したテキストの切り取り
コピー	選択したテキストのコピー
貼り付け	クリップボードにあるテキストの貼り付け
すべて選択	画面上のすべてのテキストを選択状態にする
クリア	選択したテキストの削除
言語	表示する言語の指定
作成	
宛先の確認	入力した宛先のチェック
アドレス帳	アドレス帳の編集
ヘッダーの表示	ヘッダーの表示
オプション	オプション設定



ツールバーアイコンの構成は以下のとおりです。

**表 4-9**

項目	機能
送信	作成したメールの送信
切り取り	選択したテキストの切り取り
コピー	選択したテキストのコピー
貼り付け	クリップボードにあるテキストの貼り付け
ファイルの添付	添付ファイルの追加
添付ファイルの表示	添付ファイルの表示

## 4.7 メディアプレイヤー

WindowsMedia9 ベースのメディアプレイヤーです。

以下のオーディオデコーダと、ビデオデコーダをサポートします。

- WAV
- MP3
- WMA
- WMV
- MPEG4 (MPEG2 含む)

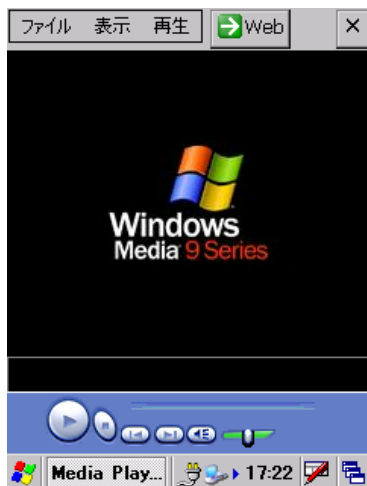


図 4-9

### メニュー構成

表 4-10

項目	機能
ファイル	
開く	再生するファイルを開く
閉じる	再生の中止
再生リスト	再生リストの表示
お気に入り	お気に入りに追加、整理
終了	アプリケーションの終了
表示	
ビデオのサイズ	ビデオ表示サイズを 50%、100%、200%から選択
フルスクリーン	表示を全画面表示
統計	再生時のネットワーク状態を表示
プロパティ	ファイルのプロパティを表示
オプション	再生オプションを表示
再生	
再生	ファイルの再生開始
一時停止	ファイル再生の一時停止
停止	ファイル再生の終了
ミュート	ファイル再生時の音声最小設定
連続再生	繰返し再生
シャッフル	再生リスト内のファイルのランダム再生

## 4.8 ターミナル

TTY、VT-100 ターミナルエミュレータです。

TTY または VT-100 ターミナルエミュレーションが必要なオンラインサービスや企業内サーバーに接続する場合に使用します。



図 4-10

“新しいセッション”をダブルタップして、セッションを作成します。

### [通信]タブ

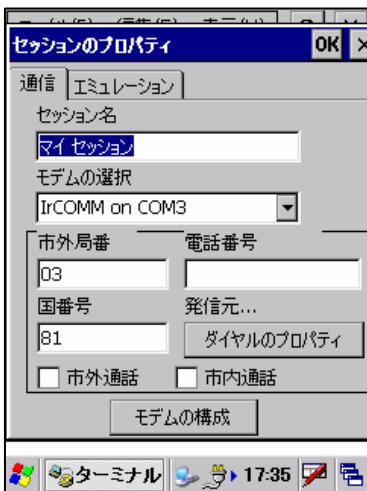


図 4-11

セッション名、モデム、電話番号情報を設定します。

## [エミュレーション]タブ

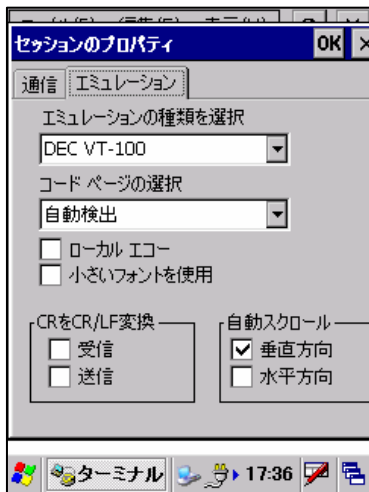


図 4-12

エミュレーション種類、コードページ、および表示設定を行います。

## 4.9 Microsoft ワードパッド

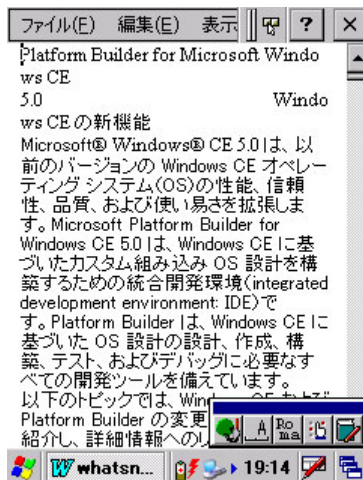


図 4-13

Microsoft Word の WindowsCE 版です。

ワード文書、ワードパッド文書、リッチテキスト形式文書、テキスト文書を表示、作成することができます。

### メニュー構成

表 4-11

項目	機能
ファイル	
新規作成	文書の新規作成
開く	既存の文書ファイルを表示
上書き保存	文書ファイルの上書き保存
名前を付けて保存	文書ファイルに名前を付けて保存
パスワード	文書にパスワードを付ける
印刷	文書を印刷
最近使ったファイル	最近表示した文書ファイル名を表示
閉じる	アプリケーションの終了
編集	
元に戻す	一つ前の動作に戻す
繰り返す	動作を繰り返す
切り取り	選択範囲の切り取り
コピー	選択範囲のコピー
貼り付け	切り取り、コピー操作部分の貼り付け
クリア	選択範囲の削除
すべて選択	すべての文書を選択
検索	検索ダイアログの表示
次を検索	次の項目を検索
置換	文字の置換ダイアログの表示
表示	
標準	標準表示
アウトライン	アウトライン表示
ウィンドウ幅に合わせる	横幅をウィンドウ幅に合わせて表示
全画面表示	全画面表示
ズーム	表示を 50%、75%、100%、125%、150%から選択可

## 4.10 ファイルビューア

PC で作成した Word、Excel、PowerPoint、PDF、画像ファイルを表示します。

### ClearVue Document



図 4-14

### メニュー構成

表 4-12

項目	機能
ファイル	
開く	対象ファイルを開く
最近使ったファイル	最近表示したファイルの表示
バージョン情報	バージョン情報を表示
閉じる	アプリケーションの終了
表示	表示倍率の指定

※表示可能なファイルは、Microsoft Word 97、Word 2000、Word XP で作成されたファイルです。

※ファイルを編集することはできません。

## ClearVue Image



図 4-15

## メニュー構成

表 4-13

項目	機能
ファイル	
参照	表示対象フォルダを参照
編集ウィンド	編集ウィンドの表示
スライドショー設定を開く	スライドショー設定ファイルを開く
スライドショー設定を上書き保存	スライドショー設定ファイルを上書き保存
スライドショー設定を名前を付けて保存	スライドショー設定ファイルを名前をつけて保存
バージョン情報	バージョン情報を表示
閉じる	アプリケーションの終了
編集	
イメージのソート	イメージを名前、ファイルタイプ、サイズ、日付でソート
表示	
画像情報	イメージの画像情報を表示
フルスクリーン表示	イメージを全画面表示
スライドショー	
開始	スライドショーを開始
設定	スライドショーの設定
イメージ非表示	スライドショー非表示画像の指定

※表示可能なファイルは BMP、JPEG、PNG ファイルです。

※ファイルを編集することはできません。

## ClearVue PDF

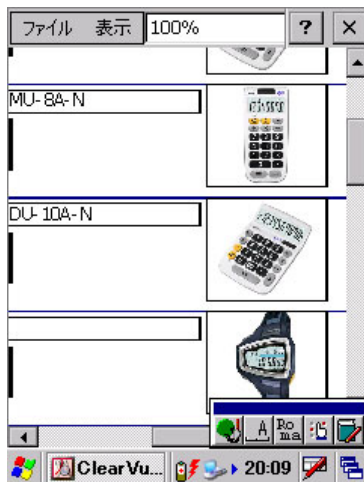


図 4-16

## メニュー構成

表 4-14

項目	機能
ファイル	
開く	対象ファイルを開く
最近使ったファイル	最近表示したファイルの表示
バージョン情報	バージョン情報を表示
閉じる	アプリケーションの終了
表示	表示倍率の指定

※ファイルを編集することはできません。



## ClearVue Presentation

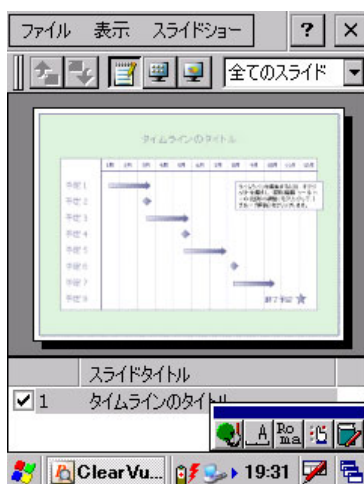


図 4-17

## メニュー構成

表 4-15

項目	機能
ファイル	
開く	表示対象フォルダを参照
最近使ったファイル	最近表示したファイルを表示
設定を保存	スライドショー設定を保存
既定の設定	スライドショー設定を表示
バージョン情報	バージョン情報を表示
閉じる	アプリケーションの終了
表示	
標準	ページを一枚ずつ表示
スライド一覧	全ページを表示
スライドショー	一枚ずつ全画面表示
ノート表示	ページのノート部分を表示
スライドショー	
スライドショー実行	スライドショーを実行
スライドショー設定	スライドショーの設定
スライドの選択	開始するスライドを設定

※表示可能なファイルは Microsoft PowerPoint 97、PowerPoint 2000、PowerPoint XP で作成したファイルです。

※ファイルを編集することはできません。

## ClearVue Worksheet

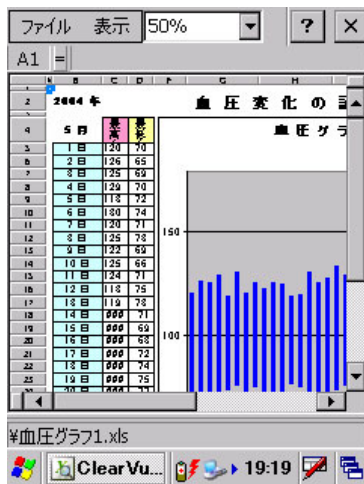


図 4-18

## メニュー構成

表 4-16

項目	機能
ファイル	
開く	対象ファイルを開く
最近使ったファイル	最近表示したファイルの表示
バージョン情報	バージョン情報を表示
閉じる	アプリケーションの終了
表示	表示倍率の指定

※表示可能なファイルは、Microsoft Excel 97、Excel 2000、Excel XP で作成されたファイルです。

※ファイルを編集することはできません。

## 4.11 バックアップツール

ユーザーデータの FlashDisk や SD カード、CF カードへのバックアップ、およびリストアを行います。

※ 注意

- バックアップ、およびリストアには、データ量により数十秒から数分かかります。
- 外部電源の供給状態でバックアップを行うことを推奨します。

### バックアップ/リストアの対象

- RAM 上のファイル
- レジストリ(パスワード、スタイラス補正情報は除く)
- 受信メール
- ブラウザのクッキー、テンポラリファイル
- 証明書

※バックアップできないもの:メモリ領域の変更値、パスワード、およびスタイラス補正情報、時計

### データ保存先

- FlashDisk
  - SD カード
  - CF カード
- それぞれの Backup フォルダです。

### バックアップパスワード

セキュリティ確保のため、バックアップ開始時にパスワードを入力することが可能です。  
リストア時に正しいパスワードを入力しないかぎり、データを復元することができません。

※ バックアップパスワードを設定すると、自動復旧ツールで自動リストアを行うことができなくなります。

## バックアップ手順

バックアップの手順は、以下のとおりです。

### 1. バックアップの開始



図 4-19

バックアップ先を選択し、“バックアップ”ボタンを押下します。

### 2. パスワードの指定

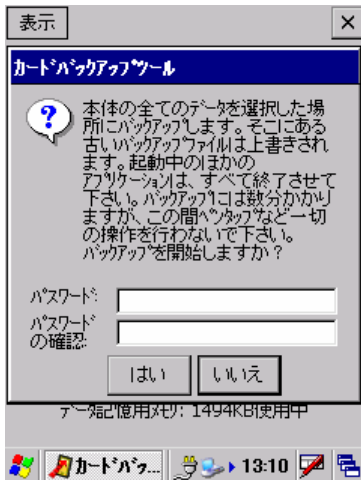


図 4-20

必要に応じて、パスワードを指定します。  
“はい”ボタンを押下します。

### 3. バックアップの実行

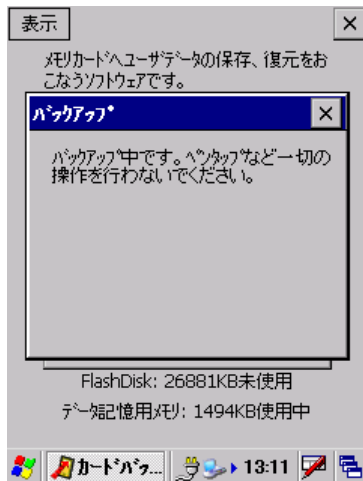


図 4-21

バックアップ実行中画面を実行します。

### 4. バックアップの完了

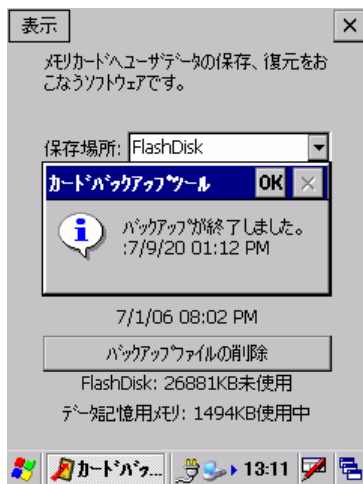


図 4-22

確認画面を表示します。“OK”ボタンを押下してください。

## リストア手順

リストアの手順は、以下のとおりです。

### 1. リストアの開始

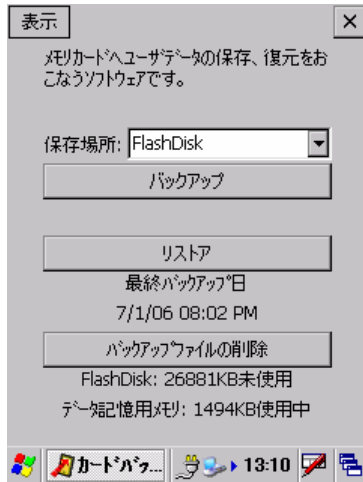


図 4-23

バックアップ元を選択し、“リストア”ボタンを押下します。

### 2. パスワードの入力

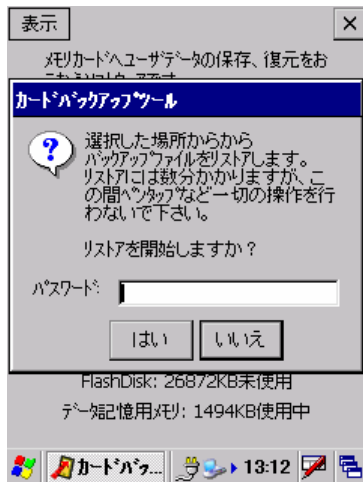


図 4-24

バックアップパスワードが指定してある場合は、パスワードを入力します。“はい”ボタンを押下します。

### 3. リストアの実行

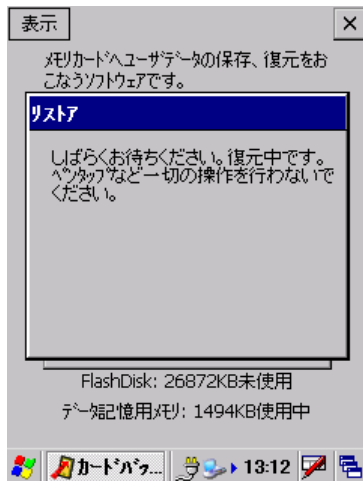


図 4-25

リストア実行中画面を実行します。

### 4. リストアの完了

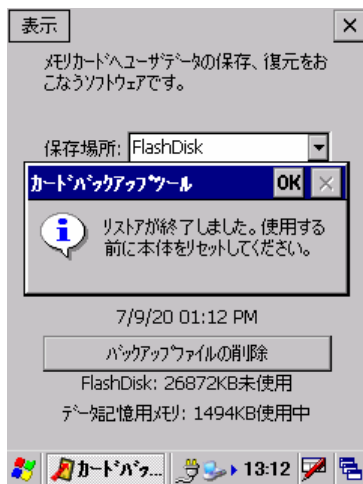


図 4-26

確認画面を表示します。“OK”ボタンを押下し、ツールを終了して本体をリセットしてください。

## コマンドライン起動

バックアップツールをコマンドとして使用する場合の起動方法は、以下のとおりです。

```
CF_Backup.exe <option> <ターゲット> [<パスワード>]
```

### パラメータ

#### option

- B: バックアップ指定
- R: リストア指定
- いずれかを指定
- 大文字小文字可

#### ターゲット

バックアップファイル保存ディレクトリ

#### パスワード

- 実行パスワード
- 必要に応じて指定

## エラーメッセージ一覧

表 4-17 エラーメッセージ一覧

	エラーメッセージ	原因
バックアップ時	バックアップファイルの書き込みが失敗しました。メモ리카ードが挿入されており、空き容量が充分にあることを確認してください。	ファイルがオープンのまま閉じていないものがあります
	バックアップファイルの書き込みが失敗しました。メニューに戻って、既存バックアップファイルを削除してから再実行してください。	メモリ容量不足のため、バックアップファイルのテンポラリファイルが、途中で書き込めなくなりました
	メインバッテリーが残りわずかです。バックアップを続ける前にメインバッテリーを交換するか、バッテリーの充電を行ってください。	バッテリー不足のため、バックアップファイルが書き込めなくなりました
リストア時	データを書き込むことが出来ませんでした。正しく復元されませんでした。	メモリ容量不足のため、バックアップファイルのテンポラリファイルとバックアップファイルの交換ができなくなりました
	バックアップファイルを読み込むことが出来ませんでした。正しく復元されませんでした。	バックアップファイルが壊れていて読み込めなくなりました
	メインバッテリーが残りわずかです。リストアを続ける前にメインバッテリーを交換するか、バッテリーの充電を行ってください。	バッテリー不足のため、バックアップファイルを読み込めなくなりました
	パスワードを確認できませんでした。パスワードと確認入力パスワードを一致させてください。	バックアップファイルが持っているパスワードと入力されたパスワードが異なります



## 4.12 本体間コピー

アプリケーションのインストールや各種設定を行ったマシンを親機とし、この親機と同じ内容を子機に複製（上書きコピー）を行います。

### 送信内容

表 4-18

対象	内容	備考
FlashDisk	FlashDisk のファイルすべて	

※ 子機を親機の完全な複製とするためには、コピーを行う前に、子機側を必ず本体 RAM をフルリセットし、FlashDisk をクリアな状態にしてください

### 本体間コピー手順

本体間コピーの手順は、以下のとおりです。

#### 親機側

1. 送信対象の指定と送信の開始

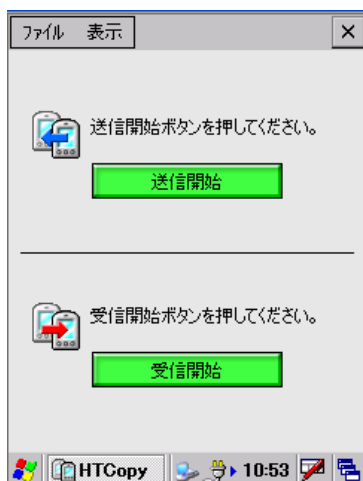


図 4-27

"送信開始"ボタンを押下します。

## 2. データ送信の実行

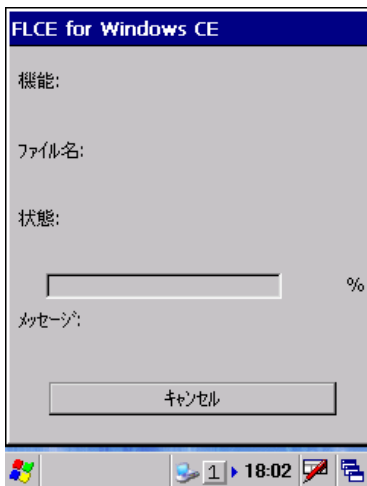


図 4-28

データ送信画面を表示します。

### 子機側

## 3. 受信の開始

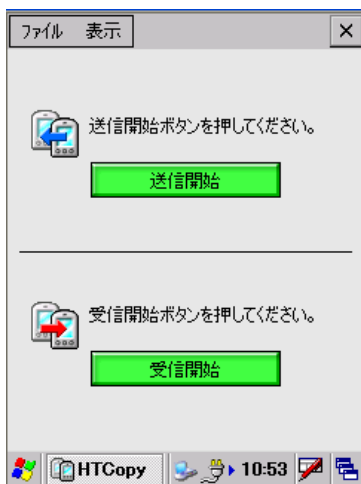


図 4-29

“受信開始”ボタンを押下します。

#### 4. データ受信の開始

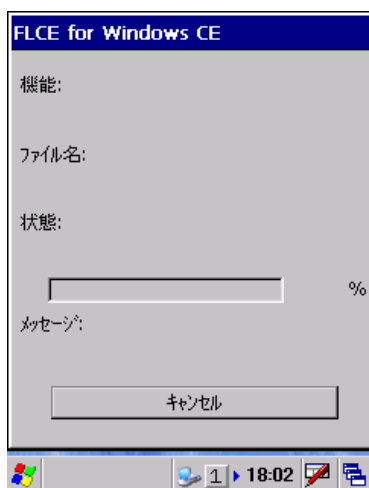


図 4-30

データ受信画面を表示します。

## 4.13 電卓

12桁の電卓アプリケーションです。

基本計算、定数計算、逆数計算、開平計算、パーセント計算の各種演算機能をサポートします。

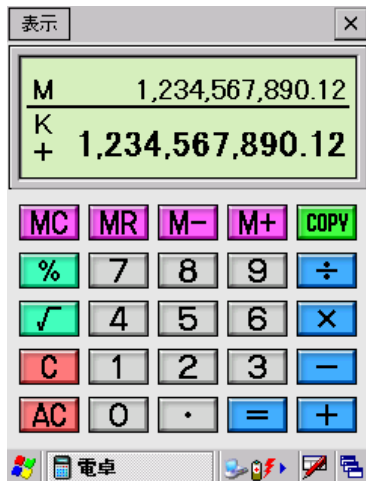


図 4-31

表示領域の上段にはメモリー内容を、下段には計算値(演算時の四則演算符号と定数(K)を含む)を表示します。

[COPY]ボタンを押すと計算値をクリップボードにコピーします。

画面右上の[×]ボタンを押すと電卓を終了します。

メニューの構成は以下のとおりです。

[編集]－[コピー]: 計算値をクリップボードにコピー

[編集]－[バージョン情報]: バージョン情報表示

演算仕様はカシオ電卓に準拠します。具体的な操作仕様について説明します。

### 基本計算

例題	操作	表示窓
$52+123-63=113$	53+ 123- 63=	+ 53. - 176. 113.
$2.3 \times 6 \times 5.2 = 71.76$	$2.3 \times 6 \times 5.2 =$	71.76
$(56 \times 3 - 89) \div 5.2 + 63 = 78.1923076923$	$56 \times 3 - 89 \div 5.2 + 63 =$	78.1923076923
$1234567890 \times 741852 = 915867892900170$	$1234567890 \times 741853 =$	E 915.867892900

### 定数計算

例題	操作	表示窓
$12+23=35$	$23++12=$	K+ 35.
$45+23=68$	$45=$	K+ 68.
$7-5.6=1.4$	$5.6--7=$	K- 1.4
$2-5.6=3.6$	$2=$	K- -3.6
$2.3\times 12=$	$12\times\times 2.3=$	K× 27.6
$4.5\times 12=54$	$4.5=$	K× 54.
$45\div 9.6=4.6875$	$9.6\div\div 45=$	K÷ 4.6875
$78\div 9.6=8.125$	$78=$	K÷ 8.125
$17+17+17+17=68$	$17++++=$	K+ 68.
$(2.3)^4 =27.9841$	$2.3\times\times\times\times=$	K× 27.9841

### 逆数計算

例題	操作	表示窓
$45\div 9.6=4.6875$	$9.6\div\div 45=$	K÷ 4.6875

### 開平計算

例題	操作	表示窓
$\sqrt{5} =2.23606797749$	$5\sqrt{\phantom{x}}$	2.23606797749
$\sqrt[4]{81} =3$	$81\sqrt{\phantom{x}}\sqrt{\phantom{x}}$	3.
$(\sqrt{2} + \sqrt{3})\times 3=$	$2\sqrt{\phantom{x}} + 3\sqrt{\phantom{x}} \times 3=$	9.43879310979

### パーセント計算

例題	操作	表示窓
割合 1500 円の 26%は	$1500\times 26\%$	390.
割増し 3620 円の 15%増しは	$3620\times 15\%+$	4163.
値引き 4750 円の 4%引きは	$4750\times 4\%-$	4560.
比率 75 個は 250 個の何%か	$75\div 250\%$	30.
変化率(増減比率) 141 万円は 120 万円の何%アップか	$141-120\%$	17.5
240 円は 300 円の何%引きか	$240-300\%$	-20.
売価設定 仕入価格 3540 円の品物に、売価の 25%の利益を見込んだとき、売価および利益額は	$3540+25\%$ (続けて) $-$	4720. 1180.

## メモリー計算

例題	操作	表示窓
$80 \times 9 = 720$ $-) 50 \times 6 = 300$ $20 \times 3 = 60$ (合計) 480	AC MC $80 \times 9$ M+ $50 \times 6$ M- $20 \times 3$ M+ MR	M 720. M 300. M 60. M 480.
$(2 \times 3) + (2 \times 3) + 4.5 + 4.5 - 4.5$ $= 16.5$	AC MC $2 \times 3$ M+ M+ $4.5$ M+ M+ M- MR	M 16.5
$193.2 \div 23 = 8.4$ $193.2 \div 28 = 6.9$ $123 - 193.2 = -70.2$	AC MC $193.2$ M+ $\div 23 =$ MR $\div 28 =$ $123 -$ MR $=$	M 8.4 M 6.9 M -70.2
$9 \times 6 + 3$ $8 \times (7 - 2)$	AC MC $7 - 2 \times 8$ M+ $9 \times 6 + 3 \div$ MR $=$	M 1425.

## エラー計算

例題	操作	表示窓
$1234567890 \times 741852 =$ $915867892900170$	$1234567890 \times 741853 =$	E 915.867892900

※ 桁オーバーになると“E”を表示し、小数点は「億の位」を表示します。

“E”表示後、計算を続ける時は[C]ボタンを、新たな計算を始めるときは[AC]ボタンを押します。

## 4.14 プリンタ デモアプリケーション

プリンタ デモアプリケーションは、テキストデータやグラフィックデータのサンプルを印刷します。

プリンタ デモアプリケーションは、デモンストレーション用であるため SDK として配付します。必要に応じて、本体の RAM や FROM へコピーして使用して下さい。

### 機能一覧

プリンタ デモアプリケーションの印刷内容を下記に示します。

表 4-19

機能	内容
テキスト印刷	サンプルのテキストデータを印刷します。
グラフィックデータ印刷	サンプルのグラフィックデータを印刷します。
画面イメージ印刷	現在表示されている画面を印刷します。
スタンプ登録・印刷	スタンプの登録と、印刷を行います。
外字登録・印刷	外字の登録と、印刷を行います。

### プリンタの設定について

下記の機能に対しては、コントロールパネルの「プリンタ設定」ツールで設定することが可能です。その他の機能に対しては、初期値、またはプリンタ デモアプリケーションの設定値で動作します。

表 4-20

機能	内容
用紙指定	用紙種類選択
印字品質指定	印字濃度指定
	印字速度指定
プリンタ制御	エラー時継続印字指定

※ 用紙幅は、80 mm 固定です。プリンタ デモアプリケーションを使用する場合は、必ず 80 mm 用紙を使用して下さい。

## プリンタ デモアプリケーション機能概要

### 起動画面

プリンタ デモアプリケーション起動時の画面です。

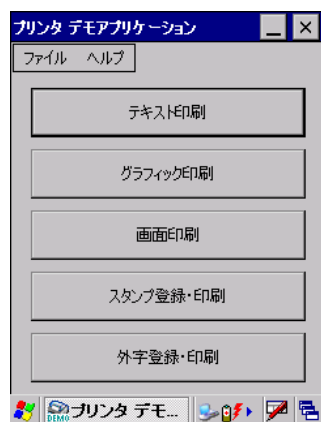


図 4-32

■「テキスト印刷」ボタン

テキスト印刷のデモンストレーションを行います。

■「グラフィック印刷」ボタン

グラフィック印刷のデモンストレーションを行います。

■「画面印刷」ボタン

デスクトップ画面や他のアプリケーション画面等のデモンストレーション印刷を行います。

■「スタンプ登録・印刷」ボタン

スタンプの登録と印刷デモンストレーションを行います。

■「外字登録・印刷」ボタン

外字の登録と印刷デモンストレーションを行います。



## 最小化とメニュー表示

### ■タスクトレイへの最小化

タイトルバー右横の最小化ボタンの押下により、プリンタ デモアプリケーションの画面が最小化され、タスクトレイ内にアイコンとして表示されます。

### ■アイコン化された状態

アイコン化された状態は、以下のようになります。



図 4-33

### ■アイコンからのメニュー表示

プリンタ・デモアプリケーションのアイコンのタップにより下記のメニューが表示されます。



図 4-34

### ■アイコン化の解除(最大化)

アイコン化状態の解除(最大化)を行う場合は、アイコンのタップにより表示されるメニュー内の「最大化」メニューを選択して下さい。

## ファイルメニュー

■「ファイル」メニューの「終了」メニューの選択により、プリンタ・デモアプリケーションを終了します。

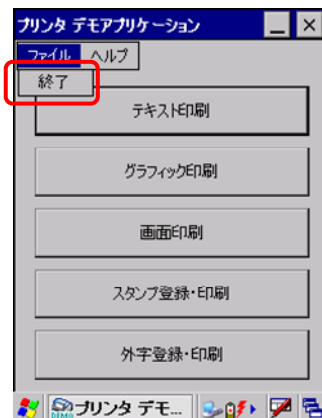


図 4-35

■プリンタ・デモアプリケーションの終了は、タスクトレイ内に最小化したアイコンのタップで表示されるメニューからも行うことができます。



図 4-36

## ヘルプメニュー

- 「ヘルプ」メニューの「バージョン情報」の選択により、バージョンダイアログを表示します。

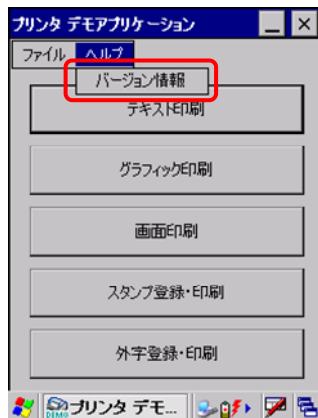


図 4-37

## バージョンダイアログ

- プリンタ デモアプリケーションのバージョン情報を表示します。



図 4-38

赤枠内の「Version \*.\*.\*」に、プリンタ・デモアプリケーションのバージョンが表示されます。

## プリンタ デモアプリケーションが表示するメッセージボックス

■印刷が正常に終了すると、下記のメッセージボックスが表示されます。

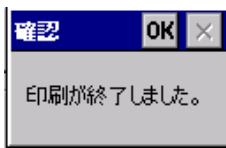


図 4-39

■登録が正常に終了すると、下記のメッセージボックスが表示されます。

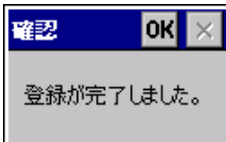


図 4-40

■印刷が正常に行えない状態の場合

プラテンオープンや、用紙なし等の理由により印刷が正常に終了しなかった場合は、エラーのメッセージボックスを表示します。

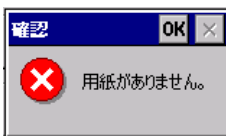


図 4-41

エラーメッセージが表示された場合は、メッセージ内容を確認して対応する処置を行って下さい。  
エラー発生時に該当エラー状態の解除後に継続して印刷することができます。

## エラー時の継続印字について

■プリンタ設定ツールのエラー時継続印字の設定状態により、プラテンオープンや、用紙なし等のエラー時に表示されるダイアログが異なります。

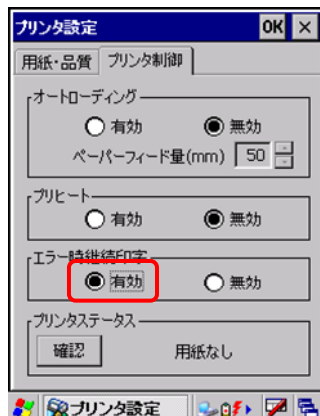


図 4-42

### ◆継続印刷

エラー時継続印字が「有効」状態に設定されている場合、エラー状態の解除後に継続して印刷する事ができます。

継続したい場合は、「再試行」ボタンを押下することで、印刷を継続することができます。

キャンセルボタンの押下により、印刷を中止します。

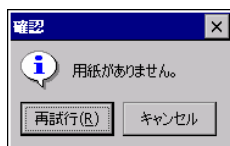


図 4-43

## テキスト印刷のデモンストレーション

■「テキスト印刷」ボタンの押下により、テキスト印刷のデモンストレーションを実行します。

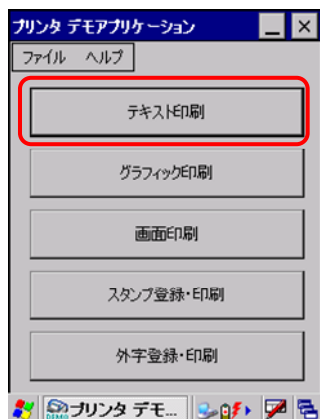


図 4-44

### ◆印刷の終了

テキスト印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

## グラフィック印刷のデモンストレーション

■「グラフィック印刷」ボタンの押下により、テキスト印刷のデモンストレーションを行います。

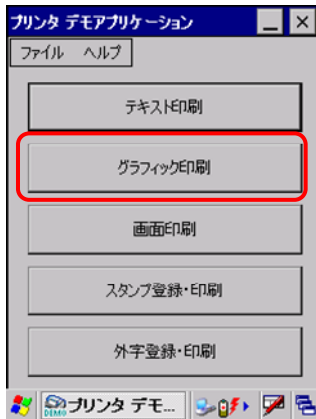


図 4-45

■「グラフィック印刷」ボタンの押下により、下記のダイアログが表示されます。

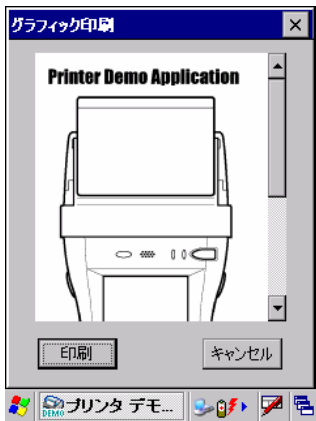


図 4-46

### ■グラフィック印刷の実行

ダイアログ内の「印刷」ボタンの押下により、ダイアログ内に表示されているグラフィックイメージの印刷が開始されます。

### ◆印刷の終了

グラフィック印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

## 画面印刷のデモンストレーション

■「画面印刷」ボタンの押下により、画面印刷のデモンストレーションを実行します。

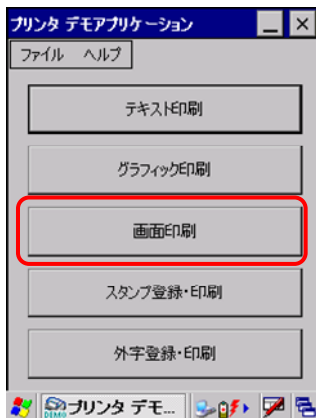


図 4-47

※「画面印刷」ボタンの押下では、プリンタ・デモアプリケーションのトップ画面が印刷されます。  
デスクトップ画面の印刷や、その他のアプリケーションウインドウ等の印刷は、最小化メニューより、「画面印刷」を実行して下さい。

### ◆印刷の終了

画面印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

### ■最小化メニューからの画面印刷

タスクトレイのプリンタ・デモアプリケーション・アイコンのタップで表示されるメニューからも画面印刷をおこなうことができます。

デスクトップ画面の印刷や、他のアプリケーションウインドウの印刷を行いたい場合は、最小化時のメニューより印刷を行って下さい。



図 4-48

### 印刷の終了

画面印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

## スタンプ登録・印刷のデモンストレーション

■「スタンプ登録・印刷」ボタンの押下により、スタンプ登録およびスタンプ印刷のデモンストレーションを行います。

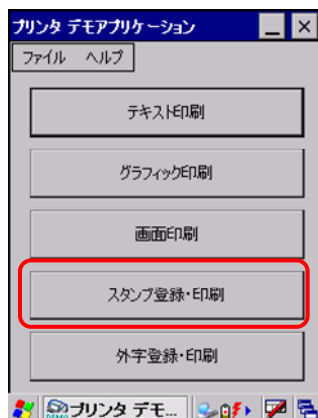


図 4-49

■「スタンプ登録・印刷」ボタンの押下により、下記のダイアログが表示されます。



図 4-50

### ■スタンプ登録の実行

ダイアログ内の「登録」ボタンの押下により、ダイアログ内に表示されているスタンプイメージの登録を行います。

### ◆登録の終了

スタンプの登録が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

### ■スタンプ印刷の実行

ダイアログ内の「印刷」ボタンの押下により、「登録」ボタンで登録したスタンプの印刷が行われます。

印刷は、「登録」ボタンで登録したスタンプデータが印刷されます。一度も登録を行っていない場合は、スタンプの印刷は行われません。

登録したスタンプデータはリセット後も有効ですが、フルリセット後は消去されます。(未登録状態となります。)

### ◆印刷の終了

スタンプの印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

## 外字登録・印刷のデモンストレーション

■「外字登録・印刷」ボタンの押下により、外字登録および外字印刷のデモンストレーションを行います。

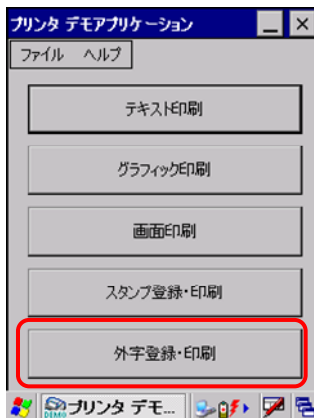


図 4-51

■「外字登録・印刷」ボタンの押下により、下記のダイアログが表示されます。



図 4-52

### ■ 外字登録の実行

ダイアログ内の「登録」ボタンの押下により、外字データの登録を行います。

#### ◆ フォントサイズを選択

登録できるフォントサイズは12ドット、16ドット、24ドットの3種類です。  
ラジオボタンにより登録するフォントサイズを選択して下さい。

#### ◆ 外字コードの選択

登録できる外字コードは Unicode の0xE100～0xE17F の間です。  
スピンコントロール(▲ボタンまたは▼ボタン)で登録する外字コードを選択して下さい。

#### ◆ 登録の終了

スタンプの登録が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

### ■ 外字印刷の実行

ダイアログ内の「印刷」ボタンの押下により、「登録」ボタンで登録した外字の印刷が行われます。

#### ◆ フォントサイズを選択

印刷する外字データのフォントサイズ(12ドット、16ドット、24ドット)を選択して下さい。



◆外字コードの選択

印刷する外字コードをスピコンコントロール(▲ボタンまたは▼ボタン)で選択して下さい。

印刷は、「登録」ボタンで登録した外字データが印刷されます。一度も登録を行っていない場合は、外字の印刷は行われません。

登録した外字データはリセット後でも有効ですが、フルリセット後は消去されます。(未登録状態となります。)

◆印刷の終了

外字印刷が正常に終了すると、終了を示すメッセージボックスが表示されます。

## 4.15 FLCE

I/O ボックスや無線 LAN 経由で、PC の LMWIN (アップダウンロードユーティリティ) とファイル転送を行います。

### コマンド入力画面



図 4-53

### 転送実行中表示画面



図 4-54

※ 詳細は、LMWIN に付属するマニュアルを参照してください。

## 5. ユーティリティ

ユーティリティは、主に、ユーザーのアプリケーションから、コプロセッサまたは補助プログラムとして使用されます。

ユーティリティの一覧は、以下のとおりです。

表 5-1

名前	説明	CASIO	MS
Welcomeウィザード	端末構築開始/日付と時刻の設定/所有者情報の設定	○	
自動セットアップ	リセット時のプログラム自動実行	○	
自動復旧ツール	フルリセット時の自動復旧	○	
入力パネル(SIP)	ソフトウェアキーボード		○
IE Cache削除ツール	IE のテンポラリファイルの削除		○
PocketIME	かな漢字変換、手書き入力		○
FCHKCE	データアップダウンロード結果の確認	○	
メモリ設定ツール	オブジェクトストアのサイズ変更	○	

※ ¥Windows フォルダ内の実行ファイルは、初期状態ではエクスプローラ画面に表示されない場合があります。表示させるには、エクスプローラのメニューから[表示]→[オプション]を選択し、「詳細設定」のチェックボックスを、すべてオフ状態に変更してください。

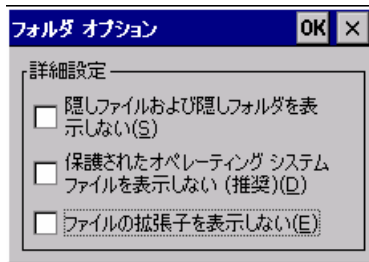


図 5-1

## 5.1 Welcomeウィザード

Welcome ウィザードを使用して、以下の設定を行います。

- タッチパネル調整
- オーナー情報入力
- 日付時間設定

それぞれの設定は、スキップすることが可能です。

※ “パスワードの設定”により、フルリセット時でも日付時間を設定しないことが可能です。

※ RTC クリアによるフルリセット時には、日付時間の設定を必ず表示します。

### 操作手順

フルリセットを実行すると、Welcome ウィザードの初期画面が表示されます。

### 起動画面のカスタマイズ

Welcome ウィザードの起動画面として、任意のビットマップを表示することが可能です。

任意のビットマップファイルを、“¥FlashDisk”フォルダに“FirstDisp.bmp”として保存します。

ファイルの画面サイズは、240\*320として下さい。

## 5.2 自動セットアップ

任意のアプリケーションを、自動的に実行します。

### 実行タイミング

自動セットアップの実行タイミングは以下のとおりです。

#### デバイスがリセットされた時

FlashDisk、SD カード、または CF カード内の Setup.exe、Restore.exe を実行します。

#### SD カードまたは CF カードが挿入された時

カード内の AutoRun.exe を実行します。

### 自動実行アプリケーション格納場所

自動セットアップが、自動実行するアプリケーション格納場所は、以下のとおりです。

- FlashDisk
  - SD カード
  - CF カード
- それぞれの CE¥ARM フォルダです。

### レジストリによるカスタマイズ

以下のレジストリの設定により、自動セットアップの動作をカスタマイズすることが可能です。

表 5-2

[HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Drivers¥CASIO¥UTIL]

キー名	設定値	意味	使用可/不可
AUTORUN	sz:"1"	SD カード挿入時に AutoRun.exe を起動	○
	sz:"2"	メモリーカード挿入時に AutoRun.exe を起動	○
SETUP	sz:"1"	リセット時にメモリーカードの Setup.exe を起動	○
	sz:"2"	リセット時に SD カードの Setup.exe を起動	○
	sz:"3"	リセット時にメモリーカードの Restore.exe を起動	○
	sz:"4"	リセット時に SD カードの Restore.exe を起動	○
FLSETUP	sz:"1"	リセット時に FlashDisk の Setup.exe を起動	○
	sz:"2"	リセット時に FlashDisk の Restore.exe を起動	○

※ レジストリを削除すると、対応する自動実行を抑止します。

※ 上記レジストリの変更は、フルリセットにより出荷時設定に戻ります。

※ 自動セットアップは、リセットおよびカード挿入時に毎回実行します。起動対象のアプリケーションで多重起動の抑制を行う必要があります。

## 5.3 自動復旧ツール

バックアップツールを使用して、システムデータのバックアップ、システムデータのリストア、ユーザー指定アプリケーションの自動実行を行います。

バックアップ時は、本ツールを実行すると、バックアップツールを起動し、バックアップを行います。

リストアの時は、フルリセット後のシステム起動時に、自動的にバックアップツールを起動してリストアを行います。

### バックアップ

バックアップの手順は、以下のとおりです。

1. Restore.exe の起動  
“¥Windows¥Restore.exe”を実行します。
2. Restore.exe の終了  
終了メッセージを表示します。“OK”ボタンを押下して Restore.exe を終了します。

### リストア

リストアの手順は、以下のとおりです。

1. Restore.exe の自動起動  
本体フルリセット後の“Welcome 画面”を表示してから約 10 秒後に、“¥FlashDisk¥CE¥ARM¥restore.exe”を自動的に起動します。  
※ Welcome 画面は、自動的に終了します。
2. キャリブレーションの実行  
キャリブレーションデータ“¥FlashDisk¥Calibrate.dat”が存在していない場合には、キャリブレーション設定画面を自動的に表示します。
3. 日付/時刻の設定  
日付/時刻設定を自動的に表示します。正しい日付と時刻を設定してください。
4. リストアの実行  
バックアップデータからのリストアを、自動的に実行します。
5. 本体リセット  
リストアリストア完了の約 5 秒後に本体を自動的にリセットします。

## 実行ログ

自動復旧の実行ログを、“¥FlashDisk¥CE¥ARM¥Restore.log”に保存します。

※ バックアップ/リストア合わせて最大 30 回分保持します。

※ 30 回を超えた場合は、古いログから削除します。

## リストア時のスキップ

自動リストア時に本体“5”キーを押していた場合、警告音を出力し処理をスキップします。

## 実行エラー条件

実行エラーが発生する条件は、以下のとおりです。

- ローバッテリー状態でバックアップ/リストアを行った。
- FlashDisk の空き容量が足りない状態で、バックアップを行った。
- メモリの空き容量が足りない状態で、バックアップ/リストアを行った。

## 5.4 入力パネル(SIP)

ソフトウェアキーボードです。

## 5.5 IE Cache削除ツール

Internet Explorer が使用しているテンポラリファイルを削除します。  
実行方法は、Windows フォルダにある Cache\_del.exe を起動するだけです。

## 5.6 PocketIME

カナ漢字変換を行います。人名および地名辞書をサポートします。

## 5.7 FCHKCE

PC の LMWIN (アップダウンロードユーティリティ) とファイル転送を行った結果を確認します。  
詳細は、LMWIN に付属するマニュアルを参照してください。

## 5.8 メモリ設定ツール

オブジェクトストアのサイズを変更するために使用します。  
実行ファイル名は、¥Windows フォルダにある SetMem.exe です。

SetMem は起動時に ¥FlashDisk フォルダの SetMem.txt からオブジェクトストアに指定するサイズを取得します。サイズの指定は KB 単位で行います。オブジェクトストアを 6MB に設定する場合は、単に「6144KB」と書き込んだ SetMem.txt を用意して下さい。SetMem.txt が存在しない場合は何も行いません。



## 6. ホストアプリケーション

この章では、PC で実行するホストアプリケーションについて説明します。

ホストアプリケーションの一覧は、以下のとおりです。

表 6-1

名前	説明	CASIO	MS
ActiveSync	データリンクの実行 (Windows XP / 2000 / 2003 用)		○
Windows Mobile Device Center (WMDC)	データリンクの実行 (Windows Vista 用)		○
LMWIN	データアップダウンロードの実行	○	
FCHK	データアップダウンロード結果の確認	○	

### 6.1 ActiveSync

DT-9800 内蔵の ActiveSync クライアントと連携して、データ通信を行います。

ActiveSync は、下記のサイトから入手可能です。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=6b6ae681-5bf9-48af-b6f9-f38270741f6a&displaylang=ja>

### 6.2 Windows Mobile Device Center (WMDC)

DT-9800 とデータ通信を行います。

Windows Vistaをご使用の場合は、Windows Mobile Device Centerを使用して、端末とPCを接続します。

Windows XPおよび、それ以前のOSの場合は、「6.1 ActiveSync」を参照してください。

Windows Mobile Device Center は、下記のサイトから入手可能です。

<http://www.microsoft.com/windowsmobile/devicecenter.mspx>

※ Windows Mobile Device Center 6.1 以降を使用してください。それ以前の Windows Mobile Device Center では Windows CE に対応していないため、接続することができません。

### 6.3 LMWIN

本体内蔵の FLCE ツールと連携して、データアップダウンロードを行います。

※ LMWIN は別途ご購入していただく必要があります。

※ 詳細は、LMWIN に付属するマニュアルを参照してください。

### 6.4 FCHK

LMWIN を利用した、データアップダウンロードの結果を確認します。

詳細は、LMWIN に付属するマニュアルを参照してください。

## カシオ計算機お問い合わせ窓口

### 製品に関する最新情報

- 製品サポートサイト（カシオペア・ハンディターミナル）

<http://casio.jp/support/pa/>

### 製品の取扱い方法のお問い合わせ

- 情報機器コールセンター



**0570-022066**

市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話・PHS 等をご利用の場合、**048-233-7241**

**カシオ計算機株式会社**

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

TEL 03-5334-4638(代)